

帝國十四回貴族院議事速記錄第十七號

〔小原書記官朗讀〕

明治三十三年二月五日(月曜日)

午前十時十七分開議

同日本院ニ於テ可決シタル左ノ建議書ハ即日政府ニ呈出セリ
ハ即日衆議院へ送付セリ

議事日程 第十七號 明治三十三年二月五日
午前十時開議

第一 蟲種檢查法改正法律案(政府提出)

第二　右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第三 併附某沿革(政府提出)
第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第五 船舶檢查法中改正法律案(政府提出) 第一

第六 明治二十九年法律第九十二號廢止法

會計檢查院法中改正法草案（財政部提出）

第七出

第八 會計檢查官懲戒法案(政府提出)

第九 飲食物其ノ他ノ物品取締ニ關スル法
律案(政府提出案)

第十章 藥業規則中改正法律案(政府提出衆議院送付)

第十一 質屋取締法中改正法律案（衆議院）

第十二 在議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第十三 義院是出
表第用詩正乃管轉國境變更二關外，沿得案聚
第一讀會

第十四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第十五 辯護士法中改正法律案(衆議院提出)

第十六 在議案、審査、付託又、特別委員会選舉
箇法中署名又、其場合二關ヘル

第十七
律案（衆議院提出）

第十八 荒野由次郎君選舉爭訟ノ件(資格審査委員長報告)

○議長（公爵近衛篤磨君） 報告ヲ致シマス

貴族院議事速記錄第十七號 明治三十三年二月五日 議長ノ報告

明治二十九年法律第九十二號廢止法律案外二件特別委員會
委員長 松岡 康毅君 副委員長 渡 正 元君

產牛馬組合法案特別委員會
委員長 伯爵清樓 家教君 副委員長 村田 保君

民法施行法中改正法律案特別委員會
委員長 子爵谷 千城君 副委員長 三好 退藏君

未成年者喫煙禁止法案特別委員會
委員長 公爵二條 基弘君 副委員長 子爵堀田 正養君

國事犯罪者家祿賞典祿處分法案特別委員會
委員長 子爵長岡 護美君 副委員長 岡内重俊君

○議長(公爵近衛篤磨君) 是ヨリ日程ニ移リマス、蠶種検査法改正法律案、
政府提出、第一讀會

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ載錄ス以下之ニ同シ〕
蠶種検査法改正法律案

右
勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治三十三年一月三十一日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
農商務大臣 曾禰荒助

蠶種検査法

第一條 本法ニ於テ蠶種ト稱スルハ原種及製絲用種ヲ謂フ

第二條 原種ハ框製ニスヘシ

第三條 蠶種ハ検査ニ合格シタル原種ヨリ產生シタル繭ヲ用ウルニ非サレ

ハ之ヲ製造スルコトヲ得ス

第四條 蠶種ハ左ニ掲タル繭ヲ以テ之ヲ製造スルコトヲ得ス

一 二蠶以上合同シテ作リタル繭

二 繭層片薄ナル繭若ハ形狀ヲ失スルコト著シキ繭

三 繭層ノ量繭ノ全量百ニ對シ一化性ニ在リテハ十、二化性ニ在リテハ

七 多化性ニ在リテハ六ニ達セサルモノ

四 蠶兒ノ發育不良ニシテ收繭ノ量著シク減少シタルモノ

五 蠶種製造者ニ非サル者ノ飼育シタル蠶兒ヨリ產生シタル繭

第五條 蠶種製造者ハ検査ニ合格シタル原種ヨリ產生シタル蠶兒ニ非サレ
ハ飼育スルコトヲ得ス

第六條 蠶種製造者ハ收繭後及產卵後ノ二期ニ於テ原種ニ在リテハ繭、蛾
及卵、越年スル製絲用種ニ在リテハ繭及卵、越年セサル製絲用種ニ在リ
テハ繭ノ検査ヲ受クヘシ

第七條 原種ノ掃殼及第四條第一號乃至第三號ニ掲ケタル繭ハ收繭後ノ檢
查ヲ經ル迄之ヲ保存スヘシ

第八條 檢査ニ合格セサル蠶種ハ蠶種検査所ニ於テ直ニ之ヲ燒棄スヘシ

第九條 檢查合格ノ證印ナキ蠶種ハ之ヲ讓渡スルコトヲ得ス

第十條 地方長官ハ蠶種検査員ナシテ蠶種製造者ニ就キ養蠶、收繭及產卵
ノ狀況ヲ視察セシムヘシ

第十一條 蠶種検査員ハ自己若ハ家族ノ製造スル蠶種ノ検査ヲ爲スコトヲ
得ス

第十二條 蠶種検査ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス但シ國庫ハ其ノ半額以
内ヲ補充スルコトヲ得

第十三條 自家用又ハ學術研究ノ爲蠶種ヲ製造スル者ニハ本法ヲ適用セ
ス

第十四條 學術研究ノ爲製造シタル原種ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ檢
查ニ合格シタルモノト看做スコトヲ得

第十五條 自家用又ハ學術研究ノ爲製造シタル蠶種ハ之ヲ讓渡スルコトヲ
得ス但シ前條ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 第三條乃至第六條第九條又ハ第十五條ニ違背シタル者又ハ蠶種
検査員ノ職務執行ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰
金ニ處ス

第十七條 第七條ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 本法ハ命令ヲ以テ指定スル地ニ之ヲ施行セス

第十九條 本法ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔政府委員和田彥次郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員（和田彦次郎君）現行ノ蠶種検査法ニ於キマシテハ越年蠶種ニノミ検査ヲ行ツテ居ルノデゴザイマス、此現行法ガ明治三十年ニ發布致シマシタ當時ハ、蠶種ノ中ニ於キマシテ春蠶ガ大部分ナ占メテ居リマシテ夏秋蠶ニ於キマシテハ總額ノ殆ド十分ノ三位ナ割合デゴザリマシタ、ソレ故ニ春蠶ノミデナク夏秋蠶ニ向ツテモ検査ヲスルノ必要ガアルト云フコトハ當時思ウテハ居リマシタケレドモ額モ少ウゴザイマス、先づ春蠶ノ検査ヲ致シマシタ結果ヲ見テ徐々ト秋蠶夏蠶ニ及ボスト云フ考デゴザイマシタデゴザイマス、然ルニ目今ニ至リマシテハ春蠶モ餘程額モ増シマシテゴザイマスケレドモ、春蠶ノ増シマス額ヨリモ秋蠶夏蠶ノ方が大イニ増加致シテ參リマシタノデゴザイマス、而シテ春蠶ノ検査ヲ致シ居リマシタ從來ノ結果ハ如何デアルカト申シマスト、非常ナ事績ヲ舉ゲマシテ、検査法實施以來ハ殆ド微粒子毒ハ絶テ仕舞フタト云フ位マデ能ク検査ガ行届キマシテ其事績ガ舉リマシタノデゴザイマス、故ニ最早今日ノ所、秋蠶夏蠶モ其儘ニシテ置ク場合デゴザイマセヌカラ是非春蠶通リニ是モ検査スルノ必要ガアルトス様ニ認メマシタノデゴザイマス、ソレ故ニ本案ノ改正ヲ致シマシテ御協賛ヲ仰グ次第デゴザイマス

○村田保君 政府委員ニ御尋ネ致シタウゴザイマス、唯今此秋蠶ガ段々盛ニナッタト云フ御話デゴザイマシタが、現今マデハ是ハ一化性ダケノモノノ検査ニナッテ居ル、多化性ノモノハ検査シナイ、検査ナシナイカラ多化性ノモノガ段々殖エテ來タト云フコトデゴザンセウ、ソレデ其是カラ段々多化性マデノモノヲバ検査ナサラウト云フコトデゴザイマスガ、素ヨリ検査ヲナサルコトハ極ク結構ナコト思ヒマスガ、一體政府ノ見込デハ此多化性ノモノナナイ、愛知縣トカ三河トカ遠江位ノ外ニハ多化性ノ物ハナイト聞イテ居ル、併ナガラ之ヲ検査ヲシテ益、多化性ノモノナ多クシヤウト云フ御考ナノデゴザイマスカ、私ドモ承ッタ所デハ此多化性ノモノハ全國ニハ殆ド段段獎勵スル見込デ之ヲ検査ヲシテ益、多化性ノモノナ多クシヤウト云フ御考ナノデゴザイマスカ、私ドモ承ッタ所デハ此多化性ノモノハ全國ニハ殆ドコトハ極ク結構ナコト思ヒマスガ、一體政府ノ見込デハ此多化性ノモノナナイ、愛知縣トカ三河トカ遠江位ノ外ニハ多化性ノ物ハナイト聞イテ居ル、併ナガラ之ヲ検査ヲシテ益、獎勵ヲナサラウト云フ御考デゴザイマセウカ、ソコナ第一ニ伺イタイ、ト云フモノハ、本員ガソレヲ伺ヒタイト云フモノハ多化性ノモノナ益、獎勵シタラ段々日本ノ繭ガ惡クナル、ナゼト云フノニ桑チヒドクヤルカラ桑ノ……ソレデ愈々是ハ政府ガ獎勵サルルカト云フコトヲ第三デ聞キタイ、ソレカラ四ノ「此蠶兒ノ發育不良ニシテ收繭ノ量著シク減少シタルモノ」是デゴザイマスガ、是ハドウ云フ政府ハ日安ヲ持ツテ居ラルカ、又コノ豫算ハ重ニ此蛾ノ一匁ノ目方ナ以テ繭ガ三斗ト爲ツテ居ル、ソレカラ此減少シタ云フノハドノ位ノモノナ減少シタノカ、例ヘバ一斗五升

○政府委員（和田彦次郎君）御答申シマスデゴザイマスガ、長イ御質問デゴザイマスカラ或ハ前後シマシタリ落チガアルカモノ知レマセヌガ、落チガアリ定スル地ニ之ヲ施行セス」トアル、隨分此養蠶ノコトハドコマデモ行届イテ居リマスガ沖繩縣杯ハ最モ幼稚ダト云フコトヲ聞イテ居リマスガ、其他命令ヘバ隨分検査ヲ願出ル者ガアルダラウ、斯ウ云フモノハ許サヌモノデアルヤ否ヤ、ソコモ一ツ承ツテ置キタイ、ソレト此十八條ニ「本法ハ命令ヲ以テ指定期間内に之ヲ施行セス」トアル、隨分此養蠶ノコトハドコマデモ行届イテ之ヲ施行シナイト云フ地ハドノ邊デアリマスガ、其他命令キタイト思ヒマス

○政府委員（和田彦次郎君）御答申シマスデゴザイマスガ、長イ御質問デゴザイマスカラ或ハ前後シマシタリ落チガアルカモノ知レマセヌガ、落チガアリマシタラ更ニ御尋ナ願ヒタウゴザイマス、政府ハ秋蠶夏蠶ヲ獎勵スル見込デ

アルカト云フ御問ニ對シマシテ御答致シマス、政府ハ之ヲ專ラ獎勵スルト云

フ主意デハゴザイマセヌガ、現在實際ニ於テ秋蠶夏蠶ハ飼育致シテ居リマス、其飼育シテ居リマスモノノ爲ニ病毒ガゴザイマスノチ棄置クト云フコトハ宜クナイ、矢張リ春蠶ニ於テ病毒ヲ防ギ得タ實例デ事績モ著々舉^ツテ居リマスカラ、秋蠶夏蠶ニ向^ツテモ同様ニ病毒ヲ検査シテ除クト云フノハ適當ノ處分デ必要ナルコト認メルト云フ主意デゴザイマス、ソレカラ其他段々アッタヤウデゴザイマスガ……

○村田保君 第四條デス蠶兒ノ發育不良ニシテ收繭ノ量著シク減少シタルモノト云フ所デス

○政府委員(和田彦次郎君) 是ハ無論先刻御尋ノ中ニモアッタヤウデアリマスケレドモ、細則ヲ設ケマシテ、サウシテ十分ニ標準ヲ置キマスル積リデゴザイマスガ、此法律ニゴザイマスル通りニ百ニ對シマスル一化性ニ在^ツテハ十、二化性ニ在^ツテハ七、多化性ニ在^ツテハ六ニ達セザル繭ヨリハ蠶種ヲ製造スルコトヲ許サヌ、是ハ量目ノ目方ノ方デ當テマシタノデ、一斗デ切ルトカ二斗デ切ルトカ云フ辨目ノ方デナク量目デ定メマシタ次第デゴザイマス

○村田保君 分リマセヌ、其御答辯デハチットモ分リ兼ネマス

○政府委員(和田彦次郎君) ソレデハモウ一應御問ヲ承リタウゴザイマス

○村田保君 「蠶兒ノ發育不良ニシテ」ト云フノハ蠶ノ發育ガ惡ルイカラ繭ニナッテカラ量ガ減^ツタ、其減^ツタモノカラ繭ノ種ヲ製造スルコトハ出來ヌト云フノデゴザイマセウ、其減少シタト云フモノハドノ位ニ減少シタト云フコトナドコカニ書イタモノガゴザイマスカ、例ヘバ一匁ノ繭デ三斗ト云フノハ隨分宜一方デゴザイマセウ、決シテ是ハ不良ナモノデハナイ、決シテ十分ノモノデアル、ソレニ足ラヌナラバ重量ノ減少ジタモノデ、即チ蟲ノ發育ガ惡ルイカラ是ハ減ジテ來タノデアル、其減少ジタモノニ依^ツテ種ガ作レヌト云フコトナラバドレマデ蟲ガ減ジタラ種ガ作レヌト云フコトヲ言ハナケレバナラヌ、例ヘバ通常ハ三斗出來ルノガ二斗シカ出來テ居ラヌトカ、或ハ一斗ニ減ジタトカ、サウ云フ一斗ニ減ジタモノノデハ種ヲ作ルコトハナラヌト云フノデアリ

トカ、其減少ノ度合ヲ邊定メラレルノデスカ、或ハ一斗五升デ種ヲ切セルトカ或ハ二斗デ切ルトカ云フコトヲ極メナケレバナラヌ、ソレガ全國一樣ニナラヌト云フト他ノ地方デハ幾ラ減ジテモ減ジタト思ハヌ所モアルダ

ラウト思フ、一方デハ一斗デモ種ヲ切リ他ノ地方デハ二斗デナケレバ種ヲ切セヌト云フコトガアッテハ不公平極マルモノニナルト思ヒマスカラソレヲ

御尋シマス

○政府委員(和田彦次郎君) 是ハ私ノ先刻御答シマシタノガ御分リニナラヌト云フコトデゴザイマシタガ、是ハ第一ニ於キマシテハニ蠶以上ノ蝶が寄リマシテ繭ヲ持ヘマシタモノ或ハ形ノ惡ルイモノハ種ノ製造ヲ致サセヌ、第二項ノハ御聞キ下サル通りニ形狀ノ上ニ於テ著シク形ヲ失シタモノハシナイ、第三項ノ分ハ繭ノ目方ヲ掛ケマシテ一化性ニ於キマシテハ十二化性ニ在^ツテハ七多化性ニ在^ツテハ百ニ對シマシテ六ニ達セザル所ノ繭ヲ以テ蠶種ヲ製造スルコトハ出來ヌト云フ主意デゴザイマス、是デ御分リニナラヌト云フノハ……

○村田保君 第四ハドウ云フ解釋ヲ持^ツテ居ラレルノデスカ

○政府委員(和田彦次郎君) 四デゴザイマスカ、是ハ肉眼検査ト申シマシテ宜シウゴザイマス、繭ノ不良ノ分ニ對シマスレバ通常熟練ナシタ養蠶家カラ見レバ直チニ分ルコトデゴザイマス、四ノ分ニ於キマシテハ是ハ不良ナル繭デアル、此繭ハ不完全デアルト云フコトハ少シ養蠶ニ從事サレタ者ニハ直グニ分リマスノデス、是等ニ於キマシテハ無論著シキ減少ノ度合ニ至リマシテハ各地ノ模様ヲ實地ニ取調ベタ結果モゴザイマスケレドモ、尙ホ實際之ヲ施行スルノ場合ニ於テハ細則ヲ置キマシテ、全國一般ニ細則ヲ布達致シテ實施スル積リデゴザイマス

○村田保君 ドウモ政府委員ハ第四ノ所ハ或ハ見誤^ツテ居リハセヌカト思フ、ト云フノハ餘程其解釋ガ分ラヌ、決シテサウ云フモノデハナカラウト思ヒマス、其減少シタ所ヲ見ルニハ何ナ以テ見ルカ、何レ目ヲ量テ三斗ナラバ通常デアルカラ、ソレナラ無論種ヲ切ラセルト云フコトハ分^ツテ居ルガ、ソレデナイ減ジタルモノ、即チ三斗出來ナイナラバ減ジタモノダカラ、或ハ二斗ナラニ斗、一斗五升ナラ一斗五升ト云フコトヲ極メナケレバナラヌ

○政府委員(和田彦次郎君) ソレハ御説ノ通リデゴザイマス

○村田保君 ソレナラ早クサウ御答ニナレバ宜イノニ……

○政府委員(和田彦次郎君) ソレカラ第三ノ所ヲ御答致シマス

○村田保君 三ノ所ヲ伺ヒタイ、一化性ニ附イテハ十トアルガ、十シカ出來テセルトカ或ハ二斗デ切ルトカ云フコトヲ極メナケレバナラヌ、ソレガ全國

ナノデスカ、モット能ク出來ル所ガアッタラ如何デゴザイマス

○政府委員(和田彦次郎君) ソレハ種々ゴザイマスルケレドモ……

○政府委員(和田彦次郎君) 唯今調べ書ヲ茲ニ持^ツテ居リマセヌケレドモ百

分ノ十二對シニ分位ハ増ス所ガゴザイマス、十ナラバ十分良イノデゴザイマスガ、十二對スルニ分位ハ増ス所ガアリマス

○村田保君 十三ハ出來マスカ、平均ヲ取ツタ所ノモノダラウト思ヒマス

○政府委員(和田彦次郎君) 十二位ト云フ我ミノ方デ平均ヲ取テ居リマス

○村田保君 本員杯ハ多化性ニ在ツテ七ダノ六ダノト云フモノハ少イカラ、ソレデ獎勵ナサルノデハナイカト疑ツテ御問ナシマシタ

○政府委員(和田彦次郎君) ソレカラ尙ホ御答致シマスガ、第八條ノ「検査ニ合格セサル蠶種ハ蠶種検査所ニ於テ直ニ之ヲ燒棄スヘシ」ト云フコト甚大酷デハナイカト云フ御尋デゴザイマスガ、是マデノ検査ノ實例ニ依リマスルト不合格ノモノナ本人ガ持ツテ歸リマシテ自家用ニ之ヲ飼育スル例ガゴザイマス、依ツテ不合格ノモノハ飼育ヲ禁ズル以上ハ將來ノ所ニ於キマシテハ之ヲ本人ニ還サズシテ検査所ニ於テ燒棄スル方ガ宜カラウト云フ考ヨリ第八條チ設ケマシタ

○村田保君 其事ナ御尋シタノデハナイ、ソンナコトハ分リ切ツテ居ル、ソレデ燒棄スルノガ惡ルイトハ申サヌ、極宜イコトデハアラウガ、ソレニハ弊害ナ生ズルコトガアルダラウ、燒クト焼カヌトハ大變ニ利害ガ違フカラ、検査所デ直チニ之ヲ燒棄テルト云フコトニナルトエライ話ニナル、デソレニハ何ゾ内規トカ或ハ規則デモ設ケテ、取調ノ法ヲ何ゾ是ニハ御立テナサルカト云フコトヲ承リタインデス

○政府委員(和田彦次郎君) 是ハ本法ニ依リマシテ検査シマシテ不合格ノモノハ燒棄テルト云フ條文ニ過ギヌノデゴザイマス、其細則ニ至リマシテハ細則ニ於テ設ケルコトハ無論ゴザイマス、ソレカラ十二條ノ國庫ヨリ負擔スルト云フ費用ノコトニ附イテ御話ガアリマシタガ、是ハ是マデノ春蠶通リノ割合ニ於テ國庫ト地方トノ負擔デ支辨スル積リデアリマス

○村田保君 ソコモ違ツテ居リマス、現今デハ三分ノ一ノ政府が補助スルノデアリマス、其半額マデ補助サレルト云フノハ結構デスガ、現今デハ蛾ノ検査ハシナイ、蛾ノ検査マデスルコトニナレバ費用ガ掛カルカラ費用ガ嵩ムダラウト思ヒマス、政府ハドノ位ノ御見込デアリマス

○政府委員(和田彦次郎君) 現今デハ三分ノ一ノ此法律デハ半額ト云フノデハアリマセヌ、現今ハ三分ノ一ヤツテ居リマスガ本案ノモ半額以内ト云フノデ現今ノト同様デアルト云フコトヲ御答申シマシタ、ソレカラ費用ノ點ニ於キマシテハ蛾マデ検査スルコトデアリマスガ、蛾ハ原種ノ分ニノミ致シマ

スルノデ製絲用ノ分ハ無論致シマセヌ、ソレデ大變金額ガ増スヤウニ思召ガアリマスケレドモ春蠶ヨリハ原種ノ數ガ餘程少イノデアリマス、御考ニナル程増シマセヌ、額ニ於キマシテハ國庫ノ負擔ハ四萬乃至五萬圓ヲ以テ大概當分ノ間ハ充テ得ル見込デアリマス、數年ノ後ニ至レバ或ハ額ガ増スカモ知レヌト云フ考デアリマス

○村田保君 現今ハ三分ノ一デ此法律デハ半額以内ト云フノハ同ジコトト云フノハ少シ分ラナイ、半額以内ト云ヘバ半分ヤルト云フコトハ分ツテ居ル、現今ハ三分ノ一シカヤラナイカラ大變ニ違フデアラウト思フ、又ハ原種ニ於テハ蛾モヤリ不越年ノ蘭ノ検査マデモヤルト云フコトニナレバ大變違フト思ヒマス、從前デモ五萬圓補助ナシテ居ルカラドウモ餘程嵩ムダラウト思ヒマス、從前ノ分ヨリ四萬圓乃至五萬圓増ス積リデアリマス

○政府委員(和田彦次郎君) 從前ノ分ヨリ四萬圓乃至五萬圓増ス積リデアリマス

○村田保君 ソレナラ分リマシタ

○政府委員(和田彦次郎君) 十三條ノ「自家用又ハ學術研究ノ爲蠶種ヲ製造スル者ニハ本法ヲ適用セス」ト云フノハ自家用ノ分、學術研究ノ分ニハ検査ハ致シマセヌ、御尋ノ如ク若シ本人ヨリ請ウテ參リマシタ場合ニハ無論検査シテヤリマス

○村田保君 何所ノ條ニ依ツテ検査シマスカ

○政府委員(和田彦次郎君) ソレハ此法律ニ於キマシテハ自家用ノ分ハコチラカラ進ンデ致サナイダケノ話デ、學術研究ノ分、自家用ノ分ニ於キマシテハ本人カラ請ウテ來マシタトキニハ拒絕セヌ積リデアリマス、條項ニハ請ウテ來タモノニスルト云フコトハ設ケテゴザイマセヌ、十八條ノ「指定スル地ニ之ヲ施行セス」ト云フノハ北海道ノ一部沖繩ノ一部ヲ指シマスルノデアリマス

○村田保君 然ル所、十二條ニ「北海道廳及沖繩縣ニ於テハ國庫ノ負擔トス」トアリマス

○政府委員(和田彦次郎君) 是ハ北海道沖繩縣ニ於テ施行致シマスル場合ニハ國庫ノ負擔トスル、地方稅ヲ要セナイト云フコトナ書キマシタ、十八條ニ於テハ現今北海道ノ内ノ或ル一部分ニハ行ウテ居リマスガ、大部分ハ行ウテ居リマセヌ、サウ云フ場合ヲ指シマシタノデアリマス

○村田保君 十四條ノ「學術研究ノ爲製造シタル原種ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ検査ニ合格シタルモノト看做スコトナ得」ト云フノハ「命令ノ定ムル」ト云フノハ場所ハ幾箇所アリマスカ、今日幾箇所ニナツテ居リマスカ

○政府委員(和田彦次郎君) 唯今數ヲ擧ゲテ御答申スベキ書類ヲ持ツテ居リマセヌガ、凡ソ全國ニ十二箇所アルヤウニ考ヘマス、委シイ所ハ唯今分リマセヌ

○村田保君 ソンナニアリマスカ

○政府委員(和田彦次郎君) ソレハ長野縣ノ蠶種學校トカ種々地方地方ノ重モナル、教育デモシヤウト云フ位ノ學校其他講習所等デヤツテ居リマス

○三宅秀君 本員モ御尋ナ致サウト存ジテ居リマシタラバ丁度唯今村田サンカラ數箇條ノ御問ガ出マシテ、其中ニ丁度御尋致シタイコトモゴザイマシタガ、ソレニ附イテハ政府委員カラ御答ガナカツタヤウデアリマスカラ續イテ

本員ガ御尋致シマス、是ハ前年八、三十年ノ法律第十號ノ出來マス時分ニ段段政府委員ニ質問致シマシタ所ガ、是ハ越年蠶種ダケニ止メテ居ル、不越年蠶種マデ、検査スルコトニナルト大變ダカラ越年蠶種ダケ検査スルコトニ法律ガ出來テ居ル、然ルニ不越年蠶種ヲ飼育スル者ガ比年増加スルト云フコトガ理由書ニ書イテアリマスガ、是ハドウ云フノデアリマスカ、是ニハ検査ガナカツタカラ検査ノナイノヘ人民ノ方ガ逃込ンデ自分達ノ便利ノ爲ニ不越年

蠶種ヲ飼育スルコトニナツタノデアリマセウカ、先刻同ジ意味ヲ村田君ガ御尋

ニナツタト思ヒマスガ、段々質問ガ横ヘ外レテ仕舞ッテ政府デ不越年蠶種ヲ獎勵ナサルヤ否ヤト云フ方ニ外レマシタカラ、本員ガ御尋シヤウト云フノニハ御答ガ洩レテ居リマス、本員ハ最初現行法ノ出來マス時分ニモ不越年蠶種マデ検査セネバナラダラウト云フコトナ考ヘテ居ルノデ、ソレデアリマスカ

ラシテ若シ最初カラ不越年蠶種マデ検査スルコトデアツタナラバ不越年蠶種ヲ飼育スル者ガ殖エナイカモ知レヌ、今マテ不越年蠶種ガ検査ガ寛カダッタカラ唯検査ヲ受ケルコトガ煩ハシイ爲ニ不越年蠶種ヲ飼育スル者ガ殖エタカト思ヒマスガ、サウデハアリマセヌカ、政府ノ見ラル、所ハドウデアリマスカ

○政府委員(和田彦次郎君) 御答致シマスガ、春蠶ノミチ検査シテ居タガ爲ニ秋蠶夏蠶ガ殖エタダラウカト云フ御尋ト聞キマシタガ、成ル程検査ノ手數チ厭フノハ最初ハアリマシタカ知レマセヌガ、目今ノ所ニ於キマシテハ検査ヲ經テ合格ノ種紙ニ依ッテ又ナ發生養育シタイト云フコトヲ皆希望致シ

シマシタ合格ノ分デナケレバ往々飼育スルニ困ル是非合格ノ方ヲ求メルト云フ風ニ一般春蠶家モナツテ參リマシタ、ソレ故ニ春蠶同様ニ秋蠶夏蠶ノ分モ検査ヲ經テ合格ノ種紙ニ依ッテ又ナ發生養育シタイト云フコトヲ皆希望致シマシテ此春蠶通リニ秋蠶夏蠶ノ分モ検査法ヲ執行シテ貰ヒタイト云フコトノ請願書等モ民間カラ出テ居リマスヤウナ次第ゴザイマスカラ、今日マデ殖

エマシタノハ検査ヲ免レテ居ツタガ爲ニ殖エタカ如何デアルカト云フコトハ確實ニハ申サレマセヌケレドモ、政府ノ見マシタ所デハ絲ノ景氣が好イ時ニハ検査ノ如何ニ拘ラズ澤山養蠶ヲ致シマスルモノガ增スト云フノガ實際デアリマス、本年等ノ増シ方ニ於シキマテハ検査ノ如何ヨリモ寧ロ市況ノ代價ノ模様ニ依リマシテ増額致シテ居ルヤウニ考ヘマス、ソレデ今マデニ増シマシタノハ春蠶モ増シマスル秋蠶夏蠶モ増シマスルコトデスガ、蠶業ノ發達致シマシタ結果デ夏秋蠶ノ額モ増シタルモノト觀察ナシテ居リマス

○村田保君 先程本員ガ御尋シタコトニ附イテ御答ノナイコトガアリマスガ、四條ノ所ニ「多化性ニ在リテハ六ニ達セサルモノ」ト云フコトガアリマスガ、此多化性ト云フモノハ三河トカ遠江アタリニアリマスガ、其他何所ニ在リマスカ、多化性ハ全國何回マデノ所ガ幾箇所アルト云フコトヲ伺ヒタイ出来兼ネマス、ソレハ調査致シテ其調査漏ガアルカモ知レマセヌデゴザイマスルガ、御説ノ通りニ之ヲ一化性上ノモノナ致シテ居リマス所ガ遠州ノ地方、ソレカラ岐阜縣下ニ多少ゴザイマス

○村田保君 何回マデ……

○政府委員(和田彦次郎君) 先づ試ニ致シマスノハ五化性位マデ試ニハ致スカモ知レマセヌが實際ニ飼育致シマスルノハ四化性が極ク稀ナ度合デアルト思ウテ居リマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 他ニ御發議ガナクバ委員ノ選定ニ移リマス、議長指名デ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛篤磨君) 保險業法案、政府提出、第一讀會
右
保險業法案

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス
明治三十三年二月二日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
司法大臣 清浦奎吾
農商務大臣 曾禰荒助

保險業法

第一章 總則

第一條 保險事業ハ主務官廳ノ免許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第二條 保險事業ハ株式會社又ハ相互會社ニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第三條 相互會社ニシテ社員ニ非サル者ト保険契約ヲ爲スモノハ特ニ其免許ヲ受クルコトヲ要ス

主務官廳ハ何時ニテモ前項ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第四條 保險會社ハ他ノ事業ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第五條 同一ノ會社ニシテ生命保險ト損害保險トヲ併セテ其目的ト爲スコトヲ得ス

第六條 損害保險ヲ目的トスル會社ハ免許ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

一定款

二 事業方法書

三 普通保險約款

四 保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類

第七條 生命保險ヲ目的トスル會社ハ免許ヲ申請スルニハ申請書ニ前條ニ掲ケタル書類及ヒ責任準備金利用ノ方法ヲ記載シタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第八條 普通保險約款ニハ左ニ掲ケタル事項ヲ定ムルコトヲ要ス

一 保險會社カ保險金額ノ支拂ヲ爲スヘキ事由

二 保險契約無効ノ原因

三 保險會社カ其義務ヲ免ルヘキ事由

四 保險會社ノ義務ノ範圍ヲ定ムル方法及ヒ其義務履行ノ時期

五 保險契約者又ハ被保險者カ其義務不履行ノ爲メニ受クヘキ損失

六 保險契約ノ全部又ハ一部ノ解除ノ原因及ヒ其解除ノ場合ニ於テ當事者ノ有スル權利義務

七 保險契約者被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ利益又ハ剩餘金ノ分配ニ與カル權利ノ有無及ヒ範圍

第九條 第六條及ヒ第七條ニ掲ケタル書類ヲ變更スルニハ主務官廳ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス其認可前三在リテハ變更ノ効力ヲ生セス

第十條 保險會社ノ業務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

主務官廳ハ本法及ヒ第六條並ニ第七條ニ掲ケタル書類ノ規定ニ從ハシムル爲メ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十一條 主務官廳ハ何時ニテモ保險會社ナシテ其事業ノ報告ヲ爲サシメ又ハ會社ノ業務及ヒ會社財產ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第十二條 主務官廳カ保險會社ノ業務又ハ會社財產ノ狀況ニ依リ其事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキハ其事業ノ停止ヲ命シ又ハ期間ヲ定メテ業務執行ノ方法若クハ計算ノ基礎ノ變更ヲ命シ其他保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ權利ヲ保護スルニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十三條 保險會社カ主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキハ主務官廳ハ事業ノ停止若クハ取締役ノ改選ヲ命シ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得

第十四條 保險會社ノ清算ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

第十五條 保險ナ營業トスル株式會社ノ定款ニハ商法第一百二十條第二號乃至第八號ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第二章 株式會社

第十六條 會社ハ其商號ニ保險ノ種類ヲ示スコトヲ要ス

第十七條 會社ノ資本ハ十萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十八條 株式申込證ニハ第十五條及ヒ商法第一百二十六條第二項ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第十九條 會社ハ第十五條及ヒ商法第一百四十一條第一項ニ掲ケタル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第二十條 第五十九條ノ規定ハ株式會社ノ計算ニ之ヲ準用ス但設立費用及ヒ營業費ノ全額ヲ償却シタル後ニ非サレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 商法第二百十條ノ規定ハ保險ナ營業トスル株式會社ニハ之ヲ適用セス

第二十二條 會社カ營業ノ免許ヲ取消サレタルトキハ之ニ因リテ解散ス

第二十三條 會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ合併契約書及ヒ各會社ノ財產目錄並ニ貸借對照表ヲ損害保險ニ在リテハ各被保險者ニ生命保險ニ在リテハ各保險契約者ニ送付シ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ノ催告ヲ發スルコトヲ要ス但其期間ハ二箇月ヲ下ルコトヲ得ス

被保險者又ハ保險契約者カ前項ノ期間内ニ會社ノ合併ニ對シテ異議ヲ述

ヘサリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス

里議ヲ述ヘタル者ノ保険金額カ會社ノ保険金額ノ十分ノ一以上ナルトキハ會社ハ合併ヲ爲スコトヲ得ス

會社カ前三項ノ規定ニ依リテ合併ヲ爲シタルトキハ其合併ハ之ヲ以テ異議ヲ述ヘタル者ニモ對抗スルコトヲ得

會社カ被保險者又ハ保険契約者ニ催告ヲ爲サヌシテ合併ヲ爲シタルトキハ其合併ハ之ヲ以テ會社カ催告ヲ爲ササリシ者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十四條 第七十四條第二項、第七十五條及ヒ第七十八條ノ規定ハ保險ナ營業トスル株式會社ニ之ヲ準用ス

第二十五條 第七十九條ノ規定ハ保險ナ營業トスル株式會社カ第二十二條又ハ商法第七十四條第七號、第二百二十一條第二號、第三號ニ掲ケタル事由ニ因リテ解散シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條 合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請書ニハ第二十三條第一項ノ規定ニ依ル催告ヲ爲シタルコト、若シ異議ヲ述ヘタル者アルトキハ其者ノ保険金額カ會社ノ保険金額ノ十分ノ一未滿ナルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第三章 相互會社

第一節 設立

第二十七條 相互會社ノ發起人ハ定款ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名スルコトヲ要ス

一 保險ノ種類及ヒ事業ノ範圍

二 名稱

三 事務所ノ所在地

四 基金ノ總額

五 基金ノ釀出者カ有スヘキ權利

六 社員ノ責任ノ種類

七 基金及ヒ設立費用ノ償却ノ方法

八 剩餘金分配ノ方法

九 會社カ公告ヲ爲ス方法

十 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其時期又ハ事由

十一 社員ニ非サル者ト保険契約ヲ爲スヘキトキハ其旨

第二十八條 相互會社ハ其名稱ニ保険ノ種類ヲ示シ且之ニ相互會社ナル文

字ヲ附スルコトヲ要ス

第二十九條 相互會社ノ基金ハ十萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

基金ノ支拂ハ金錢以外ノ財產ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三十條 相互會社ノ社員ノ數ハ百人ヲ下ルコトヲ得ス

第三十一條 發起人ニ非サル者カ社員タラントスルトキハ入社申込證ニ通ニ保険ノ目的及ヒ保険金額ヲ記載シ之ニ署名スルコトヲ要ス但會社カ主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル後社員タラントスル者ハ此限ニ在ラズ

入社申込證ハ發起人之ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 定款作成ノ年月日

二 第二十七條ニ掲ケタル事項

三 基金ノ釀出者ノ氏名、住所及ヒ各自カ釀出スル金額

四 發起人ノ氏名、住所

五 發起人カ報酬ヲ受クヘキトキハ其報酬ノ額

六 設立ノ際募集セントスル社員ノ數

第三十二條 社員カ豫定ノ數ニ満チタルトキハ發起人ハ遲滯ナク創立總會ヲ招集スルコトヲ要ス

創立總會ニ於テハ社員ノ半數以上出席シ其四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ一切ノ決議ヲ爲ス

第四十四條及ヒ商法第百五十六條第一項、第二項、第一百六十條第三項、第四項、第一百六十三條ノ規定ハ相互會社ノ創立總會ニ之ヲ準用ス

第三十三條 社員カ豫定ノ數ニ満チタル後六ヶ月内ニ發起人カ創立總會ヲ招集セサルトキハ申込ハ其申込ヲ取消スコトヲ得

第三十四條 相互會社ハ創立總會ノ終結ニ因リテ成立ス

第三十五條 取締役ハ創立總會終結ノ日ヨリ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 第二十七條第二號、第二號及ヒ第四號乃至第十一號ニ掲ケタル事項

二 事務所

三 取締役及ヒ監査役ノ氏名、住所

前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十六條 商法第九條、第十一條乃至第十五條、第十九條乃至第三十八

條、第四十條、第四十一條、第四十四條、第四十五條、第一百十九條、第百三十三條及ヒ第百三十八條ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス

第二節 社員ノ権利義務

第三十七條 社員ハ會社ノ債權者ニ對シ直接ニ義務ヲ負フコトナシ
第三十八條 會社ノ債務ニ關スル社員ノ責任ハ左ノ三種トス

一 社員ノ全員カ無限ノ責任ヲ負フモノ

二 社員ノ全員カ保険料ヲ限度トシテ責任ヲ負フコトナシ

三 社員ノ全員カ保険料ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負フモノ

第三十九條 社員ハ會社ニ拂ムヘキ金額ニ付キ相殺ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ス

第四十條 社員カ保険料ノ外會社ノ債務ニ關シ釀出スヘキモノアルトキハ其金額及ヒ其釀出ノ方法ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條 損害保險ヲ目的トスル相互會社ノ社員カ保険ノ目的ヲ讓渡シタルトキハ讓受人ハ會社ノ承諾ヲ得テ讓渡人ノ權利義務ヲ承繼スルコトヲ得

第四十二條 生命保險ヲ目的トスル相互會社ノ社員ハ會社ノ承諾ヲ得テ他人ヲシテ其權利義務ヲ承繼セシムルコトヲ得

第三節 會社ノ機關

第四十三條 相互會社ハ定款ヲ以テ社員總會ニ代ハルヘキ機關ヲ設クルコトヲ得此機關ニハ社員總會ニ關スル規定ヲ準用ス

第四十四條 社員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第四十五條 十分ノ一以上ノ社員ハ總會ノ目的及ヒ其招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ取締役ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得但此權利ノ行使ニ付キ定款ヲ以テ他ノ標準ヲ定ム

商法第百六十條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十六條 商法第百五十六條第一項、第二項、第百五十七條第一項、第二百五十八條第一項、第二百五十九條、第二百六十條第一項、第三項、第四項及ヒ第百六十三條ノ規定ハ相互會社ノ社員總會ニ之ヲ準用ス

第四十七條 取締役及ヒ監査役ハ社員總會ニ於テ之ヲ選任ス
第四十八條 取締役及ヒ監査役ハ社員タルコトヲ要セス
第四十九條 取締役ハ社員總會ノ認許アルニ非サレハ同種ノ保険ヲ目的ト

スル他ノ會社ノ無限責任社員、業務擔當社員、取締役又ハ監査役ト爲ルコトヲ得ス

第五十條 取締役ハ社員名簿ヲ備ヘ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 社員ノ氏名、住所

二 各社員ノ保険契約ノ種類、保険金額及ヒ保険料

三 第三十八條第三號ノ場合ニ於テ各社員ノ責任ノ限度

第五十一條 取締役ハ定款及ヒ總會ノ決議錄ヲ各事務所ニ備ヘ置キ且社員名簿ヲ主タル事務所ニ備ヘ置クコトヲ要ス

社員及ヒ會社ノ債權者ハ事業時間内何時ニテモ前項ニ掲ケタル書類ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第五十二條 社員總會ニ於テ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ十分ノ一以上ノ社員カ之ヲ監査役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一个月内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要ス但起訴ノ請求ヲ爲ス者ニ付キ定款ヲ以テ他ノ標準ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ請求ヲ爲シタル社員ハ監査役ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

會社カ敗訴シタルトキハ右ノ社員ハ會社ニ對シテノミ損害賠償ノ責ニ任ス

第五十三條 前條ノ請求ヲ爲シタル社員ハ特ニ會社ノ代表者ヲ指定スルコトヲ得

第五十四條 商法第百六十五條乃至第百六十七條、第百六十九條、第百七十條、第百七十四條第二項、第百七十六條、第百七十七條及ヒ第百七十九條ノ規定ハ相互會社ノ取締役ニ之ヲ準用ス

第五十五條 社員總會ニ於テ監査役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ十分ノ一以上ノ社員カ之ヲ取締役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一个月内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ第五十二條第一項但書、第五十三條及ヒ商法第百八十五條第一項但書ノ規定ヲ準用ス

前項ノ請求ヲ爲シタル社員ハ取締役ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

第五十六條 商法第百六十七條、第百七十九條乃至第百八十四條、第一百八十五條第一項、第一百八十六條及ヒ第百八十八條ノ規定ハ相互會社ノ監査

役ニ之ヲ準用ス

第四節 會社ノ計算

第五十七條 基金ハ毎事業年度ノ剩餘金ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ償却スルコトヲ得ス

第五十八條 相互會社ハ損失ノ填補ニ備フル爲メ毎事業年度ノ剩餘金中ヨリ準備金ヲ積立ツルコトヲ要ス

第五十九條 設立費用及ヒ初ノ五年度ノ營業費ノ全額ヲ償却シ且第五十八條

每年積立ツヘキ金額及ヒ準備金ノ最低額ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

第六十條 設立費用及ヒ初ノ五年度ノ營業費ハ十年ヲ超エサル期間内ニ

於テ定款ノ定ムル所ニ從ヒ毎年其一部ヲ償却スルコトヲ得

第六十一條 基金ヲ償却スルトキハ其償却スル金額ト同一ノ金額ヲ積立ツルコトヲ要ス

第六十二條 剩餘金ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ各事業年度ノ終ニ於ケル

社員ニ之ヲ分配ス

第六十三條 商法第百九十條乃至第百九十三條ノ規定ハ相互會社ノ計算ニ

之ヲ準用ス

第五節 定款ノ變更

第六十四條 定款ノ變更ハ社員總會ノ決議ニ依リテノミ之ヲ爲スコトヲ得

但其決議ノ認可ヲ得ルニ付キ必要ナル變更ハ社員總會ノ決議ヲ以テ之ヲ

取締役ニ委任スルコトヲ得

第三十二條第二項ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

第六十五條 會社ノ債務ニ關スル社員ノ責任ヲ減少セントスルトキハ商法

第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ從フコトヲ要ス

第六節 社員ノ退社

第六十六條 定款ヲ以テ會社ノ存立時期ヲ定メタルト否トヲ問ハス社員ハ

事業年度ノ終ニ於テ退社ヲ爲スコトヲ得但六个月前ニ其豫告ヲ爲スコト

ナ要ス
第六十七條 社員ハ左ノ事由ニ因リテ退社ス
一 定款ニ定メタル事由ノ發生
二 死亡
三 破産
四 保險關係ノ消滅

第六十八條 退社員ハ定款又ハ保險約款ノ定ムル所ニ從ヒ其權利ニ屬スル金額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

第六十九條 退社員ノ權利ニ屬スル金額ノ拂戻ハ事業年度ノ終ヨリ六ヶ月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

退社員ノ拂戻請求權ハ前項ノ期間經過ノ後二年間之ヲ行ハサルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

第七十條 退社員ノ權利ニ屬スル金額ノ計算ヲ爲スニ當タリ會社ニ現存スル財產ヲ以テ會社ノ積務ヲ辨済スルニ足ラサルトキハ退社員ハ其負擔ニ歸スヘキ損失額ヲ拂込ムコトヲ要ス

第七十一條 退社員カ會社ニ對シテ負擔シタル積務アルトキハ會社ハ其退

社員ニ拂戻スヘキ金額ノ中ヨリ其債務ノ金額ヲ控除スルコトヲ得
第七十二條 無限責任ヲ負フ社員及ヒ保險料ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負フ社員ハ登記所ニ備フル社員名簿ニ退社ノ記載ヲ爲ス前ニ生シタル會社ノ債務ニ付キ其記載後二年間責任ヲ負フ

前項ノ規定ハ第四十一條及ヒ第四十二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七節 解散

第七十三條 相互會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一 存立時期ノ滿了其他定款ニ定メタル事由ノ發生

二 社員カ百人未満ニ減シタルコト

三 社員總會ノ決議

四 合併

五 破産

六 免許ノ取消

第七十四條 任意ノ解散及ヒ合併ノ決議ハ總社員ノ半數以上出席シ其四分

ノ三分ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス
前項ノ決議ハ主務官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其效力ヲ生セス

第七十五條 合併ノ認可ヲ申請スルニハ申請書ニ合併契約書、財産目録及ヒ貸借対照表ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十六條 商法第七十六條及ヒ第七十八條乃至第八十二條ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス

第八節 清算

第七十七條 相互會社カ解散シタルトキハ合併及ヒ破産ノ場合ニ除ク外本節ノ規定ニ從ヒテ清算ヲ爲スコトヲ要ス

第七十八條 會社カ免許ノ取消ニ因リテ解散シタルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第七十九條 會社カ第七十三條第二號、第三號又ハ第六號ニ掲ケタル事由ニ因リテ解散シタルトキハ保険金額ヲ支拂フヘキ事由カ解散ノ時ヨリ一箇月内ニ生シタルトキニ限り保険金額ヲ支拂フコトヲ要ス

前項ノ期間経過ノ後ハ損害保険ヲ目的トスル會社ニ在リテハ未タ経過セサル期間ニ對スル保険料、生命保險ヲ目的トスル會社ニ在リテハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ拂戻スコトヲ要ス

第八十條 清算人ハ左ノ順序ニ從ヒテ會社財產ヲ處分スルコトヲ要ス

一般ノ債務ノ辨済

二 社員ノ保険金額及ヒ前條第二項ノ規定ニ依リテ社員ニ拂戻スヘキ金額ノ支拂

三 基金ノ償却

社員ハ保険料ノ外基金ノ償却ニ付キ責任ヲ負フコトナシ

第八十一條 残餘財產ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ剩餘金ノ分配ト同一ノ割合ヲ以テ之ヲ社員ニ分配ス

第八十二條 重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ監査役又ハ十分ノ一以上ノ社員ノ請求ニ因リ清算人ヲ解任スルコトヲ得但此請求ヲ爲ス社員ニ付キ定款ヲ以テ他ノ標準ヲ定ムルコトヲ得

第八十三條 第四十五條、第五十二條、第五十五條、商法第八十四條、第九十條乃至第九十三條、第九十七條、第九十九條、第一百五十九條、第一百六十三條、第一百七十六條、第一百七十七條、第一百八十一條、第一百八十三條、第一百八十四條、第一百八十五條第一項、第一百九十三條、第二百二十六條、第二百三十九條、第二百四十一條乃至第二百六十五條、第二百七十三條、第二百七十四條第二項、第二百七十五條乃至第二百七十八條、第二百八十八條、第二百九十三條第一項、第二項及ヒ第二百九十四條ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス

第九十一條 相互會社カ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ營利ヲ目的トセサル社團法人ト同一ノ登録税ヲ納ムルコトヲ要ス
社員名簿ノ記載ニ付テハ登録税ヲ課セス

第九章 計算

第九十三條 保険會社ハ毎年一回一定ノ時期ニ於テ其帳簿ヲ閉鎖シ總會終

結ノ後遲滯ナク財產目録、貸借対照表、事業報告書、損益計算書及ヒ基本規則第十七號

ノ規定ハ相互會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九節 補則

第八十四條 各登記所ニ相互保險會社登記簿ヲ備フ
第八十五條 相互會社ノ設立ノ登記ハ總取締役及ヒ總監查役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

一定款

二 社員名簿

三 社員ヲ募集シタル場合ニ於テハ各社員ノ入社申込證

四 主務官廳ノ免許書又ハ其認證アル謄本

五 創立總會ノ決議錄

第六十六條 相互會社ノ社員名簿ハ登記簿ノ一部ト看做シ社員名簿ニ爲シタル記載ハ之ヲ登記ト看做ス但之ヲ公告スルコトヲ要セス

第八十七條 相互會社ヲ支配人ノ選任ノ登記ハ取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

前項ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅又ハ解任ノ登記ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

第八十八條 相互會社カ免許ノ取消ニ因リテ解散シタルトキハ登記所ハ主務官廳ノ囑託ニ因リテ其登記ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第八十九條 第八十五條第一項ノ規定ハ相互會社ノ解散又ハ其合併ニ因ル變更若クハ設立ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第九十條 非訟事件手續法第二百二十六條第一項、第三項、第二百三十六條乃至第二百三十九條、第二百四十一條乃至第二百六十五條、第二百七十三條第一項、第二百七十五條乃至第二百七十八條、第二百八十八條、第二百九十三條第一項、第二項及ヒ第二百九十四條ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス

第九十二條 相互會社カ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ營利ヲ目的トセサル社團法人ト同一ノ登録税ヲ納ムルコトヲ要ス

社員名簿ノ記載ニ付テハ登録税ヲ課セス

第九十三條 保険會社ハ毎年一回一定ノ時期ニ於テ其帳簿ヲ閉鎖シ總會終

結ノ後遲滯ナク財產目録、貸借対照表、事業報告書、損益計算書及ヒ基

金ノ償却、其利息ノ支拂、準備金並ニ利益又ハ剩餘金ノ配當ニ關スル決議
書ヲ主務官廳ニ提出スルコトヲ要ス

第九十四條 保険契約者、被保險者又ハ保険金額ヲ受取ルヘキ者ハ會社ノ定時總會終結ノ後前條ニ掲ケタル書類ノ閱覽ヲ求メ又ハ其謄本若クハ抄

本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但定款又ハ保険約款ノ定ムル所ニ依リ其謄

本又ハ抄本ノ交付ニ付キ手數料ヲ拂フコトヲ要ス

第九十五條 第九十三條ニ掲ケタル書式ハ農商務大臣之ヲ定ム

第九十六條 保険會社ハ保険契約ノ種類ニ從ヒ各事業年度ノ終ニ於テ存ス

ル契約ニ付キ責任準備金ヲ計算シ且之ヲ特ニ設ケタル帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

第九十七條 生命保險ニ在リテハ保険契約者又ハ保険金額ヲ受取ルヘキ者ハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ニ付キ會社財產ノ上ニ優先權ヲ有ス

第五章 罰則

第九十八條 主務官廳ノ免許ヲ得スシテ保険事業ヲ營ム者八十圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラル

第九十九條 保険會社ノ取締役、監查役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テ八十圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラル

一 保険事業ニ非サル事業ヲ爲シタルトキ
二 生命保險ト損害保險ト併セテ營ミタルトキ
三 主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキ

四 主務官廳ノ検査ヲ妨ケタルトキ

五 正當ノ理由ナクシテ本法ノ規定ニ依リ閱覽ヲ許スヘキ書類ヲ閲覽セシメス又ハ其謄本若クハ抄本ヲ交付セサリシトキ
六 第二十條ノ規定ニ違反シテ利益ノ配當ヲ爲シタルトキ
七 第二十三條ノ規定ニ違反シテ合併ヲ爲シタルトキ
八 第九十六條ノ規定ニ違反シタルトキ

第一百條 相互會社ノ發起人、取締役、監查役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處セラル

一 本法ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
二 本法ニ定メタル公告若クハ通知ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若クハ通知ヲ爲シタルトキ

三 第三十一條第二項ノ規定ニ反シ入社申込證ヲ作ラス、之ニ記載ス

ヘキ事項ヲ記載セス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

四 定款、社員名簿、總會ノ決議錄、財產目錄、貸借對照表、事業報

告書、損益計算書若クハ基金ノ償却、其利息ノ支拂、準備金、剩餘金分

配ニ關スル議案ヲ事務所ニ備ヘ置カス、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

五 商法第一百八十一條ノ規定ニ依ル監査役ノ調査ヲ妨ケタルトキ

第六條 相互會社ノ發起人、取締役、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テ八十圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラル

一 主務官廳ノ免許ヲ受ケシテ社員ニ非サル者ト保険契約ヲ爲シタルトキ

二 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

三 第五十七條乃至第六十一條ノ規定ニ違反シテ基金ヲ償却シ、其利息ヲ支拂ヒ又ハ剩餘金分配ヲ爲シタルトキ

四 第八十條第一項ノ規定ニ違反シテ會社財產ヲ處分シタルトキ

五 商法第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ違反シテ社員ノ責任ヲ減少シ又ハ合併ヲ爲シタルトキ

六 商法第一百七十四條第二項又ハ民法第八十一條ノ規定ニ反シ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

第七百二條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ本章ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

附 則

第一百三條 本法ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一百四條 商法施行法第九十五條乃至第一百十六條ハ之ヲ削除ス

第一百五條 本法施行前ニ設立シタル保険會社ニシテ其商號ニ保険ノ種類ヲ示ササルモノハ本法施行ノ日ヨリ三個月内ニ其商號ヲ改メ且本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第一百六條 本法施行前ニ設立シタル保険會社ニシテ營業ノ免許ヲ受ケサリシモノカ主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ會社ノ解散ヲ命スルコトヲ得

非訟事件手續法第一百二十六條第一項、第一百三十四條第一項、第一百三十五條及ヒ第一百三十五條ノ二ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一百七條 本法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ保険ヲ營業トスルモノ

ハ財産目録及ヒ貸借對照表ヲ作ル毎ニ遲滯ナク營業報告書、損益計算書

及ヒ利益ノ配當ニ關スル案ト共ニ之ヲ主務官廳ニ提出スルコトヲ要ス

第百八條 本法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノ

カ財產目録及ヒ貸借對照表ヲ作ル毎ニ保險契約者、被保險者又ハ保險金

額ヲ受取ルヘキ者ハ其閱覽ヲ求メ又ハ其謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求ス

ルコトヲ得但定款又ハ保險契約款ノ定ムル所ニ依リ其謄本又ハ抄本ノ交

付ニ付キ手數料ヲ拂フコトヲ要ス

第百九條 第四條、第五條、第九條乃至第十四條、第七十四條第二項及ヒ第

七十五條ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル保險會社ニ之ヲ準用ス

第一百十條 本法施行前ニ設立シタル保險會社ニシテ相當ノ責任準備金ヲ積

立テサルモノハ本法施行ノ日ヨリ三個月内ニ其不足額填補ノ方法ヲ定メ

主務官廳ノ認可ヲ申請スルコトヲ要ス但填補ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ

十年ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ填補ヲ爲シタル後ニ非サレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス

第一百一條 第七十九條ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル保險會社カ第二

十二條又ハ商法第七十四條第三號、第五號、第七號、第一百十八條、第二

百二十一條第二號、第三號ニ掲ケタル事由ニ因リテ解散シタル場合ニ之

ヲ準用ス

第一百十二條 第九十三條及ヒ第九十四條ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル

合資會社又ハ株式會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノニ之ヲ準用ス

第一百十三條 第二十一條乃至第二十三條及ヒ第七十八條ノ規定ハ本法施行

前ニ設立シタル株式會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノニ之ヲ準用ス

第一百十四條 第九十九條ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル保險會社ノ業務

ヲ執行スル社員、取締役、監査役及ヒ清算人ニ之ヲ準用ス

第一百十五條 保険會社ノ業務ヲ執行スル社員又ハ取締役カ第百五條又ハ第

百十條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處セラル

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ニ定メタル過料

ニ之ヲ準用ス

第一百十六條 外國人又ハ外國會社カ日本ニ支店又ハ代理店ヲ設ケテ保險事

業ヲ營ム場合ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第百十七條 本法ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム
〔政府委員岡野敬次郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(岡野敬次郎君) 保險事業ノ監督ニ關シマスル規定ハ現行法ニ於キマシテハ商法施行法第九十五條乃至第百十六條ノ規定ノミデアリマスル、此施行法ノ規定ハ一時ノ急ニ備フル爲ニ設ケマシタ規定デアリマシテ固ヨリ

不完全デアルノデアリマス、其不完全ナル所以ハ第一ハ現行法ニ於キマシテハ保險事業ナルモノハ株式會社ニ限テ之ヲ許スト云フコトニナッテ居ルノ

デアリマス、所謂相互會社ノ保險事業ニ爲スコトヲ認メテ居リマセヌノデ、

今回提出シマシタ此新シイ法案ヲ以テ此相互會社ノ設立ヲ認メルト云フコトニシタノデアリマス、他ノハ商法施行法ノ規定ハ誠ニ箇條モ少クアリマシ

テ保險ヲ爲ス當業者ニ於キマシテモ據ルベキ標準モナシ不完全デアル、又主

務官廳ニ於テ保險會社ノ監督ヲシテ居リマス點ニ於キマシテモ矢張リ標準ガ

誠ニ漠然トシテ居ルノデアリマスカラ其不完全ナル點ヲ補ハムガ爲ニ此法案ヲ提出シタ譯デアリマス、大體ノ提出ノ理由ハ斯ノ如キモノデアリマスルガ

此法案ハ我邦ノ現狀ニ於キマシテハ甚ダ必要ヲ感ジテ居ルト認メテ居ルノデアリマスカラ、一日モ早ク御協賛アラムコトヲ希望スルノデアリマス

○辻新次君 少シ質問致シマス、第一、御尋シタイコトハ此十條ノ第二項デ

アリマス「主務官廳ハ本法及ヒ第六條並ニ第七條ニ掲ケタル書類ノ規定ニ從

ハシムル爲メ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得」此必要ナル命令ヲスルト云フノハ大凡ドンナコトデアリマスカ、ソレナ御尋シテ置キタイノデアリマス、ソ

レト同ジコトデ第十二條ノ所ニモ「必要ナル命令」ト云フコトガアリマス、

第十二條ノ終ノ所ニアリマスガ、ドウ云フコトデアリマスカ、御尋シテ置キ

タイ、ソレカラ第二十一條ニ「商法第二百十條ノ規定ハ保險ヲ營業トスル株

式會社ニハ之ヲ適用セス」トアリマスノハドウ云フコトデアリマスカ、株金

ガ全額拂込ヲシテナクテモ增加スルコトハ差支ナイト云フコトデゴザイマス

○政府委員(岡野敬次郎君) 唯今ノ……

○辻新次君 チヨット序ニモウーッ御尋シタイノデアリマス、ソレカラ附則

デアリマスガ第百五條ニ「本法施行前ニ設立シタル保險會社ニシテ其商號ニ

云フト明治生命保險株式會社、明治火災保險株式會社トカ云フヤウナア、云

フモノヲ云フヤウニ考ヘマスガ、サウ云フ譯デアリマスカ、ソレカラ第百九

條ハ是カラ後ニ保險ノ契約ニ關係スル時トカ云フモノヲ變ヘルトキニ許可ヲ

經ネバナリマセヌカ、今アツテ變ヘルコトノナイ以上ハ其儘ニ置クト云フ譯

デアリマスカ、ソレカラ百十條デス、百十條ノ「本法施行前ニ設立シタル保險會社ニシテ相當ノ責任準備金ヲ積立テザルモノハ本法施行ノ日ヨリ」三个月内ニ其不足額填補ノ方法ヲ定メ」云々トアリマスガ「相當ノ責任準備金」ト云フ此「相當」ト云フノハ何カ標準デモアツテソレニ依ッテ命令サレルノデアリマスカ、ソレハサウデハナイ矢張リ各會社が大凡相當ト見タル所ノモノヲ云フノデアリマスカ、若シ相當ノ責任準備金ト申シマスレバ現在ノ有様ハ色々會社デ方法ハ異ニシテ居リマセウ、勿論此事ハ前後照應シテ見マスト云フト設立ノ費用及最初ノ五箇年ノ營業費ト云フモノハ十年ヲ越エザル期間内ニ償却ノ方法ヲ附ケルト云フヤウナコトガ段々アリマスカラシテ、ソレ等ト照應シテ見ルト新契約費ト云フモノヲ準備金ノ中カラ或ハ借りテソレナ或ハ年賦償却法トカ何トカ云フモノデ漸々ニ償却シテ行クト云フ、ソレハ無論ノコトデ、ソレガ凡ソ適當ニナツテ居ルマデノ準備金ト云フヤウナ名稱ハ此一ツソレヲ事柄デ申セバ例ヘバ責任準備金ノ中カラ或ハ借りテソレナ或ハ年賦十年ト定メテ、ソレナ永ク漸々ニ償却シテ行クト云フコトニシテ、ソレガ凡ソ相當ニ行ツテ居レバソレダケノ責任積立金ト云フコトデアリマスカ、サウ云フコトモ新契約費モ少シモソレカラ借リルコトハ出來ナイト云フマデニ行クコトデアルノデアリマスカ、一應御尋シテ置キタイ、先ヅソンナモノデ……

〔政府委員岡野敬次郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員岡野敬次郎君 御答致シマス、第一ノ御尋ハ第十條第二項、第十二條ノ「必要ナル命令」ト云フコトハ如何ナル意味デアルカト云フ御質問ト考ヘマス、デ第十條ノ二項ニ於キマシテハ「本法及ヒ第六條並ニ第七條ニ掲ケタル書類ノ規定ニ從ハシムル爲メ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得」ト斯ウアルノデ、是ハ第六條第七條ニ於キマシテハ保險會社が營業ノ免許ノ申請ヲ爲ストキニ此書類ニ依リ此形式ニ依ツテ或ハ其契約ヲ爲シ又保險料ヲ定メ責任準備金ヲ定メルト云フコトガ書イテアル、然ルニ實際ニ於キマシテハ或ハ會社ノ爲ス所が定款ニ定メテアル所、此主務官廳ニ提出シマシタ所ノ書類規定ニ異ナツテ居ルコトガナイトモ限ラヌノデアリマスカラ、若モ萬一二モ會社ガ其書類ノ規定ニ違フヤウナ行爲ヲ致シマシタトキニ其規定ニ從ハシメル爲主務官廳カラ命令ヲ發スルノデアリマシテ、是ハ特ニ省令ヲ出スト云フヤウナ意味デハナインデアリマス、其時其時ノ必要ニ應シテ主務官廳が其各社ニ對シテ命令ヲ爲スコトヲ規定シタノデアリマス、第十二條ニ於キマシテモ矢張リ隨時此行政官廳ノ發スル所ノ命令ヲ云フノデアリマシテ、例ヘバ保險

金額ヲ受取ルベキモノト或ハ被保險者ノ權利ヲ保護スルニハ會社ノ或ハ資本金ノ一部分ヲ供託サセルガ宜シイ、然ラズンバ權利者ノ權利ヲ害スル虞ガアルト認メマシタトキニ例ヘバ供託ヲ命ズルト云フヤウナコトモ云フノデアリマス、是モ決シテ豫メ省令ヲ出シテ其省令ニ於テ斯クスノコトナスルト云フコトヲ指スノデハナイノデアリマス、第二十一條ノ規定ハ御質問ニナリマシタ通リノ主意デアリマシテ、普通ノ會社ニ於キマシテモ初メテ定款ヲ以テ定メタ資本ノ總額ノ金額ノ拂込ガ終ラナケレバ資本ヲ増加スルコトヲ得ナイトナツテ居ル、其規定ヲ保險ヲ營業トスル株式會社ニハ適用セヌト云フコトヲリデ、保險ノ種類ハ例ヘバ生命保險デアル、或ハ火災保險デアル、或ハ運送保險會社トカ云フヤウナ其事ヲ商號ニ加ヘレバソレデ宜シイノデアリマスカラ、明治生命保險株式會社或ハ明治火災保險株式會社ト云フヤウナ名稱ハ此法律ノ規定ニ適ツテ居ル所ノ名稱デアリマシテ、ソレ等ハ固ヨリ第百五條ニ依ツテ改メル必要ハナイノデアリマス、ソレカラ第百九條、此百九條ノ規定ハ大體此附則以外ノ附則ニアラザル規定ハ此法律ノ施行セラレタ後ニ於テ設立セラル、所ノ會社ニ嵌メルト云フノガ大體ノ主意デアリマスカラ、既ニ此法律施行前ニ設立セラレテ居ル所ノ會社ニハ附則中ニ明文ガナケレバ先づ適用セヌノデアリマス、ソレデアリマスカラ第四條或ハ第六條第七條ノ書類ハ……既ニ今日免許ヲ得テ營業ヲ爲シテ居ル者ハ此法律施行以後ニ於テ更ニ又免許ヲ受ケネバナラヌト云フ必要ハナイノデアリマス、第九條ノ規定ガ矢張リ準用セラレテ居リマスカラ今日免許ヲ得テ設立セラレタ會社ガ此法律施行以後ニ於テ或ハ定款ヲ變更スルトカ即チ書類ヲ變更スルトカハソレハ更ニ認可ヲ經ナケレバナリマセヌガ、併ナガラ從來ノ書類ニ從ツテ營業ヲ爲シテ行ク間ハ別段ニ免許ヲ請フノ手續ヲ爲ス必要ハナイノデアリマス、ソレカラ第百十條ノ規定デアリマス、細カイ御質問デアリマシタガ責任準備金ヲ如何ニ積立テルカ、其積立テル方法ニ附キマシテハ啻ニ此既設ノ會社ニ關係スルノミナラズ此法律案ノ全部ニ附イテ即チ此法律ヲ施行スルニ當ツテノ法案ノ全部ニ關スル問題デアリマス、御承知ノ通り商法施行法第九十八條ニ於キマシテハ保險料及責任準備金算出ノ規定方法ニ關スル書類ヲ政府ニ出シテ、ソコデ營業ノ免許ヲ請フト云フコトニナツテ居リマスカラ、固ヨリ今日營業ヲ爲シテ居リマス保險會社モ其會社ニ取ツテヤルベキ標準ガナクテハナラヌノデアリマスカラ、其標準ニ依ツテ責任準備金ヲ積立ツバキ筈デアリマス、此第百十條

デ申ス相當ト云フノハ各會社ニ通ジテ一般ノ標準ナ申スノデハナイノデ、其會社會社ガ自分ノ計算ノ基礎ニ依テ積立ツベキ相當ノ金額ト云フコトナ云フノデアリマス、ソレデアリマスカラ會社ニ依テハ其積立ノ方法ヲ異ニスルニ從ツテ矢張リ相當ト云フ金額モ違ツテ來ルノデアリマス、ソレデ併ナガラ事實、免許ヲ請フニ當ツテ提出致シマシタ其書類通りノ金額ヲ積立ツテ置カナイモノガ今日ノ會社ニアルヤウデアリマスカラ、之ヲ本法施行ト共ニ直ニ其全額ヲ積立テヨト云フコトナ命ズルノハ少シ從來ノ法律が不完備ナル所カラ急劇ノ變化ヲ爲スコトデアリマスカラ先づ十年以内ノ期間ヲ與ヘテ其間ニ於テ漸次不足ノ所ヲ填補スルヤウニト云フ方針ヲ執タノデアリマシテ、ソレガ爲ニ第百十條ヲ設ケタノデアリマス

○村田保君 本員モ少々御尋致シタイノデアリマス、此改正案デ見マスルト最モ大問題ト思フノハ此相互會社ダト思ヒマス、此相互會社ト云フモノハ即チ今日マデ日本ノ人ノ夢ニモ見ナイコトデハナイカ、成ル程歐羅巴ニハアリマスケレドモ我邦ニハ從來ハナイ、勿論今日新規ニ相互會社ヲ置カレタイト云フサウ云フ一般ノ希望ガアルノデアリマス、一般人民ニ相互會社ト云フモノノ望ガアリ日本ノ株式會社バカリデハイカヌカラ相互會社ト云フモノヲ置カヌケレバナラヌノデアリマスガ、實ハ株式會社ト云フモノノ出來テ居ル今日ノ保險會社ト云フモノハ互ニ競爭ヲシテ倒レムトスルヤウナ有様デアルト思ヒマス、然ルニ此相互會社ト云フモノヲ設ケテ互ニ保險ヲセヨト云フコトガ出來テ來タラ今日ノ保險會社モ維持が出來ナイデハナイカト云フ考ナ持テ居リマス、其邊ハ政府デハドウ云フ御考デアリマスカ

○政府委員(岡野敬次郎君) 御答ナシマスルガ相互會社ノ必要ト云フコトハ實ハ其日本ノ保險ニ從事シテ居ル方デアルテ而シテ實際保險ノ事業ハ斯ノ如キモノデアルト云フコトナ知テ居ラル、方ハ日本ニ相互會社ノ必要ナルコトハ既ニ餘程前カラ說カレテ居ルノデアリマス、デ商法施行法ノ一部分トシテ保險會社ニ關スル規定ヲ設ケマシタ際ニモ商法施行法ニハ御承知ノ通りニ株式會社ニアラザレバ保險事業ヲ營ムコトナ得ズト云フ規定ヲ設ケタノデアリマシテ、何故ニ商法施行法が認メナインデアルカ、相互會社ト云フモノハ日本ノ今日ニ於テハ最モ必要デアルト認ムルニ株式會社ニ限ツテ保險事業ヲ許スハドウ云フ理由カト云フ質問モアラノデアリマスルシ、又貴族院ノ特別委員會ニ於キマシテモ同様ノ質問ガ出タノデアリマスデ必要ヲ認メテ居リマスガ、何分此相互會社ヲ認ムル以上ハ十分ノ調査モセネバナラズ、法律ノ

規定トシテモ俄ニ浩瀚ノ規定ヲ設ケルト云フ譯ニモナリマセヌカラ、ソレデ已ムヲ得ズ株式會社ニ限ルト云フコトニ致シタノデアリマス、西洋ノ事情如何ノコトハ村田サン専モ無論御承知ノコトデアリマセウガ、勿論外國ノ事情ト云フモノハ此相互會社ノ事業ト云フモノガ段々盛大ニナルノデアリマシテ、株式會社ニ於テモ相互會社ト競争ノ必要上カラ或ハ悉ク株式ノ間ニ配當ナシタモノヲ幾部分ハ被保險者ニ割戻スト云フヤウニシテ相互會社ハ競争ヲシテ居ルト云フヤウナ有様デアリマス、我邦ニ於キマシテハ生命保險ニ附イテハ疾ニ相互會社ノ必要ヲ認メテ居ルノデアリマス、デ是ハ唯理論ニ於テ必要アリ實際上モ亦必要デアルト云フコトヲ認メマシテ初メテ此法案ニ於テ相互會社ヲ認メルト云フコトニシタノデアリマス

○村田保君 併シ本員ノ御尋ナシタ所ノ御答辯ハナカツタノデアリマス、必要ヲ認メタト云フノハ、ソレハ學者間、政府ハ認メタカ知ラヌガ一般ノ人……商業會議所カラ申出タトカ何ントカ云フコトガアツタノデアリマスカ、ソレヲ認メルト云フノハムツカシカラウト思フ、ソレト益外國ノヤウニ相互會社ガ盛ニナツタラ株式會社ニ影響ヲ及ボスト云フコトハ知レタコトト思フガ、ソコハドウデゴザイマスカ

○政府委員(岡野敬次郎君) 實際此商業會議所アタリカラ是非日本ニ相互會社ヲ設ケルガ宜シト云フ希望ヲ述ベタト云フコトハ聞キマセヌノデアリマス、マダ保險事業ト云フモノハ誠ニ劍呑ナ事業デアリマシテ保險會社ニ關係シテ居ル所ノ人モ悉ク保險營業ト云フモノハ斯クスノモノデアルト云フコトヲ熟知シテ居ラナイ方モアルヤウニ私ハ考ヘテアルノデアリマス、相互會社ハドウ云フモノデアルカト云フコトハ中々保險ト云フコトニ與ラヌ人抔ノ知ルベキコトデハナカラウト思フノデアリマスカラ從ツテ相互會社ト云フモノヲ日本ニ於テ必要ト認メルカラ是非法律ヲ以テ認メテ吳レロト云フ希望ヲ述ベル機會モナイト信ジテ居リマス、併ナガラ此保險ノ實際、此保險ノ理窟ト云フモノヲ研究セラレテ、畜ニ本ヲ讀ンデ居ル者バカリデハアリマセヌ實シテ、御尋ノ如ク商業會議所カラ建議ナシタトカ云フ事實ハ度々相互會社ノ設立が必要デアルト云フコトノ說ナ聞イタコトハアリマスルガ、併シソレハ或ハ新聞ニ或ハ雑誌ニ各其意見ヲ述ベテ居ルノデアリマスシテ、御尋ノ如ク商業會議所カラ建議ナシタトカ云フ事實ハイノデアリマス、デ此相互會社ノ必要ヲ認メタト云フコトハ多少株式會社ノ競争ヲスルコトニナルデアラウ、是ハ無論政府ニ於テモ認メテ居ルノデア

リマス、同ジ事業ヲ目的トスル會社ガ設立セラルレバ啻ニ相互會社ノミデハナイ株式會社ハ同ジ主義ニ……實際ニ於テ競争ヲセネバナラヌノデアリマスカラ既ニ村田サンノ御話ノ通り今日ニ於テハ株式會社バカリ認メテ居ラナクテモ矢張リ御互ニ競争ヲシテ居ルノデアリマス、相互會社ガ矢張リ其競争ノ中ニ加ッテ多少株式會社ト競争ヲ爲スト云フコトハ事實ニ於テ認メテ來ルト云フコトハ覺悟デアリマス、併ナガラ假令相互會社ヲ法律ニ於テ認メタト云ウテモ幾ツモ相互會社ガ起ルデアラウト云フコトハ考ヘテ居リマセヌ、デ是ハ相互會社ニ關スル規定ヲ御覽下サレバ先づ相互會社ヲ設立スルニ附イテハ株式會社ト同様十萬以上ノ基金ガナケレバナラヌ、其金ヲ出ス者ガナケレバナラヌ、其金ヲ出ス者ノ權利如何ト云フコトニ附イテハ普通ノ債權者ト云フ者トハ餘程權利ノ弱イモノデアリマシテ、其金ヲ集ムルニシテモ隨分容易ノモノデハアルマイト思フ位デアリマスカラ、決シテ此法律ガ施行セラル、ト共ニ非常ナ大キナ相互會社ガ澤山出來テ株式會社ト競争上、其會社ノ衰微チ來タスヤウナ原因ニナルコトハ信ジテ居ラヌノデアリマス○村田保君 サウスルト政府ガ隨分此株式會社ト競争サセテ倒レルモノハズン倒シテ仕舞ハウト云フ御主意デアリマスカ、今日ノ株式會社バカリデアッテモ續々倒レムトスル有様デアルノニ、尙ホ一ツ競争者ヲ餘計ニ増シテサウシテ惡イモノハ倒シテ仕舞ハウト云フノデアルカ、チヨット伺ヒタイ、ソレト尙ホ一ツ本員ガ伺ッテ置キタインハ政府ガ之ヲ出サレタノハ此議案ト云フモノハ隨分餘程保險上大問題ト思フ、我ニハ隨分一箇月位ハ掛ルダラウト思フ、然ル所ガ餘日モナイ僅カ二週間、ニ週間デハ逆モ議サレナイ、所ガ是ハ貴衆兩院ニ回ラナケレバナラヌ、サウスルトコチラデハ漸ク三日四日デ議サナケレバナラヌ、此問題ヲ一體政府ハドウ云フ御考デアリマスカ、是非此議會ニ兩方ヲ通サウト云フ考デアリマスカ、ソレヲ併セテ伺ヒタイト思ヒマス○政府委員(岡野敬次郎君) 御答ナ致シマスルガ、決シテ現在ノ會社ヲ互ニ競争サセテ惡イモノハ競争上潰シテ仕舞フ方が宜シイト云フ考デハ毛頭ナインデアリマス、固ヨリ業務執行上ニ附イテ相當ノ監督ヲ爲シ、甚シイモノニ至テハ法律ノ規定ニ據テ解散ヲ命ズルト云フコトモアリマスケレドモ、併ナガラ設立ヲ許可シテ置イテ而シテ一方ニハ競争サセテ潰スモノハ潰スト云フヤウナ方針ヲ採ルコトハ出來ナイト云フコトハ明デアリマス、此法案ハ大キナ法案デアル、中々容易ニ議了スベキモノデナイガ、政府ハ兩院ヲ通過セシムルト云フ考デアルカト云フ御尋デアリマシタガ、固ヨリ此法案ノ必要ナ

ルコトナ認メテ居リマスルノデ、兩院ノ通過ヲ希望セネバ徒ニ議案ヲ提出スルト云フヤウナコトハセヌノデアリマスカラ、固ヨリ政府ノ望ム所ハ此議會ニ於テ此法案ガ此兩院ヲ通過シテ

〔村田保君 ソレナラモウ少シ早クスルコトナ……」ト述フ〕

○武井守正君 チヨット御尋ナ致シマス、豫テハ供託金ノ制ナ立テ拂込資

本金ノ三分ノ二若クハ四分ノ三マデ供託サセルコトニスルト云フ御考テ居リマス、是ハ至極サウアリサウナコトカト信ジテ居リマシタガ、サウ云フコトハ此法案ニハ表ハシテ居ラヌ、ソレカラ今一ツハ計算ヲ年度勘定ニサセル、是モ至極サウアリサウナコトカト信ジテ居リマシタノニ其事モ表

レテ居リマセヌ、豫テ御取調ニナツテ居ッタ云フコトナ承ツテ居ッタノデアリマスガ、此供託金ノコトト年度勘定ノコトノ抜ケマシタノハドウ云フ御考カラ御取ニナリマシタカ、ソレカラ今一ツ御尋致シタノハ「保險會社ハ他ノ事業ナ兼マルコトナ得ス」ト云フコトナ規定シテアリマスガ、他ノ營業會社ハ

保險事業ナ兼マルト云フコトハシ得ナイノデアルト云フノデゴザイマスカ、御尋ナシタウゴザイマス

〔政府委員岡野敬次郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(岡野敬次郎君) 唯今ノ御質問ハ少々聽取リ惡ウゴザイマシタガ、第三番目ノ御問ダケハ聽取レマシテゴザイマスカラ、先づソレカラ御答ナ致シマス「保險會社ハ他ノ事業ナ兼マルコトナ得ス」ト云フノハ第四條ニ明ニ定メタル、詰リ此第四條ノ規定ハ保險事業ハ他ノ事業ト兼ネルコトナ得ナイト云フ精神デアリマスカラ、他ノ營業ナ爲シテ居ル會社ガ保險事業ナ爲スコトヲ併セテ禁ズルノ精神デアリマス、第一ト第二ノ御質問ハモウ一應ドウゾ御述ナ願ヒタウゴザイマス

○武井守正君 諸君農商務省御取調ニナツテ居ルト云フコトナ承リマシタノデ、先年草案ヲ拜見シタコトモアリマス、保險會社ハ資本金ノ其拂込額ノノデアリマス、固ヨリ業務執行上ニ附イテ相當ノ監督ヲ爲シ、甚シイモノニ至テハ法律ノ規定ニ據テ解散ヲ命ズルト云フコトモアリマスケレドモ、併ナガラ設立ヲ許可シテ置イテ而シテ一方ニハ競争サセテ潰スモノハ潰スト云フヤウナ方針ヲ採ルコトハ出來ナイト云フコトハ明デアリマス、此法案ハ大キナ法案デアル、中々容易ニ議了スベキモノデナイガ、政府ハ兩院ヲ通過セシムルト云フ考デアルカト云フ御尋デアリマシタガ、固ヨリ此法案ノ必要ナ

ト云フ御詰ヲ承ッタノデアル、然ルニ此法案中ニ其事が表レテ居リマセヌカラ
此ニツハ此法案ニ對シテ必要ナコトノヤウニ本員ハ感ジマスルガ何デ其事ガ
ナクナツカ、ドウ云フ譯デアルカト云フコトヲ承リタイ
○政府委員(岡野敬次郎君) 御答致シマスルガ、此法案ハ法典調査會ニ於キ
マシテ議決シマシタ案デアリマス、農商務省ハ關係ガナイノデアリマス、ソ
レデ或ハ世間ニ農商務省ガ其調査ヲシタ案デアルトカ、或ハ其農商務省ノ手
ニ成ッタ法案デアルト云フ名前ニ新聞ナリ或ハ雑誌ナリニ今年ノ始リアタリ
ニ廣マツテ居リマシタノハ是ハ其世間ニ此法案ノ抜書デアル如クニ誤リ傳
ヘタノデアリマシテ、彼ノ新聞ニ出マシタモノト是トハ全ク別物デアルノデ
アリマス、以前唯今御説ニナリマシタヤウナ法案ガ二三年前ニ此農商務省ノ
嘱託ヲ受ケ調査シテ居リマシタ栗津君玉木君杯ノ手ニ成ッタモノガアリマシ
テ是モ私ハ一應見マシテゴザイマスガ、此保險業法案ハ其案トハ全ク別物デ
アリマスルカラ、別段ニ此法案ヲ以テ御詰ニナルヤウナニ箇條ノ如キモノヲ
削ッタノデハアリマセヌ、此法案ニ於テ御詰ニナルヤウナコトハ認メナイト云
フコトヲ申上ゲルヨリ外ハナイノデアリマス

○武井守正君 ソレデゴザイマスレバ出來マシタ場所ハ法典調査會デアリマ
スカ、農商務省デアリマスカヲ伺フ必要ハナイノデアリマスガ、法典調査會
デ御調ニナツタトシマスレバ唯今伺ヒマシタニ箇條ハ不必要ナリト御認ニナ
リマシタノデアリマスカ

○政府委員(岡野敬次郎君) 此法案ニ認メテナイコトハ矢張リ不必要、此法
律ニ規定スル必要ハナイト云フコトヲ信ジタノデアリマス

○武井守正君 其必要デナイト御考ニナリマシタ理由ヲ拜聽致シタウゴザイ
マス

○政府委員(岡野敬次郎君) 唯今ノ御話ハ資本金ノ幾部分ヲ供託サセル、御
承知ノ通り此保險會社ノ資本ト云フモノハ普通ノ營業會社ノ資本トハ違ヒマ
シテ營業資本デハナイ、萬一ノ場合ニ備ヘル此擔保ノ性質ヲ有ツテ居ル金額
デアル、デ會社ノ資本ト云フモノハ段々ニ會社ノ營業ガ盛ニナリマスレバ保
險金額ト云フモノハ悉皆其資本金ノ幾十倍ニ上ボルト云フコトモアルノデア
リマス、誠ニ生命保險會社ノ如ク長久保險期間ノアルモノハ幾十倍幾百倍ニ
モ上ボルノデアリマス、其幾百倍ト云フ保險金額ト云フモノノ擔保トシテ例
ヘバ十萬ナリニ二十萬ナリト稱スル會社ノ資本ノ半額トカ三分ノ一トカ或ハ四
分ノ三トカ云フヤウナモノヲ供託シテ置イタ所デ實際ニ於テ其效能ハナイノ

デアル、又其所謂責任準備金ヲ積立テルニ至リマシテハ自ラ會社ノ據ルベキ
標準ガアル、其標準ニ據ツテ此保險金ノ支拂ニ充テベキ金額ダケハ積立テナ
ケレバナラヌト云フコトニナツテ居リマスカラ、別段ニ非常ナ助ニナラヌ所ノ
供託云フヤウナコトヲ法律ニ於テ命ズル必要ハナイト云フコトヲ認メタノデ
アリマス、ソレカラ從來此保險會社ガ所謂決算ヲ爲スニハ實際ニ於テハ毎
年二回ヤツテ居ルノデアリマス、此法案ニ於キマシテ第九十三條ニ於テ「保險
會社ハ毎年一回一定ノ時期ニ於テ其帳簿ヲ閉鎖シ」云々ト云フノデ、一年一
年デナケレバ決算ヲ爲スコトヲ得ナイト云フコトニ先づ改メタノデアリマ
ス、之ニ附キマシテハ詰リ此年ニ二回以上ノ決算ヲ爲スト云フノハ普通ノ株
式會社ニ附イテモ日本人ノハ殆ド特別ト申シテモ宜イノデアリマシテ、從來
二回以上ノ決算ヲ爲シテ居ルガ故ニ商法ニ於テモ之ヲ認メタノデアリマスケ
レドモ、併ナガラ保險會社ニ附イテハ免ニ角一年ノ成績ガ現レタ上デナケレ
バ果シテ其會社ニ利益ガアツカ或ハ其會社ニ損失ガアツカト云フコトハ分
り得ナイ、殊ニ一年ノ同じ期間ノ中ニ或ハ危險ノ多イ期間モアリ、危險ノ少
イ期間モアルカラ先づ一年ニ平均シタ上デ決算ヲサセヤウト云フノデ九十三
條ノ規定ヲ設ケタノデアリマス

○武井守正君 マダ少シ分リ兼ネマス、今ノ御説明ハ伺ッテ分シテ居リマス
ガ、歐羅巴アタリノ勘定ノ仕方ハ本年勘定ヲシマスノハ一昨年ノ勘定デ、昨
年ノ勘定ハ今年ハマダセヌ、是ハ餘程保險會社ニハ必要デアラウト思ヒマス、
ソレヲ行レルカノ如ク最初伺ッテ居リマスガ、茲ニソレハナイノデ、ソレデ此
勘定ハ不必要ナリト御取除ケニナリ、又御差加ニナラヌノハ必要ガナイト云
フ御見込デアルト云フコトデアリマスカ、其理由ヲ伺ヒタイト申シタノデア
リマス

○政府委員(岡野敬次郎君) 此九十三條ニ於キマシテハ唯毎年一回一定ノ時
期ニ於テ其決算ヲ爲スト云フコトヲ規定シタノデアリマス

○武井守正君 其二回デアツタモノヲ一回ニスルト云フコトハ分シテ居リマス
ガ、歐羅巴ノ勘定ノ仕方ニ改メナイカト云フコトヲ伺ヒマシタラ一向必要ガ
ナイト云フコトデアリマスカラ必要ノナイト云フ理由ヲ伺ヒタイト申シタノ
デアリマス、普通世界デ勘定スル保險會社ノ勘定ノ仕振りニ爲サラヌノハド
ウ云フ譯デアルカト云フコトヲ伺ヒタインデアリマス

○政府委員(岡野敬次郎君) 計算ノコトニ關係シマシテハ矢野政府委員カラ

〔政府委員矢野恒太君演壇ニ登ル〕

○政府委員（矢野恒太君） 唯今武井サンカラ御尋ノ保険年度勘定ノコトデゴザイマスガ、豫テ世間ニ斯ウ云フモノガ此法律ノ中ニ這入ッテ來ルデアラウト云フ噂モアツタヤウデアリマス、ソレデ御尋デアラウト思ヒマスガ、此事ハ此法律ニ強チ書イテ置カンデモサウ云フ技術上ノ積立金ノ仕方ノ如キハ申上ダルマデモナイ、保険年度勘定ハ損害保険ノ方デハ使ハナイ、生命保険ノ方デ使フ方法デアリマスガ、生命保険ノ積立金ノ仕方ノ如キ先刻辻君カラ御話ガゴザイマシタ如ク殆ド今日學者ノ認メテ居ル方法デモ十二ノ多キニ上ッテ居ルコトデアリマシテ、ドウ云フ方法ヲ執ルカト云フコトハ主務官廳ノ認定ニ此法律デハ任ジテゴザイマスノデ、保険年度勘定ヲ取ルカ、暦年デ勘定ヲ取ルテ其年ミノ收入損益ヲ出シテシマフカト云ヒマスト、今日日本ノ火災、海上、ニツノ保険會社ニ於テハ孰モ暦年勘定ヲ取ル、甚シキハ暦年ノ勘定スラモ完全ニ取ラナイノモ中ニハアルヤウデアリマス、デ此事ニ附イテハドウセ唯今マデモ主務省ノ方カラ農商務省ニ規定シタ方法ヲ以テヤル以上ノ方法ニシテ貰ヒタイト云フコトヲ強ヒタ所モゴザイマスシ、マダ十分ソコマデ手ノ届カヌ所モアリマスガ、日本ノ海上保険、少クモ暦年勘定ハ損害保険ノ中デモ海上保険ニ必要デアル、其年ニ契約致シマシタモノハ其年ノ末ニナッテ愈々経過シテシマッテ居ルカ、経過シテ居ナイカト云フコトガ即チ船ガ向フニ著イタカ著カナイカト云フコトガ分ラヌ契約ガ大變多ウゴザイマスノデ、一年若クハ二年ノ後ニ於テ保険會社ダケヲ特別ニシテ行ク必要ガアル、此ヤリ方ニ附イテハサウシテ見ナケレバ日本ノ損害保険事業ガ確實ニ行カヌト認メマシタカラ主務官廳カラ其事ヲ命ジマシテ所謂被保険者ヲ保護スル必要ナル命令トシテ此事ハ各會社ニ命ゼラレルデアラウト思ヒマス、斯ノ如キ技術上ノコトハ一々此法律ニ書クト云フコトハ煩ニ堪ヘマセヌ此デ法律ニ載セマセヌデゴザイマス

○武井守正君 技術上ノコトデ煩ニ堪ヘナイト云フコトデスガ、年度勘定ニスルコトハ曾テ農商務省ニ於テ矢野君カラ承ッタコトガアリマス、是ハ必要ナコトデアリマスカラ歐羅巴デモサウナツテ居リマスガ、損害保険ニ對シテハ年度勘定ニスルコトハ極ク必要デアリマスカラ唯一條規定スレバソレデ済ミマスカラサウナリタイコトト思ヒマス、今御説明中ノ講釋メイタコトハ伺ヒタクナイ、年度勘定ニナサラズシテ暦年勘定ニナサレタノハドウ云フ譯カト云フコトヲ伺ヒタイノデアリマス

○政府委員（矢野恒太君） 暗年年度勘定ニスルハサウ書イテナイガ毎年決算ヲ致シマス、毎年決算ナスル上ニ保険勘定ハ暦年年度勘定ヲ用ヒルカ、保険年度勘定ヲ用ヒルカ、詰リソレハ計算ノ仕方デゴザイマスカラ此法律ニハ別ニ掲ゲナカッタ、若シ損害保険ダケニ積立金ヲ出セバ生命保険ノ方ニモ積立金ヲ出サナケレバナラヌ、サウスレバドウシテモ數式ヲ擧ゲテ來ナケレバナラヌ、殊ニ生命保険ハ御承知ノ通り非常ニ種類ガ多ウゴザイマスカラ之ニ向テ悉ク計算式ヲ擧ゲテ行クコトハ煩ニ堪ヘナイト云フコトデ、一般ニ斯ノ如キコトハ法律ニ規定シテ置ク必要ハアルマイト認メタノデゴザイマス

○議長（公爵近衛篤磨君） 他ニ御質問ガナケレバ委員ノ選定ニ移リマス

○子爵小笠原壽長君 此保険業法案ハ隨分條項モ澤山アリマスシ、又は保険業者ニ取りマシテハ重大ナ法案デアリマスカラ委員ノ數ハ十五名トシテ其選舉ハ議長ニ御委託致シマス

○村田保君 贊成

○議長（公爵近衛篤磨君） 委員ノ數ナ十五名トシテ議長ニ委託スルト云フ動議ガ出マシタ、御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○公爵（公爵近衛篤磨君） 御異議ガ無ケレバ其通り致シマス、……船舶検査法中改正法律案、政府提出、第一讀會ノ續、特別委員長報告

〔公爵二條基弘君演壇ニ登ル〕

○公爵二條基弘君 委員會ノ経過並ニ結果ヲ御報道致シマス、此案ガ我々委員ノ手ニ渡リマシテカラシテ今日マデ四回ノ委員會ヲ開キマシテゴザイマス、ソレニ依リマシテ十分ニ政府委員トノ質問討論モアリマシテ其後ニ此十七條ノ僅ノ修正ノ外ニハ總テ原案ト決シマシタノデゴザイマス、其中ニ質問トシテ一番重ナル箇條ハ即チ第五條、第十七條、第十八條デアリマシタ、此五條ノ「船舶ノ検査ハ其ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳之ヲ行フ」ト云フコトニ附イテ、今日千島アタリニモ現在アル、即チ小サナ船ヲ造ッテ居ルガ、其船ヲ検査スルニ管轄廳マデ持ッテ行クト云フト即チ函館マデ持ッテ行カナケレバナラヌ、然ルニ其間ヲ航海スルノハ難イコトデアルカラシテ或ハ検査官吏ニ出張デモ請フコトニナルカ、若シモサウスレバ中ニ費用ガ掛ッテ困難ヲ感

ズルデアラウ、其船ナ回サウトシテモ持ツテ行クコトガ出来ナイ、或ハ便船ニ依ツテ船ナ積込ンデ持ツテ行ツタ所ガ歸リハ其船ダケデ歸ルコトガ出来ナイ、何レニシテモ困難デアルガ、其検査ハドウ云フ工合ニシテ出來ルカ、或ハ政府ノ方デ特別ニ検査官吏ナ派遣シテ検査ナスルト云フコトニナルカドウ云フコトデアルカ、政府委員ノ答辯ニハサウ云フコトハ政府ノ方デ特別ニ検査官吏ナ派遣シテ検査ナサセルコトガ出來ルト云フコトニナルカドウ云フコト七條ハ修正モゴザイマスカラ後トカラ述ベマスルガ、十八條ノ重ナル主意ハ、唯一般ニ船舶ノ検査ナスルニ關シテドウカ同一ノ方法デモツテ検査ノ施行ナヤラウト云フ御論モアリマシタ、併シ若シソレガ又他ノ方デハ同一ノ方法デハ到底イケマイ、其縣々ニ於テ皆船ノ構造が違フカラシテ到底サウ云フコトハ出來マイ、故ニドウシテモ遞信大臣ノ認可ナ受ケテ唯必要ナル規定ナ設ケテ置ケバ其縣々ニ於テ今日違ツテ居ル構造ハアルケレドモ其構造ハ即チ土地ノ習慣ニ依ツテ違ツテ居ル所モアルカラシテ少シモ今日人ナ乗セタリ或ハ荷物ナ運搬スルコトニ危険ナルコトハナイカラシテ、即チ其土地ノ習慣ニ從ツテ別々ニシタ方が宜カラウト云フ議論ニ詰リ歸著シマシテ原案通リニナリマシタ、以上委員會ニ於キマシテノ重ナルコトハ右様ナ譯デアリマス、是カラ修正ニナッタ所ナ申シマス、此十七條ノ點デゴザイマスガ、是ハ原案ノ通り見マスレバ即チ船舶ニ附イテノ命令ナ以テ別段ノ規程ナ設ケテ船舶ノ検査ナスル、即チソレダカラシテ執行スルコトナ得ルト云フコトニスレバ或ハ此法文ノ解釋ノ方ニ依ツテ「得」ト云フ一字ナ濫用シテ検査ナシテモ宜シ、セズトモ宜イト云フヤウナ工合ニ見エテ來ル嫌モアル、ソレダカラシテ此第一第三ノ方ニアリマスル即チ日本ニ借入レテ使用シタル外國船モ矢張リ日本ノ臣民ガ借入レル、又ハ外國船ガ各港ニ旅客ナ積ンデ即チ人民ナ搭載シテ行ク船、即チ外國船ナ検査スルニモ同一ノ方法ナ以テ検査スルノデアルカラ、ドウシテモ此「スルコトナ得」ト云フ字ナ附ケタ日ニナルト甚ダ曖昧ナル嫌ガ生ジテ來ル、故ニ是非トモ是ハ検査ナスルト云フコトニ明文ナ擧ゲテ置イタ方ガ宜シカラウト云フコトデ、此通リニ即チ命令ナ以テ別段ノ規程ナスルト云フコトニ改メタ方が最モ文字ガ宜シシシ意味モソレデ貫徹スル譯デアリマスカラシテ其方ニ修正シテヤラウト云フコトガ多數デ決セラレマシテ此修正ナッタ譯デアリマス、右様ナ譯デ別段ニ其他ハ申上ゲルコトモゴザイマセヌ、

ドウカ委員會ノ修正案通リニ御賛同下サレテ速ニ通過セラレムコトヲ希望致シマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 別段御發議ガナクバ採決致シマス、本案ナ二讀會ニ移スペシト云フコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛篤磨君) 然ラバ本案ハ二讀會ニ移スペシト決シマス

○公爵二條基弘君 議事日程ナ變更シテ直チニ二讀會ナ開カレムコトナ……

○子爵小笠原壽長君 賛成

○小原重哉君 賛成

〔其他〕賛成ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛篤磨君) 直チニ二讀會ナ開クト云フ動議が出マシタ、御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛篤磨君) 然ラバニ二讀會ニ移リマス、初ヨリ第十六條マデナ問題ニ供シマス……御異議ガナクバ原案ニ決シマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛篤磨君) 次ハ特別委員ノ修正ニナッテ居リマス所、第十七條ヨリ附則ト云フ前マデ……

〔原案第十七條及特別委員修正案第十七條ノミナ左ニ掲載ス〕

第十七條 左ニ掲タル船舶ニ付テハ命令ナ以テ別段ノ規程ナ設ケ検査ナ執行スルコトナ得

一 日本臣民ニ於テ借入レ日本各港ノ間又ハ日本ト外國トノ間ニ使用入ル外國船舶

〔特別委員修正案〕
一 日本ノ沿岸又ハ湖川港内ノミナ航行スル外國船舶
二 日本各港ニ於テ旅客又ハ移住民ナ搭載スル外國船舶

第十七條 左ニ掲タル船舶ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ検査ナ執行ス

一 日本臣民ニ於テ借入レ日本各港ノ間又ハ日本ト外國トノ間ニ使用入ル外國船舶

二 日本ノ沿岸又ハ湖川港内ノミナ航行スル外國船舶
三 日本各港ニ於テ旅客又ハ移住民ナ搭載スル外國船舶

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ」

○議長（公爵近衛篤磨君） 御異議ガナクバ 委員會ノ修正ニ決シマス、次ハ附則……御異議ガナクバ 原案ニ決シマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ」

○議長（公爵近衛篤磨君） 是ニテニ讀會ハ終リマシタ

○男爵中川興長君 直チニ第三讀會ヲ開カレムコトナ……

○議長（公爵近衛篤磨君） 直チニ第二讀會ヲ開クト云フコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ」

○議長（公爵近衛篤磨君） ソレデハ三讀會ニ移リマス、……御異議ガナクバ原案ニ決シマス

○議長（公爵近衛篤磨君） 明治二十九年法律第九十二號廢止法律案、政府提出、第一讀會ノ續、特別委員長報告

〔松岡康毅君演壇ニ登ル〕

○松岡康毅君 唯今ノ議題ニナリマシタ 明治二十九年法律第九十二號廢止法律案特別委員ト致シマシテ 御報道致シマスルガ、併セテ日程ニ列記ニナッテ居リマスル會計検査院法中改正法律案、並ニ會計検査官懲戒法案、詰リ案ガ三ツニナッテ居リマスノデゴザイマス、孰モ御報道致シマスルニハ餘り物ガナクテ淋シイ位ナモノデアリマスカラ三ツトモ併セテ御報道致スコトニ致シマス、九十二號廢止法律案並ニ検査院法中改正法律案ト此二ツノ分ハ一字ノ修正モゴザイマセヌ、原案ノ通リ全會一致デ可決ト申スコトガ委員會ノ結果デゴザイマス、ソレカラ懲戒法案、是モ箇條モ大分ゴザイマスルガ既ニ御手許ニ配布ニナッテ居リマスル通り僅ノ修正チ加ヘマシタノガ第七條ト第十二條トデ、第七條ノ所ハ第二項ニ至リマシテ「裁判官ハ前項ノ例ニ依リ之ニ補ス」トゴザイマス此「依リ」ト云フ二字ヲ「準シ」ト云フ二字ニ變ヘマシタノデ、是ハ前項ノ所デ「會計検査院長ヲ加ヘ」云々ト斯ウナッテ居リマスノデ、會計検査院長ハ是非トモ此六人ノ中ヘ這入ルト云フコトニナッテ居マスカラ、ソレデニ項ノ「依リ」ト申ス所ニ參ツテ前項ノ例ノ通リニ一ツモ違ヘナイヤウニシヤウ

トスルト院長ガ一人シカナニカラ支ヘルト云フ意見が出マシテ、ソレカラ然ラバ「依リ」デナクシテ「準シ」トスレバソコニ準用ノコトニナリマシテ其支ヘ

ハナカラウト申スノデ、二字ト二字トニ換ヘマシタ、ソレカラ十二條ノ所ハ似ノ懲戒ニ關スル檢査官ノ豫備ハ唯今ノ所デハゴザイマシタ、然ルニ判事懲戒法ダノ其外類似固ヨリ惡イコトデハゴザイマセヌ、併シ之ヲ置イアルベキコトデモナイカラ其所ヘ一人ノ豫備ヲ置クト書クノモ唯オフクウナ位ナコトデ格別ノ必要ガナイカラ書カナカッタト云フ位ナコトデ、其所ヘ加

ヘルト云フ修正ナシヤウト云フコトニナッテモ亦差支ハナイト云フコトデ、サウ云フ理由ヲ以テ十二條ヘハ朱書ノ通リ「檢査官一人」ト云フ下ニ「及豫備檢査官一人」ト云フ文字ヲ加ヘマシタ、又第二項モ「檢査官」ノ下ヘ「及豫備檢査官」ト云フ六字ヲ加ヘマシタ、修正ハ是ダケデゴザイマシテ此外ハ少シモ原案ニ異議ナク悉ク可決ト云フコトニナリマシタ、御報道ハ是マデデゴザイマス、就キマシテ九十二號廢止案、並ニ檢査院法中改正法律案并ハ御覽ノ通リノモノデゴザイマスカラ、是ハ成ルベク讀會ヲ省略セラレテ直チニ御可決ニナラムコトナ希希望致シマスノデゴザイマス

○名村泰藏君 チヨット政府委員ニ御尋シマス、此懲戒法ノ五條デゴザイマスガ「免官ノ處分ヲ受ケタル者ハ其ノ判決ノ日ヨリ二年間官職ニ就クコトヲ得ス」トアル、是ハ宜シウゴザイマスガ此……

○議長（公爵近衛篤磨君） 名村君ニ御尋シマスガ、ソレハ懲戒法デスカラ

○名村泰藏君 懲戒法デゴザイマス

○議長（公爵近衛篤磨君） 唯今懲戒法マデ三ツ連ネテ報告ハアリマシタガ、未ダ懲戒法ノ場合デハナインデアリマス

○子爵本莊壽巨君 讀會省略ニ贊成致シマス

○子爵小笠原壽長君 贊成

○色部義太夫君 贊成

○田村耕平君 贊成

〔其他賛成ト呼フ者多シ〕

○議長(公爵近衛篤麿君) 読會省略ノ動議ハ成立ツタモノト認メマス、之ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者

多數

○議長(公爵近衛篤麿君) 三分ノニ以上ト認メマス、讀會省略ニナリマシタ、唯今ノハ此議事日程ノ第六ト第七ト併セテ讀會省略ニナリタイト云フ御動議デアッタヤウニ認メマスカラ、二案トモ讀會省略ニナッタモノト認メテ宣シウゴザイマスカ

〔異議ナシト呼フ者多シ〕

○議長(公爵近衛篤麿君) 議事日程第六、御異議ガナクバ原案ニ決シマス
〔異議ナシト呼フ者多シ〕

○議長(公爵近衛篤麿君) 議事日程第七、是モ御異議ガナケレバ原案ニ決シマス

〔異議ナシト呼フ者多シ〕

○議長(公爵近衛篤麿君) 次ハ會計検査官懲戒法案

○名村泰藏君 此第五條ノ所デ、他ノ法律ニハ懲戒デ免職ニナルト位記ヲ返上スルトカ或ハ恩給權ヲ失フトカ云フヤウナコトガゴザイマスガ、此検査官懲戒法ノ第五條ニハサウ云フコトガ這入ッテ居リマセヌガ、検査官ハ免官ノ處分ヲ受ケマシテモ位記ヲ返上スルコトモナシ又恩給ヲ失フト云フコトモナ

イノデアリマセウカ、政府委員デモ又ハ委員長カラデモ宜シウゴザイマスカラ

○政府委員(道家齋君) 只今御尋ノ事ニ附キマシテ説明ヲ致シマスガ、此五條ニ附キマシテ免官ニナッタ者ハ恩給ヲ受ケルコトガ出來ルノデアラウカドウデアラウカト云フ御質問ノヤウニ伺ヒマシテゴザイマス、是ハ無論恩給法ニ依リマシテ、懲戒ニ依リマシテ免官ノ處分ヲ受ケタ者ハ恩給ヲ受クルコトニテ御答辯ヲ願ヒマス

○政府委員(道家齋君) 只今御尋ノ事ニ附キマシテ説明ヲ致シマスガ、此五條ニ附キマシテ免官ニナッタ者ハ恩給ヲ受ケルコトガ出來ルノデアラウカドウデアラウカト云フ御質問ノヤウニ伺ヒマシテゴザイマス、是ハ無論恩給法ニ依リマシテ、懲戒ニ依リマシテ免官ノ處分ヲ受ケタ者ハ恩給ヲ受クルコトニテ御質問ノヤウデゴザイマシタガ、是ハ無論叙位條例ノ方ノ規定ニ依ルベキコトデゴザイマシテ、特ニ此法律事項トシテ書クベキモノデハナカラウト考ヘマシテ、是ハ此法律中ニ書カナカッタノデゴザイマス

○名村泰藏君 恩給ノ方ハ恩給條例ノ第何條ニ依テ恩給ヲ得ラレヌト云フコトヲドカラ御示ヲ願ヒマス、ソレカラ行政裁判所ノ評定官懲戒令第六條ニモ出テ居リマスガ、「免官ノ處分ヲ受ケ其ノ情重キ者ハ位記ヲ返上セシム」斯ウ云フコトガアル、一ノ法律ニハ此箇條が必要デアッテ此法律ニハ必要デナイト云フコトハドウモ私ハ一向分ラナイ、全ク是ハ御手落ダラウト思ヒマスガ如何デゴザイマセウ

○政府委員(道家齋君) 御答ヲ致シマス、唯今ノ恩給法ノ何條ニ依ルト云フ御質問ニ對シマシテハ唯今此所ニ恩給法ヲ持チマセヌカラシテ取調べテ申上ゲマス、又位ノ方ニ附キマシテハ成ル程行政裁判所評定官ノ懲戒、又文官懲戒令等ニハ位記ヲ返上ノコトガ書イテゴザイマスガ、是ハ勅令デ極メテゴザイマシテ、位ノコトハ法律事項デゴザイマセズ勅令事項デゴザイマスカラ無論法律ニ書ク必要ハナイト認メタノデゴザイマス

○名村泰藏君 此罰則ノ所デ三十三條ニ「四圓以上四十圓以下」トアリマスガ、是ハ何ヲ標準トシテ四圓以上四十圓以下ト定メラレマシタノデゴザイマスカ、其標準ヲ一ツ伺ヒタイ

○政府委員(道家齋君) 御答ヲ致シマス、是ハ刑法ニ依リマシタノデゴザイマス

○名村泰藏君 刑法ノ第何條ニアリマスカ

○政府委員(道家齋君) 刑法ノ確カ百二十六條デアッタカト考ヘマス

○名村泰藏君 百二十六條ニドンナコトガアリマスカ、チヨット……

○政府委員(道家齋君) 御答致シマス唯今百二十六條ト御答致シマシタノハ誤デゴザイマシテ、百七十九條ニ準ジマシタノデゴザイマス、即チ百八十條ニ適用ニナッテ居リマス、即チ百七十九條ニ準ジテ規定シタモノデゴザイマス、ソレカラ恩給法ノコトニ附イテノ御質問デゴザイマシタガ、其條ハ第九條デゴザイマス、此九條ノ第六ノ所デゴザイマス、自己ノ便宜ニ依リ退官シタル後又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免官シタル後再ビ任官シタル者ニ附イテノ御質問ノヤウデゴザイマシタガ、是ハ無論叙位條例ノ方ノ規定ニ依ルベキコトデゴザイマシテ、特ニ此法律事項トシテ書クベキモノデハナカラルト思ヒマスカラ、恩給法ニハ明ニ出テ居ラヌヤウニ思ヒマス、既ニ判事懲

戒法ニハ免官ノ處分ヲ受ケタ者ハ……免官ニ處セラレタル者ハ現官ナ失ヒ且
ツ恩給ナ受クルノ權ナ失フト云フコトハ明ニ書イテアル、所ガ恩給條例ニハ
恩給ナ受クルノ權ナ失フト云フコトハ明ニナイカト私ハ思ヒマス

○政府委員(道家齊君) 御答ナ致シマスガ、此第十二條ニ「年齢未ダ六十歳

ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニ依リ退官シタル者又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ
依リ免官シタル者ハ恩給ナ受クルノ資格ナ失フ」トゴザイマス、斯ウ云フヤ

ウニ恩給ナ受クル者ハ受ケテ居リマス者デゴザイマシテモ資格ナ失フト云フ
譯デゴザイマスカラ、況ヤ此懲戒免官ニナツタ者ハ當然此恩給權ハ持ツテ居
ナイト云フコトニナルノデゴザイマス

○名村泰藏君 宜シウゴザイマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 此案ハ第二讀會ニ移ルベシト決シマシテ御異議ハ
アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛篤磨君) 然ラバ第二讀會ニ移ルコトニ決シマス

○男爵中川興長君 直チニ二讀會ニ移ルコトニ致シタイト思ヒマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 直チニ第二讀會ニ移ルト云フ說ニ御異議ハアリマ
セヌカ

〔「贊成」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛篤磨君) 御異議ガナケレバ直チニ第二讀會ニ移ルコトニ決

シマス、時刻ニナリマシタカラ一應休憩致シマス
午後零時十二分休憩

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛篤磨君) 御異議ガナケレバ直チニ第二讀會ニ決シマス、是デニ讀會ハ終リマシタ

戒法案第二讀會、第一條ヨリ第六條マデナ問題ニ供シマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛篤磨君) 第一條ヨリ第六條マデ御異議ガナケレバ原案ニ決

シマス

午後一時十九分開議

○議長(公爵近衛篤磨君) 是ヨリ午前ニ引續キ會議ナ開キマス會計検査官懲
戒法案第一條ヨリ第六條マデナ問題ニ供シマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛篤磨君) 第一條ヨリ第六條マデ御異議ガナケレバ原案ニ決

シマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛篤磨君) 第七條

第七條 懲戒裁判所ニ長官一人裁判官六人豫備裁判官六人ヲ置ク

長官ハ樞密顧問官ノ中ヨリ裁判官ノ中三人ハ大審院判事二人ハ會計検査
院長ナ加ヘ會計検査官ノ中ヨリ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ニ補ス
豫備裁判官ハ前項ノ例ニ依リ之ニ補ス

(特別委員修正案)

○議長(公爵近衛篤磨君) 御異議ガナケバ委員會ノ修正ニ決シマス、第八條

ヨリ第十一條マデナ問題ニ供シマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛篤磨君) 御異議ガナケバ原案ニ決シマス、第十二條

第十二條 懲戒裁判所ニ檢察官一人ヲ置ク

檢察官ハ大審院勅任檢事ノ中ヨリ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ニ補ス

(特別委員修正案)

第十二條 懲戒裁判所ニ檢察官一人及豫備檢察官一人ヲ置ク

檢察官及豫備檢查官ハ大審院勅任檢事ノ中ヨリ内閣總理大臣ノ奏請ニ依
リ之ニ補ス

○議長(公爵近衛篤磨君) 御異議ガナケバ修正ニ決シマス、第十三條ヨリ終
マデナ問題ニ供シマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛篤磨君) 然ラバ原案ニ決シマス、是デニ讀會ハ終リマシタ

○子爵本莊壽巨君 直チニ二讀會ヲ開カレムコトナ希希望致シマス

〔「贊成」ト呼フ者多シ〕

○議長(公爵近衛篤磨君) 直チニ二讀會ヲ開クト云フコトニ御異議ガアリマ
セヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛篤磨君) 然ラバ直チニ第三讀會ヲ開キマス、御異議ナケバ
第七條 懲戒裁判所ニ長官一人裁判官六人豫備裁判官六人ヲ置ク

原案ニ決シマス……飲食物其ノ他ノ物品取締ニ關スル法律案、政府提出、衆議

院送付、第一讀會ノ續、特別委員長報告

〔伯爵坊城俊章君演壇ニ登ル〕

○伯爵坊城俊章君 諸君、飲食物其ノ他ノ物品取締ニ關スル法律案、右ノ案ノ委員會ノ經過ヲ報告致シマス、其委員會ハ兩日ニ跨リマシテ調査致シマシタコトデゴザイマス、此案ハ御覽ノ通り格別入込ンダ案デハゴザイマセヌ、第一條ノ第一項ノ如キハ或ハ此案バカリデ獨歩が出來ルヤ否ヤト云フコトハ諸君モ御疑ノ點デアラウト存ジマス、ソレデ委員會ニ於キマシテハ色々本案ニ附イテノ注意致シマシテ種々ノ質問モ出マスシ種々ノ議論モ出マシテゴザイマスガ、詰リ是ハ此法文ニ向ケテ悉ク書立テルト云フコトハ爲シ得ラレヌコトデアルト云フコトナ以チマシテ終ニ是ハ勅令或ハ省令ナ以テ細カイ細目ハ出スト云フコトデゴザイマシテ、ソレデ委員會ニ於キマシテハ異議ナク此通リナ以テ通過致シマシタコトデゴザイマス、チヨット例ヘバ御話致シマセウナラバ飲食物其他ノ物品ト云フヤウナ上ニ附キマシテ其他ノ物品ト云フコトニ至リマシテハ隨分幅ノ廣イモノデ、中ミ法文デ一々書キ現シテ是ハ有毒ナモノデアル是ハ無毒ナモノデアルト云フコトハ是ハムツカシイ、物品其物デナクシテ其物品ナ包ミマス紙ノ上ニ附キマシテモ其邊ノコトガゴザイマス例ヘハ煙草ナ卷イテゴザイマス紙、或ハ菓子杯ナ卷イテアル銀色ノ紙、此紙ノ質が果シテ良イモノナラハ害ハゴザイマセヌガ、若シモ此鉛分ノ出マスル惡ルイモノデアリマスレバ食物ニモ及ボスト云フヤウナ質ノモノデアリマスカラ、是ハ幅が廣イモノデゴザイマスカラ速モ法文ノ上ニ擧ゲルト云フ譯ニハイカヌト云フ所カラ別段ノ勅令省令ナ以テ制限スルト云フコトデアリマス、其委員會ニ於キマシテハ色々質問モ出マシタケレドモ一々申上グル程ノコトモゴザイマセズ、唯此第三條ノ中ノ「命ヲ受ケテ指定ノ期間内」是ハ誰ガ指定ナスルト云フコトハドウ云フ人ガスルカト云フ質問モゴザイマシタガ、之ヲ能ク御覽ニナリマスルト分リマス、即チ其官吏或ハ公吏ニ命ジマシテ指定ナ致シマス、官吏公吏ノ指定ナ致シマス其期間ト云フヤウナコトデアリマス、コンナ質問位ノコトデゴザイマシテ此事ニ附キマシテハ總テ異議ハゴザイマセヌ、又第四條……デハゴザイマセヌ矢張リ三條中デゴザイマス、未項ノ罰金ノ高ノ所扣ハ是ハドウデアルカ、多イコトガナイカ少イコトガナイカト云フヤウナ質問モゴザイマシタガ、是ハ各其成規ニ依リマシテソレニ準ジテ極メテゴザイマスルカラ敢テ過當等ノ儀デハナイト云フコトナ段々調べ、ソレヲ政府委員ヨリ回答ガアリマシテ遂ニ委員會ハソレダケノコトナ以チマ

シテ少シノ修正モナクシテ原案通りニ可決ナ致シマシタコトデゴザイマス、抑々此法案モ御覽ノ通り單純ナモノデゴザイマスカラ願ハクハ讀會省略ナセラレマシテ通過アラムコトナ希望致シマス、サリナガラ御質問ガゴザイマスレバ私ノ御答ノ出來ルコトダケハ御答致シマス

○石井省一郎君 此委員會ノ速記録ナ見マスルト東京デハ中央衛生會デ試驗スルトアルガ、府縣ノ方ハ府縣ノ衛生會カ何カデ矢張リ飲食物ノ検査試驗ナ致シマスコトニナッテ居リマスカ

○伯爵坊城俊章君 地方デモ致シマスルヤウデアリマス

○石井省一郎君 衛生會デゴザイマスカ、試驗ナスル場所デアリマス、誰ガ致シマスカ

○伯爵坊城俊章君 是ハ唯今ノ所デハ十分ノコトモゴザイマセヌガ、學士或ハ固ヨリ博士ト云フモノハサウ居マセヌカラ地方ヘ分ツコトハ出來ヌサウデゴザイマスガ、サリナガラ技師ノ如キハシカラズ各地方ニ何名ト云フ數多クハ行キマスマイガ若干ハ各縣ニ回ハスコトが出來ルサウデアリマス、ソレ等ニ依ツテ試驗ナサセル見込ダサウデゴザイマス

○松岡康毅君 委員會ナ開キタウゴザイマスガ御許ナ願ヒマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 何ノ會デスカ

○松岡康毅君 宗教法案

○議長(公爵近衛篤磨君) 宜シウゴザイマス

○松永安彦君 讀會省略ナ賛成

○子爵山本實庸君 賛成

○色部義太夫君 賛成

○伯爵大原重朝君 賛成

○佐藤喜八郎君 賛成

〔其他「贊成」ト呼フ者多シ〕

○議長(公爵近衛篤磨君) 讀會省略ノ動議ハ成立チマシタ、之ニ同意ノ諸君イマセヌ、又第四條……デハゴザイマセヌ矢張リ三條中デゴザイマス、未項

ノ罰金ノ高ノ所扣ハ是ハドウデアルカ、多イコトガナイカ少イコトガナイカト云フヤウナ質問モゴザイマシタガ、是ハ各其成規ニ依リマシテソレニ準ジ

テ極メテゴザイマスルカラ敢テ過當等ノ儀デハナイト云フコトナ段々調べ、

ソレヲ政府委員ヨリ回答ガアリマシテ遂ニ委員會ハソレダケノコトナ以チマ

起立者 多數

○佐藤喜八郎君 賛成

○議長(公爵近衛篤磨君) 三分ノ二以上ト認メマス、讀會ハ省略致シマス、

本案御異議ナクバ原案ニ決シマス

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛篤磨君) 賣藥規則中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、特別委員長報告

〔伯爵坊城俊章君演壇ニ登ル〕

○伯爵坊城俊章君 諸君、賣藥規則中改正法律案、是モ委員ガ受取リマシテ兩日ノ經過ヲ以テ調査ヲ致シマシタコトデゴザイマス、此案ハ總て別段ニ委員デハ異有モゴザイマセヌ、第一條、即チ修正ヲ致シマシタ通リノコトデゴザイマス、此修正ハ如何ニ依ツテ斯様ナ修正ヲ致シタカト云フト此元ノ規則ニソレソレ藥名等ヲ舉ゲテゴザイマスガ、ソレデハマダ不十分デモゴザイマスルシ又範圍ノ狹イ點モゴザイマス、サリナガラ此今般出シマシタ案デゴザイマスルト誠ニ漠トシテ賣藥營業者其者ノ取締等ハ出來マスルガ賣藥其物ニ附イテハ取締等が十分ニ出來マセヌト云フ所カラシテ是ダケノモノヲ加ヘルト云フコトニ委員會ニ於キマシテハ決シマシタヤウナコトデゴザイマス、ソレニ附キマシテハ別段政府委員ニ於キマシテモ異存ハゴザイマセヌ、異存ガゴザイマセヌノミナラズ賛成ヲ表セラレマシタヤウナコトデゴザイマス、ソレダケノコトデ後トハ悉ク原案ノ通りニ通過ヲ致シマシタ、此段御報告ヲ致シマス、是モ極ク簡単ナル案デゴザイマスカラ、ドウカ願ハクハ讀會省略テ仕リマシテ速ニ御協賛アラムコトヲ希望致シマス

○伯爵大原重朝君 賛成

○伯爵勸修寺顯允君 賛成

○村田保君 本員ハ少々特別委員ニ質問ヲ致シタイ、今度御修正ニナリマシタ所デハ賣藥ト申スノハ丸藥トカ散藥トカ云フコトノ字ガ是ニ這入ツテ居リマスガ、此賣藥ト申シマスルモノハ獨リ丸藥ダノ散藥ダノバカリデハナイ或ハ水藥或ハ膏藥、段々アラウト思ヒマス、ソレデ固ヨリ「等」ノ字デ以テサウ云フモノヲ含マセルト云フコトデハアリマセウガ今日ハ御承知ノ通り法律ニハ「等」ノ字ハ使ハヌ、サウ云フ曖昧ナ字ハ近頃ハ用ヒナイニモ拘ラズ今度ハサウ云フ曖昧ナ字ヲ使ハレテ、サウシテ賣藥ノ定義ヲ與ヘラレタト云フコトハドウ云フモノデアラウカト本員ハ思フ、ソレノミナラズ此案ト云フモノハ衆議院ヲ通過シテ居ル案デモアリマスルシ、左様ナ「等」ト云フ漠然タル字ヲ加ヘルヨリハ本員ハ何故原案ノ儘ニ御据置キニナラナカッタカト云フコトナ甚ダ疑フノデアル、ドウシテ此賣藥ノ重ナルモノハ丸藥ト散藥トシテ「等」ノ字ヲソレヘ御加ニナツタカ、一應伺ヒタイ

○伯爵坊城俊章君 簡短デゴザイマスカラ是カラ御答シマス、決シテ是ハ丸薬散藥が眼目デアルト云フ譯デハアリマセヌ、唯今説明ノ通りノ次第ニアリマシテ是ニハ「等」ノ字デ凡テ含ミマスル積リデ委員ハ修正致シマシタノデゴザリマス

○村田保君 本員ハ然ラバ是ハドウカ原案ニ戻シタイト思ヒマス、ト申シマスルモノハ御承知ノ通り今日出マス法律ニハ孰モ「等」ノ字ハ削ツテアル、成意ニナツテ居リマス、ソレデ是ハ原案ノ方が餘程宜イト本員杯ハ思フ、賣藥トスウ云ヘバソレニ汎ク何デモ合ンデ、唯今御説明ノ如クニ汎ク合ンデ來ルカラ、何モサウ云フ「丸藥散藥等」ナドト云フ字ヲ加ヘルニハ及バナイ、「賣藥」デ澤山ダ、是ハ原案通りニシテ衆議院カラ回ハリマシタ通りニ致シタイ、斯様ナ文字ヲ加ヘテ衆議院ニ送ルト云フコトハ本員ハ面白クナイト考ヘマスカラ原案ノ通りニナラムコトヲ希望致シマス

○伯爵坊城俊章君 チヨット唯今村田君ノ御説ガアリマシタカラ私ハ一度意見ダケヲ申述ベテ置キマス、衆議院ノ通りガ宜シイ「等」ノ字ヲ入レタカラト云フ御話デアリマシタガ此「等」ノ字ヲ取ツテ愈々衆議院ノ通りニ變リマシテハ甚ダ困リマス、ト申シマスルモノハ衆議院ノ通りデハマダ不十分デスカラ此藥名ヲ附ケ又賣藥ト云フモノハ獨リ歩キナセヌデ必ズ效能書ヲ示シテ爲スモノデアルト云フコトヲ入レマシタノガ即チ眼目デアリマス、ソレダケノコトヲ御参考マデニ申上ダテ置キマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 坊城伯爵ニチヨット御注意シマスガ、讀會省略ノ動議ニ對シテモマダソレハ成立ツテハ居リマセヌガ、修正ニ附イテマダ他ニ意見モアルヤウデアリマスカラ讀會省略ノ御發議ハ御取消ニナツテハドウデス

○伯爵坊城俊章君 御異論ガ出マスレバ取消シマス

○千坂高雅君 村田君ニ賛成

○三宅秀君 此第一條ノ修正ニ附キマシテ村田君ガ委員長ニ頻ニ御質問ヲセラレマシタガ、現行法ヲ見マシテモ「等」ノ字ハ入レテアルノデ是ハ決シテ別ノコトデハナイノデアリマス、ト云フモノハ現行ノ賣藥規則ニハ村田君ガ御心配ノアリマス通り丸藥散藥水藥膏藥練藥ト云フヤウナ藥ガ澤山アリマスデモ「等」ト云フ字ハ這入ツテ居リマス、到底幾ラ並ベテモドウ黄ベテモ藥ノ種類ヲ幾ラ並ベマシテモ、ソレデ網羅シ切レルモノデアリマセヌカラ是非「等」

ト云フ字ヲ入レテ置カナケレバナリマセヌ、近頃ノ法律ニ「等」ト云フ曖昧ナ字ハ用ヒメト云フ御話ハ至極御尤デアリマスケレドモ、ドウモ此賣藥規則ニ於テ悉ク其藥ヲ網羅スル譯ニハナリマセヌカラ是非「等」ト云フ字ガ這入ッテ居ラナケレバナリマセヌ、ソレニ又賣藥ト云フモノハ如何ナルモノデアルト云フコトノ定義ヲ本規則ノ中ヘ加ヘテ置キマセヌト免角是ハ賣藥デナイ扱ト云ウテ或ハ稅ヲ逋レマスル……脱稅ヲ企テルト云フ者ガゴザリマス、御承知ノ通リ賣藥ニハ賣藥稅ト云フモノガアリマスカラ成ルベク是ハ極メテ置キタイ、賣藥デナイト云フ顔ニシテ脱稅ヲ圖ル者ガ往々アリマスカラシテ「等」ノコトヲ取締リマスニハ是非賣藥ノ範圍ハ斯ウ云フモノガ賣藥デアルト云フ定義ヲ定メテ置カネバナリマセヌ、ソレデ現行ノ賣藥規則ノ第一條ニ其定義ガアリマスノデアリマス、ソレ故ニ此現行ノ賣藥規則ヲソックリ入レ、又現行ノ規則ニハ效能書ヲ附セト書イテゴザイマスケレドモ近頃ハ段々惡ルイ智慧ガ開ケテ參リマシタ爲ニ賣藥其物ニ直グニ效能書ヲ貼附シテ置キマセズ、新聞ニ廣告ナスル、藥ノ效能書ハ新聞ニ廣告シテ、サウシテ賣藥其物ニハ效能書ヲ貼附シテ置カヌト云フコトヲ以テ是ハ賣藥デナイト申張ル者抔ガゴザイマスカラ、此度ハソコラノ邊ニモ十分修正ヲ加ヘマシテ、サウシテ何等ノ方法ヲ以テスルニモ拘ラズ效能ヲ示シテ販賣スルモノナ……ト云フコトヲ入レマシタ、是ハ定義ハ極メテ大切デアル、即チ之ハ内國バカリデハナイ近頃ハ外國カラモ賣藥ノ輸入販賣ガアリマスカラ外國ニ對シテ尙ホ一層綿密ニ一條ニ書イテ置キマセヌケレバナリマセヌ故ニ此修正ヲ致シマシタ

○渡邊洪基君 本員ハ村田君ノ修正ノ原案通リト云フコトニ賛成致シマス
〔村田保君發言ノ許可ヲ求ム〕
○議長(公爵近衛篤磨君) 村田君ハ何デスカ
○村田保君 唯今ノ三宅君ノ御説ニ對シテ申シテ置キタイト思ヒマス
○議長(公爵近衛篤磨君) アナタハ二回ノ發言ニナリマス
○子爵大田原一清君 私ハ委員一人デアリマスカラ一應申上ダヤウト思ヒマス、此委員ニ於キマシテ斯ノ如ク修正ヲ致シマシタノハ決シテ衆議院ガ通ツテ來タカラト云フ村田君ノ御話モゴザイマシタケレドモ、決シテサウ云フ譯デハナイ、是ハ御承知ノ通リ三宅博士カラ御話ノアリマシタ通りデ委員中ニハ頗ル此案ニ明ルイ御方が御出デアリマス、其御方が御捕ニナッテ又政府委員モ御同意ナスツタ以上斯ノ如ク修正ニナツタノデアリマスカラ諸君ニ於キマシテモドウカ委員會ノ修正通リ決議アラムコトヲ希望致シマス

○子爵曾我祐達君 私モ村田君ニ賛成ヲ致シマスガ、唯今三宅君ノ御説明中ニ外國カラノ賣藥モアルカラト申サレマシタガ、成ル程此法案ヲ見ルト全ク外國輸入品ノ賣藥ノ主意ノヤウニ見エマスル、却ツテ下手ナ定義ヲ下シテハ面倒ニナルト思ヒマス、效能ヲ附スルトカ何トカ云フヤウナスンナコトハ前ノ儘ニシテ置キマシタ方ガ却ツテ宜カラウト思ヒマス、賣藥ノ定義ヲナマニ下シタラ却ツテ面倒ト思ヒマスカラ私ハ矢張リ黒イ字ノ方ヲ賛成致シマス
○男爵千家尊福君 唯今二讀會ニ移リマシタ力
○議長(公爵近衛篤磨君) 二讀會デアリマス……イヤニ二讀會デアリマセヌ、一讀會デアリマス
○男爵千家尊福君 然ラバニ二讀會ニ移ツタ場合ニ村田君ノ御修正ハ更ニ提出ニナルコトト心得テ宜シウゴザイマスカ
○議長(公爵近衛篤磨君) 左様ゴザイマス、本案ヲ二讀會ニ移スヘキヤ否ヤノ決ヲ採リマス
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(公爵近衛篤磨君) 御異議ナクバ本案ハニ二讀會ニ移スベシト決シマス
○村田保君 本員ハ少シ順序ヲ誤ツテ……
○議長(公爵近衛篤磨君) マダニ二讀會ニハ移ツテ居リマセヌ、ニ二讀會ニ移スベシト決シタダケデアリマス
○千坂高雅君 直チニ二讀會ニ開クト云フ動議ヲ提出致シマス
○議長(公爵近衛篤磨君) 二讀會ニ開クト云フニ御異議ガアリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(公爵近衛篤磨君) 然ラバ第二讀會ニ移リマス、第一條……
第一條 本法ニ於テ賣藥營業者ト稱スルハ賣藥ヲ調製シ又ハ外國ヨリ輸入シテ販賣スル者ヲ云フ
(特別委員修正案)
第一條 本法ニ於テ賣藥ト稱スルハ丸薬散薬等ニシテ何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラズ效能ヲ示シテ販賣スルモノヲ云ヒ賣藥營業者ト稱スルハ賣藥ヲ製調シ又ハ外國ヨリ輸入シテ販賣スル者ヲ云フ
○村田保君 本員ハ是ハドウモ三宅君カラノ先程ノ御辯明モゴザイマシタガ、本法ト云フモノハ明治十年ノ太政官ノ布告七號デ出テ居ル、其時分ハ幾ラ書並ヘテモ等ノ字ヲ附ケルト云フ風ニナツテ居ツタ、所ガ近來ノ法律ニナ

リマシテハスウ云フ法律ト云フモノハ總テ其「等」ノ字抒ノ書キマセヌ委デシ
ク十デモ二十デモ書イタガ宜イ、「等」ノ字ハ曖昧アルカラ人ニ依テハ賣
藥デナイト云フヤウニ見ル人モザイマセウシ、全ク賣藥デナイモノナ賣藥
ト見ラレルカモ知レナイ、ソレ故ニ此「等」ノ字ハ總テ今日ハ各般ノ法律ニ
タカサウ云フ風ニナツテ居ルニ拘ラズ殊更ニ「等」ノ字ヲ加ヘラレタト云フ

コトハ甚ダ委員諸君ヲ詫ルデス、是マデ斯ウ云フコトガナイコトニナツテ居
ルノニ今度ニ限テ之ヲ掲ゲルトナラバ太政官ノ布告ノヤウニ丸薬膏藥練藥
水藥散藥煎藥ト云フヤウニナラナクテハナルマイト思ヒマス、ソコガ煩ハシ
イカラシテ今度ノ法案デハ總ジテ賣藥ト云フコトニナツテ居タノデアリマス、
ソレ故ニ今度ノ原案ハ私共ハ然當ナコトト思ヒマスカラ黒字ノ如ク原案ノ如
クナラムコトヲ希望致シマス

○千坂高雅君 更ニ村田君ニ賛成ヲ致シマス

○水野遵君 村田君ニ全然賛成致シマス

○三浦安君 村田君ニ賛成

○子爵岡部長職君 本員モ村田君ニ賛成

○子爵曾我祐準君 本員モ賛成

○議長(公爵近衛篤磨君) 是ハサウ別段ニ澤山賛成ハイラナインデアリマス

○渡邊洪基君 本員モ……

○議長(公爵近衛篤磨君) 先づ採決ノ順序ヲ御話シテ置キマスガ、委員會ノ
修正ニ附イテ決ヲ採リマス、ソレガ潰レマシタラ原案ニ附イテ決ヲ採リマス、

村田君ニ賛成ノ御方ハ原案ニ賛成デ決ヲ採ルトキニ御立下サレバ宜シイノデ
アリマス、委員會ノ修正ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 少數ト認メマス、然ラバ原案ノ通リデ御異議ハア
リマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛篤磨君) 次ハ第二條ヨリ末條マデ……御異議ガナクバ原案
ニ決シマス

○山田卓介君 直チニ二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

〔「賛成」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛篤磨君) 直チニ三讀會ヲ開クト云フ動議が出テ居リマスガ
御異議ナクバ……

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛篤磨君) 御異議ガナクバ直チニ三讀會ヲ開キマス……御異
議ナクバ直チニ決シマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

會

○議長(公爵近衛篤磨君) 質屋取締法中改正法律案、衆議院提出、第一讀

○議長(公爵近衛篤磨君) 質屋取締法中改正法律案

右本院提出案及送付候也

○議長(公爵近衛篤磨君) 質屋取締法中左ノ通改正ス

○議長(公爵近衛篤磨君) 別段ニ御質問ガナクバ委員ノ選定ニ移リマス、

長指名ニ御異議アリマセヌカ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛篤磨君) 別段ニ御質問ガナクバ委員ノ選定ニ移リマス、
長指名ニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

裁判所設立及管轄區域變更ニ關スル法律案

○議長(公爵近衛篤磨君) 裁判所設立及管轄區域變更ニ關スル法律案、衆議
院提出、第一讀會

○議長(公爵近衛篤磨君) 裁判所設立及管轄區域變更ニ關スル法律案
右本院提出案及送付候也

明治三十三年二月一日

衆議院議長片岡健吉

○貴族院議長公爵近衛篤磨殿

第一條 金澤地方裁判所管内能登國珠洲郡飯田町ニ飯田區裁判所ヲ置ク
第二條 長崎地方裁判所管内肥前國東彼杵郡佐世保村ニ佐世保區裁判所ヲ
置ク

第三條 福岡地方裁判所管内筑後國浮羽郡吉井町ニ吉井區裁判所ヲ置ク

○政府委員(波多野敬直君) 唯今議題ニナツテ居リマスル衆議院提出ノ法案ニ付テ政府ノ意見ヲ申上ゲマス、新法實施以來裁判所ト臣民トノ關係が頻繁ニナリマシタコトハ皆サンノ御承知ノ通りデゴザリマシテ、政府モ裁判所ノ増設ノ必要ヲ認メテ居リマス、本案ハ内地ニ三箇所、北海道ニ五箇所ノ裁判所ヲ設置スルト云フ案デゴザイマス、此場所ニ附キマシテハ先年來帝國議會若クハ主務省ニ設置ノ請願ヲ致シテ居リマスル所デゴザリマシテ最モ必要ノ場所ト考ヘマスカラシテ政府ハ本案ニ同意ヲ致シマシタ次第アリマス

○議長（公爵近衛篤磨君）別段御質問がナクバ委員ノ選定ニ移リマス、議長
指名ニ御異議ハアリマセヌカ

「「異議ナシ」ト呼フ者アリ」

辯護士法中改正法律案
右本院提出案及送付候也

明治三十三年二月一日

貴族院議長公爵近衛篤磨殿

辯護士法中左ノ通改正ス

第十二條 削除

〔政府委員波多野敬直君演壇ニ登ル〕

○政府委員波多野敬直君（波多野敬直君） 本案ハ衆議院ノ提出ニナリマシタ辯護士法第十二條ニ「辯護士ハ登録後三年ヲ超過スルニ非サレハ大審院ニ於テ其職務ヲ行マシテ一般大審院ニ於テ職務ヲ執ラレルヤウニシタイト云フ案デゴザイマス、此案ニ附キマシテハ衆議院ノ提出ノ理由ノ如キ不都合モアルマイト存ジマスクレドモ別段ニ反対ヲ致シマスル程ノコトモゴザイマセヌカラ、左様御了承ヲ願ヒマス

○議長（公爵近衛篤磨君） 御發議ガ無クバ委員ノ選定ニ移リマス、議長指名デ御異議ハゴザリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（公爵近衛篤磨君） 商法中署名スヘキ場合ニ關スル法律案、衆議院提出、第一讀會ノ續、特別委員長報告

商法中署名スヘキ場合ニ關スル法律案

右否決スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

明治三十三年二月一日

右特別委員長

侯爵細川護成

貴族院議長公爵近衛篤磨殿

商法中署名スヘキ場合ニ關スル法律案特別委員會ノ報告ニ對スル少數者ノ意見

右貴族院規則第五十條及第四十二條ニ依リ提出候也

明治三十三年二月一日

子爵小笠原壽長

小幡篤次郎

菊池長四郎

本案ハ至當ノモノナルヲ以テ之ヲ可決スヘキモノナリト信ス

〔侯爵細川護成君演壇ニ登ル〕

少數者ノ意見

○侯爵細川護成君 商決中署名スヘキ場合ニ關スル法律案、此案ノ特別委員

會ニ於キマルス經過及結果ヲ御報道致シマス、此案ハ衆議院ヨリ出マシタ案デゴザイマシテ、昨年實施ニナリマシタ商法ノ中ニ署名ト云フコトガアルノ

デアリマス、其署名スル場合ニ是マデノ慣例通リニ記名捺印ヲ以テ之ニ代フルト云フ案、案ハ至ッテ簡單ナ案デアリマスルガ大分是ニハ委員會デ議論モゴザイマシタノデアリマス、先づ此記名捺印ニ代ヘルト云フ、即チ衆議院案ニ賛成サレマシタ委員ノ中ニハ先づ此商法ノ中ニ第何條デアリマスルカ此株券ヤ社債券ニハ必ず取締役ガ之ニ署名ヲスルト云フコトガアルノガアリマス、

斯ノ如キ場合ニ當リマシテ例ヘバ一萬株ノ株券ヲ發行スル場合ニ一萬枚モドウモ一々署名スルト云フハ誠ニ煩ハシイコトデアルト云フヤウナ議論モ出マシ、又ハ此偽筆ノ鑑定杯ト云フコトニ至リマシテモ印デゴザイマスルト是マデ習慣上餘程慣レテ居リマシテ鑑定モ能ク出來マスルガ、偽筆ノ鑑定杯ト云フコトハマダ中々出來マセヌ、ソレデ往々其方が誤ガ多イト云フ説モゴザイマスシ、又此署名即チ此衆議院ノ否決スルト云フ即チ署名論者ノ委員ノ中ニハ例ヘバ今申シマシタ株券ニ署名スル杯ト云フコトモ決シテ是ハ難イコトデナイ、今マデノ習慣上面倒ノヤウデハアルガ、是モ段々慣レテ行ケバ決シテ面倒ナコトデハナイト云フヤウナコトモゴザイマスシ、又ドウシテモ自分デ書イタモノデゴザイマスルト何所カ其筆蹟等ニ癖ガアツタリ何カアツテ印ヨリモ其方ガ能ク分ルト云フヤウナ説モ出マスシ、大分議論ガ出マシタ末、採決ヲ委員會デハ決シマシタ、又政府委員ニ於キマシテハドウシテモ衆議院案ニハ同意ガ出來ナイ、是非是ハ署名デナケレバナラヌト云フ理由モ段々述べ致シテ置キマスノデ何レ是ニハ小數意見が出テ居リマスデ少數者ノ中カラ必ズ少數意見ヲ述ベラル、コトデアラウト存ジマスルノデ、本員ハ唯委員會デ議決ニナリマシタ點ダケヲ御報告致シテ置キマス

〔子爵小笠原壽長君演壇ニ登ル〕

貴族院議長公爵近衛篤磨殿
商法中署名スヘキ場合ニ關スル法律案特別委員會ノ報告ニ對スル

○子爵小笠原壽長君 諸君、此商法中署名スヘキ場合ニ關スル法律案ニ附キマシテハ唯今委員長カラ御述ニナリマシタル通り否決ニナリマシタ、其否決

ニナリマシタノハ一名ノ少數デ否決ニナリマシタ次第ゴザイマス、デ尤モ此時ニ尾崎男爵ハ御出席ガゴザイマセズシテ其他ハ皆出席ニナリマシテ委員會ヲ開キマシタ次第アリマスルガ、ソコデ私共ハ此法案ハドウモ至當ナモノデゴザイマシテ可決スベキモノト云フ意見デゴザイマシタ、ケレドモ今申上ダマス通リ一名ノ差ヲ以テ否決ニナリマシタカラ已ムチ得マセズ少數者ノ意見ト致シマシテ此法案ハ可決スベキモノデアルト云フ少數者ノ意見ヲ提出致シマシタ次第ゴザイマス、就キマシテハ其理由ヲ聊カ述ベマセウト考ヘマスルガ、私ハ訥辯デゴザイマスルカラ決シテ長クハ述ベマセヌデゴザイマスカラ其御積デ暫時御清聽ノ程ヲ願ヒマス、ソコデ政府委員ガ此法案ニ反對ナサレマスル理由ハ第一讀會ノ際ニ述ベラレマシタル通リ委員會ニ於キマシテモ第一讀會ノ際ニ述ベラレマシタモノト少シモ違ヒマセヌノデゴザイマス、其理由ト申シマスルモノハ印ト云フモノハ盜マレ易イ、又偽造モシ易イモノデアルカラ間違ガ起リ易イ、故ニ現ニ明治三十年中ニハ印影盜用事件ノ裁判ニ現レ出マシタ數ガ五百九件ノ多キニ達シタ次第アル、然ルニ署名ナレバ自分デ書ク譯デアルカラ將來間違ハ少イ譯デアル、現ニ外國ニテハ印ハ用ヒズシテ自署バカリデ致シテ居ル、故ニ政府ニ於テモ此自署ニ重キヲ置カウカ印ニ重キヲ置カト云フノハ十分ニ審査ヲ遂グタ上、ドウモ印ヨリモ署名ノ方ニ重キヲ置クガ確實デアルト云フ所カラ極ッタ譯デアルカラ、此法案ニ政府ハ同意スルコトハ出來ナイト云フノガ政府ノ唯一ノ理由ニナツテ居リマスノデアリマス、所デ私共ノ考ヘマスル所デハ全ク政府委員ノ考トハ反對デアリマシテ署名ノ方ガドウモ誤ガ多カラウト思ヒマス、其譯ト申シマスルモノデス、日本ノ字ハ皆様御承知ノ如ク楷書行書草書ト三體、字ガゴザイマス、同ジ人ガ書キマシテモ楷書ト草書ト書キマシタトキニハ聊カ又書風モ違ツテ居リマスシ、又精神ノ確ノトキトカ或ハ又病氣或ハ又酒ニデモ醉ヒマシタトキニ書キマシタ書ハ同人ガ書キマシテモドウモ違ヒマスノデアリマス、ソレデ始終同一ナ書ト云フモノハ書ケマセヌ次第アリマス、ソレデ或ル鑑定家ニ聞キマスル所ニ依リマシテモ印ノ真偽ヲ見分ケルコトハ出來ルケレドモ、偽書ノ真偽ヲ見分ケルコトハ中ミムヅカシイト云フコトモ私ハ承リマシテゴザイマス、ソレデ盜用ト云フコトヲ政府委員カラモノ申サレマスルケレドモ、此盜用ト申シマスルモノハ是ハ人々ノ不注意カラ起ルコトデアリマシテ、十分注意ヲ加ヘテ居リマスレバ盜用ト云フ氣遣ヒハ私ハナカラウト考ヘマス、ソレデ皆様モ御承知ノ如ク日本ノ俗語ニモ實印ハ首ト掛替ト申ス位

ニアリマシテ、孰モ實印ハ誰モ大事ニ致シテ居ルモノニアリマス、然ノミナリマセズ日本ノ慣習ト致シマシテ名ハ誰ガ書キマシテモ必ズ實印ヲ捺シマスニハ自分デ實印ヲ捺シテ居リマスノデアリマス、私共ノ考ヘマスル所デハドウモ餘程自署ヨリモ此印ニ重キヲ置イタ方ガ確實デアラウト考ヘマス、又政府委員ハ三十年中ニ此印ノ盜用事件が五百九件ノ多キニ達シタトカラ云フコトデゴザイマスケレドモ、此日本デ印形ヲ使ッテ居リマスノハモウ何十年來モ繼續テ致シマシテ習慣デズット使ッテ居リマスカラ、一年ニ全國デ盜用事件が五百六百起リマシタト申シテモ私共ハ決シテ多數ノ犯罪トハ考ヘマセヌ、又署名ノ方ハ漸ク商法ガ實施サレマシテマダ五六箇月ニシカナリマセヌカラマダ偽筆ノ犯罪ハ多ク現レヤウトシマシテモマダ多ク現レマセヌ、併シソロソロ此偽筆ノコトモ現レテ參バヤウデアリマス、デ私ガ一例ヲ申上ダマスレバ或ル地方ニ甲乙ニ箇所ノ銀行ガゴザイマス、然リマスル所ガ甲乙ニ箇所ノ銀行デ手形ヲ三枚取リマシタノデゴザイマス、然リマスル所ガ其期限ガ参リマシテ振出シタ元ノ振出人ノ所ヘ請求ニ参リマシタ所ガ、ドウモ振出人が其手形ヲ見マスル所ガ成ルホド自分ノ書イタヤウデハアリマスケレドモドウモ此手形ヲ振出シタ覺ハナイ、併シ字ト申シマスルモノハドウモ自分ノ書イタモノニ違ヒナイ、ドウモ奇麗ダト云フノデ能ク能ク能クレチ調べテ見マシタ所ガ印形モ殆ド類似ヲ致シテ居ル、ソレデ尙又能ク調べマシタ所ガ聊カ印ニ相違ガアツタト云フコトデ、其印ノ相違ヨリ全ク此今ノ甲乙ノ銀行ニ箇所デ取ッタ手形ハ偽造デアルト云フコトガ分ッタト申スコトデ、全クドウモ其振出ニ書イタ字モ裏書人ノ字モ誠ニドウモ能ク出來テ居ル殆ド本人ニ見分ガ附カナカタト云フコトデゴザイマシテ、其偽造ヲ知リマシタノハ全ク印形ノ爲ニ其偽造デアルト云フコトガ知レタト云フコトデゴザイマス、サウ云フ次第ゴザイマスカラ矢張リ日本ノ是マデノ慣習上、是マデ通り印形ニ重キヲ置クコトガ私共ハ至當デアラウト思ヒマス、其上政府デモ登記其他官ニ差出シマス書類ニハ矢張リ現ニ印ヲ捺カシテ居ルガ、署名ノ外ハ印ガ要ラヌト云フナラ政府ノ方ハ印ニ矢張リ重キヲ置イテ居ラレルモノト私共ハ考ヘマス、ソレデラウト思ヒマス、併シ其今ノ登記書類其他ニ印ヲ捺カシテ居ル以上ハ矢張リ此署名ニナリマシテカラ全國ノ實業家ガ此不便不都合ヲ感シテ私共ハ宜カラウト思ヒマス、併シ其今ノ登記書類其他ニ印ヲ捺カシテ居ル以上ハ矢張リ政府ノ方ハ印ニ矢張リ重キヲ置イテ居ラレルモノト私共ハ考ヘマス、ソレデラウト思ヒマス、併シ其今ノ登記書類其他ニ印ヲ捺カシテ居ル以上ハ矢張リ

名・會社デアリマスルト會社ノ取締役ハ五名ナリ六名ナリ一々自署スルコトハ中々一萬二萬ノ株券デアリマスト容易ニ中々自署ノ出來ルモノデハゴザリマセヌ、現ニ或ル會社デハ此八月開業致シ、マダ株券ヲ發行スルコトが出來マセヌ、ソレハ何ノ爲カト云フニ今申シマスル通り自署ト云フコトノ爲ニ今以テ株券ヲ渡スコトが出來マセヌ、サウ云フ次第デゴザイマシテ現ニ大キナ會社ニ於キマシテハ到底署名が出來マセヌカラ、唯今ノ所デハ取締役ノ肉筆ヲデアリマス、ソレト申シマスノハ法律ノ署名ノ精神カラハ是ハ違法ニ違ヒゴザリマセヌガ已ムチ得ズサウ云フ次第ニ致シテ居ルノデアリマス、今一ツ不便ノ點ヲ申上ダマスレバ銀行が今日爲替ヲ取組ミマス次第デアリマスガ、此署名ト云フコトニナリマシタカラ今日爲替ヲ取組ミマス銀行間デハ相互ニ此爲替ヲ組ミマスル人ガ自書ヲ取換シテ居リマスノデアリマス、然リマスル所ガ多クノ銀行デアリマシテ日本ノ字ノ書キヤウハ今申シマス通り三體ノ書キヤウガアリマシテ楷書デ書キマシテ斯ウ云フ文字ヲ書クト云フコトヲ他ノ銀行ニ通知テ致シテ置キマシテソレガ若シ又行書デ其後爲替ヲ組ミマスルコトデアリマスルト其銀行デハ元楷書デ是ハ見本ガ來テ居ルニ依テ行書デハ幾分カ字體ガ分ラヌ、ドウカコイツハ元ノ通り楷書ニ書直シテ貰ヒタイト現ニ爲替ヲ返シテ參リマシタ所ガアリマス、所ガ多イ銀行デゴザイマスカラ中々一々何所ト何所ヘハ行書デ書イタト云フヤウナコトハ到底覺エテハ居ラレマセヌ、ソレカラ又今一ツ申上ダマスレバ爲替ヲ組ミマスル際ニ今申上ダマスル通リ人ガ斯ウ云フ文字デ爲替ヲ組ムト云フコトヲ通知シテ置キマシテモ其人ガ病氣デ出マセヌカツテ爲替ヲ組ミニ參リマシタ人ガ參ラレマセヌデ代リノ人ノ署名デアルト先方デ渡シマセヌノデ爲替ヲ組マレヌトサウ云フ次第デアリマシテ全國實業家ハ困ニ居リマス、デ金澤ノ商業會議所其他二三商業會議所カラ貴衆兩院へ請願が出テ居リマス、又内閣總理大臣司法大臣農商務大臣ヘモ是ハ元ノ通り印ニ極メテ、印ノ方ニ變ヘテ貰ヒタイト云フ請願が出テ居ル次第デゴザイマス、ドウゾ皆サンニ於キマシテハ今申上ダマスル通り確實ノ方カラ見マシテモ印ノ方ガ宜シカラウト考ヘマス、又實業家ノ即チ不便不都合ヲ救ヒマスルニモ印ノ方ガ宜カラウト思ヒマスカラドウゾ皆様ニ於テモ賛成下サレマシテ此少數者ノ意見が通過致シマスルヤウニ偏ニ希望致シマス○男爵小澤武雄君 本員ハ少數者ノ意見ニ全然同意致シマス、デ今少數者カラ此記名調印ノコトヲ述ベラレマシタガ、尙ホ其外私ガ感シテ居ル所ガアリ

○富井政章君 演壇ニ登ル

○富井政章君 私ハ本案ニハ反對デアリマス、此問題ハ至ツテ簡單ナ問題デアリマス、詰リ一方ハ全ク成ルベク間違ヲ少クシヤウト云フ考デアル、他ノ一方ハ全ク成ルベク便利ニシタイト云フ考ガ衝突シテ居ルンデアラウト思ヒマス、私ハ元來印形ガ大嫌ナ方デアル、先ヅ印ト云フモノハ盜用スルコトガ出来ル、是ハ確ナ事實デアリマス、ソレカラ書クコトニ比べレバ偽造シ易イ、又偽造ヲ發見シニクイ、是ハ比較的ノコトデアリマスガ、私ハサウ信ジテ居ル、併シ此點ニ附イテハ唯今小笠原子爵ノ御意見モアリ、隨分反對説ガアリマスカラ是ハ水掛論カモ知レヌ、併シ茲ニ一ツ印ガ押シテアルト、ソレハ眞ニ書イタ人ガ押シタノカ、誰カが盜ンデ押シタノカ、ソレハハッキリ分ラナイ、例ヘバ茲ニ二ツ書キ物ガアル、署名捺印シテアル、其中デドチラガ正シイカト云フコトヲ判斷セヌナラヌ場合ニ、例ヘバ此次ノ日程ニアリマスル委託投票ガニツアル、其中ノドチラガ正シイト云フ場合ニ、署名捺印シテアル、筆蹟ガ一ツデアル、印モ一ツデアルケレドモ、是ハドウモ十分ニ確トハ言ヘナイ、私等ガ見ルト先ヅドウ見テモ筆蹟ガ一ツデアルカラ其方ニ信用ヲ置イテ信據ナ固メル道具トスルノデ、サウ云フ譯デアリマスカラ確實ト云フ方カラ云ヘバドウシテモ筆蹟ノ方ガ確實デアラウト思ヒマス、神速トカ便宜トカ云フコトハ極メテ大切ナコトデアルケレドモ、先ヅ以テ間違ガ少イ、確實ト云フコトが必要デアラウト思ヒマス、現ニ外國ニ於テハ今日印影ト云フモノガナイ、皆署名デヤツテ行ク、ソレデ何ノ不都合モ感ジナイ、日本ニ於テモ特ニ之が爲ニ不便ヲ感ズルト云フ理窟ハナイト思ヒマス、私ノ考デハ元來日本人ハ甚ダ不精デアリマス、自身デ仕事ナシナイ、政治デアラウガ商業デアラウガ大抵人任せデアル、ソレ故ニ人ハ澤山使ツテ仕事ハ其割合ニ擧ラナ

イ、此點ハ歐米人ト大イニ違フト思ヒマス、此有様デハ速モ事業ハ進マナイト思ヒマス、今少シマメニナレバ署名位ノコトハ何デモナイト思フ、委員會ニ於テ武井君デアリマシタカ御述ニナツタコトハ誠ニ御尤デアルト思ヒマス、武井君ノ御話ニ自分ハ保険會社ニモ銀行ニモ關係シテ居ル、然ルニ商法ニ署名ヲ言フノデアラウト云フ御話デアツタ、私モ其通りデアラウト思ヒマス、唯反對說ノ稍々尤ト思ヒマス點ハ會社銀行等ニ於テ株券又ハ社債券ヲ發行スル如キ一時ニ澤山ナ紙ニ署名セヌナラヌ場合ニ一々何ノ太郎左衛門ト云フ名ナウト思ヒマス、ソレ故ニ私ハ委員會ニ於テ折合ノ策トシテサウ云フ場合ニハ書判デ宜イト云フコトニシタラドウデアルト云フ意見ヲ述べテ見マシタガ、贊成ガ少クツテ潰レマシタ、サウシテ見レバ詰リ新商法ノ規定通リデ宜イトコマデモ信ズルノデアリマス、元々此印影ト云フモノハドウ云フ原因カラ起ツタモノデアルカト云フニ私ノ考ニハ是ハツハ國人が不精デアルノト、又ツハ無筆者が多カタ、昔ハ無筆者が多カツタト云フ所カラ來タノデハナイカト思フ、然ルニ今日ハ普通教育が全國内ニ開ケテ自分ノ姓名モ書ケナイ者ハ日々減ジテ行ク、今日ニ於テハ其數ハ極メテ少イト思フ、殊ニ會社銀行ノ役員ナスルトカ云フ即チ株券債券爲替等ニ署名シヤウト云フ者ハ即チ會社銀行ノ役員デスナ、サウ云フ人が自分ノ姓名ヲ書クコトガ出來ナイト云フコトハ萬々アリ得ナイコトデアラウト思フ、今少シマメニナレバ宜イ、歐米人ノヤリ口ニナレバコンナコトハ何デモナイト思ヒマス

○兒玉淳一郎君 本員ハ聊カ此事ニ附イテチヨット政府委員ニ御尋シタイコトガアリマス、司法省ノ調デハ是マデ人ノ名前ヲ偽造シタノト印判ヲ濫用シタノトドツチガ多カツタカ、裁判ノ數ヲ御記憶ガアレバ御述ヲ願ヒタイ

〔政府委員梅謙次郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(梅謙次郎君) 唯今ノ兒玉君ノ御問ニ御答致シマスガ、從來ハ印ニ附イテハ特別ニ印影濫用ト云フノト、ソレカラ官印若クハ私印ノ偽造行使ト云フモノト刑名ガ別ニシテアリマスカラシテ、ソレニ附イテ各幾ラノ數ニナツテ居ルト云フコトハ統計上現レテ居リマス、唯筆蹟ヲ偽造シタ云フノ特ニ別段ニ刑名トシテ居リマセズ、ソレニ附イテ別段統計が上ツテ居リマセヌカラ、ソレニ附イテ御答ヲ申上ゲルコトハ唯今出來マセヌ、私印偽造行使ノ數ハ矢張リ是ハ明治三十年……三十一年ノハ今調查中デ少シ出來上ツテ居

リマセヌカラ、二十年ノ申シマスルト私印偽造行使ガ二百三十三件、印影濫用ガ前會申シマシタ通り五百九件、ソレカラ手形偽造變換行使ト云フモノガ一件、私書偽造變換行使ト云フノ偽造變造ヲ含ンデ居リマス、此中ニ唯署名ノ中ノ一部分ヲ書直シタモノモアリマセウシ、書入ヲ致シタノモアリマセウシ、種々雜多ノ場合ガ包含サレテ居ルガ故ニ斯ク多數ニナツテ居リマスガ、其中筆蹟ヲ眞似タト云フノガ幾ツト云フコトハ唯今ノ調デハ分ッテ居リマセヌ、序ニチヨト意見ハ申シマセヌガ、先刻小笠原子爵カラ御述ニナリマシタコトニ附キマシテ辯明ヲ致シテ置クコトガゴザイマス、ソレハ一ツハ株券若クハ債券ニハ取締役ガ皆連名デ自ラ署名シナケレバナラヌト云フノデ大變ニ手數ガ掛ルト云フ御說ガアリマシタケレドモ、無論斯ノ如クスレバ尙ホ結構デアリマセウガ、法律上ノ條件ト致シマシテハ取締役が一名署名致シマスレバソレデ足リルノデアリマス、其上ハ印ヲ押シテ置キマシテ書イテナクトモ法律上ノ條件ニハ闕ケナイ、ソレカラモウ一ツ辯シテ置キマスコトハ又ツハ禁ジナイカ、斯ウ云フ御論デアリマシタガ、是ニ附イテハ一言辯シテ商法ニ於テ印ニ重キヲ置カヌト云ツテ居リマスガ、他ノ手續法等ニ於テハ矢張リ捺印ト云フコトヲ採用シテ居ル、印ガソレ程當ニナラヌモノナラ、何ゼ印ヲ禁ジナイカ、斯ウ云フ御論デアリマシタガ、是ニ附イテハ一言辯シテ置カネバナラヌ、勿論段々ト署名ノ慣習ガ廣マリマシタ曉ニハ總テノ書面ニ印ト云フモノヲ法律上ノ條件トスル必要ハ多分ナカラウト思ヒマスル、ケレドモ御承知ノ通り從來印ヲ用ヒテ居ツタノデアル、而シテ官廳ニ於キマシテハ官廳ニ書面ヲ持ツテ參ツタトキニ印ガナケレバ之ニ印ヲ捺セト云ヘバ濟ムノデ、印ガナイガ爲ニ後日ソレガ無効ト爲ルト云フヤウナコトハナイノデアリマス、且ツ官廳關係ノコトハ多クハ印ノミノコトデナイ、他ノ手續上サウ簡客ニハ參リマセヌノデスカラ、印ヲ捺セト云フ位ノコトヲ命ジマシテモ敢テ差支ハナカラウ、併ナガラ是モ唯印サヘ捺シテアレバ宜イト云フノデナクシテ矢張リ署名モ必要デアルノデ、署名ノ上ニ捺印ト云フコトニナツテ居ル、印ハ從來印鑑ト云フモノヲ取ツテ置キマス、其慣習ニ依ツテ行政上ノ取扱方便利デアルカラ先づソレハ其儘ニナツテ居ルノデ、然ルニ私權關係ノ商法等ニ規定シテアリマスル事柄ニ附イテハ署名捺印ノニツチ必要トスル登記扱ノ如キハ署名捺印ノニツチ必要トスルト云フコトハ是ハ無論要ラヌノデ、ドチラカーツアレバ宜シイト云フコトニ致シマセヌケレバ雙方必要デアルト云ヘバ自身ニ書ケナイトキニハ書カナイ、印ヲ捺シテモイカナイ、又自身ニ書イテモ

イカナインオデ、捺スコトガ出来ヌト云フト矢張リ無效ダト云フコトニナツテハ
不便ニ堪ヘマセヌ、何レドチラカ一ツチ必要トセヌナラヌ、ソコデ印ヲ必要
トスルカ、署名ヲ必要トスルカ、兩方アレバ無論宜シイガ、法律上ノ條件トシ
テハドチラヲ必要トスルカト云フコトニ附イテ協議ノ末、署名ト云フコトニ
ナツタノデアリマス、行政上ノ取扱ニ附イテ署名捺印ヲ要シテ居ツテモ民法
署デハナイノデアリマス、ソレダケヲ辯ジテ置キマス
上商法上ノ私權關係ノ書類ニ署名ノミヲ必要トスルト云フコトハ敢テ自家撞

○兒玉淳一郎君 尚ホ伺ヒマス、チヨント初ノ所ガ分テナリ、一番初ノ御箭
ハドウダツタカ、私ガ申上ゲタインハ私書偽造ト印鑑盜用トハドツチガ多カツ
タラウカ、最初ノ御答ヲ聞兼ネマシタガモウ一ツ初ノ方ヲ……

○政府委員(梅謙次郎君) 御答ナ致シマス、私ノ聽取リマシタル所デハ此印影濫用若クハ印影偽造ト云フモノト、ソレカラ筆蹟偽造ト云フモノトドチラガ多イカ、數ハドウ云フ割合カト云フ御問ト聽取リマシタ

○政府委員（海兼次郎君）

○政府委員（梅謙次郎君）然ルニ是マテハ筆蹟ノ偽造ト云フモノが特別ノ刑
名ニナッテ居リマセヌカラ、ソレニ附イテノ統計ハ分リマセヌノデ、ソレデ
私印偽造、印影盜用ノコトハ先刻申上ダマシタガ、其他ノ者ハ總テ私書偽造、
變換行使ト云フ廣イ罪名ノ中ニ一緒ニナッテ居リマス、其中ドレダケガ筆蹟ノ
偽造アルカト云フコトハ調べテナイノデアリマス

ス、其主意ヲ簡短ニ申シタウゴザイマスガ此席カラ極ク簡短ナノデ、宜シウ
ゴザイマスカ

○議長(近衛篤麿君) 成ルベクハ演壇デ願ヒマス

〔三崎龜之助君演壇ニ登ル〕

○三崎龜之助君 私ハ元來其現行法律ニアル如ク或ル種類ノ證書ハ之ヲ發行
スル者ガ署名スルヲ要スト云フ主意ニ實ハ極ク贊成ヲ致シテ居ツタノデアリ
マス、所ガ其法律ノ實施セラレタ曉トソレカラ今日ニ至ルマデノ實際ノ有様
ヲ見ルト云ブト實ハ先ニ贊成ヲシタコトガ甚ダ實際ニ適シテ居ラナイト云フ
コトヲ自分ガ悟ツタノデ、然ルニ此度幸ニ此改正案ガ衆議院ニ提出セラレ、本
院ヘ回ツテ來タト云フ機會ニ際シタノデゴザイマスルデ、私モ此機ニ臨ンデ
即チ此改正案ヲ賛成シテ現行ノ法ヲ改メタ方が實際餘程便益デハアルマイカ
ト云フ考ヲ浮ベマシタ、其實際ノ模様等ニ至リマシテハ小笠原子爵小澤男

爵ヨリ具サニ御開陳ニナリマシタカラ、私が此所デ今更蛇足ヲ添ヘルノ必要ハゴザイマセヌガ、サテ困ツテ居ル所ノ事情モ私ノ知リ得テ居ル所ヲ申上ゲ置キマスルノハ本案ヲ定メル上ニ附イテノ多少ノ御参考ト相成ラバヤト存ジテ簡短ニ申上ゲタウ存ジマスル次第デアリマス、此案ノ抑々始メテ實施セラレタル曉ニ銀行者間ニ於テドウ云フヤウナ有様デアッタカト申シマストソレハ實ニ言フニ忍ヌ又有様デアッタノデゴザイマス、先刻政府委員ノ……政府委員ヂヤナイ誤リマシタ、富井政章君カラ武井サンノ御辭ヲ引イテ申サレマジタガ、成ル程武井サンニ於テレマシテハ事務上、十分ノ敏腕ヲ有セラレテ居ル御方デゴザイマスカラ何ノ仔細モナク此改正ノ際ニ遭遇セラレテモ御不都合ハゴザイマセナシナダデハゴザイマセウガ、現ニ御關係ノ安田銀行ニシマシテモ其他大銀行小銀行ニ至ルマデ此改正ノ爲ニ書面ノ往復、又各取締役ハ署名スル譯ニ行キマセヌナラ代理ヲ持ヘテ署名ヲサセナケレバナラヌ、是ノ取引先ハ一々届ナシナケレバナラヌ、又數百枚或ハ數萬枚ノ天下ニ書出ス所ノ手形振出し人ニ對シテ、即チ得意先ヨリ署名ノ記名鑑ヲ徵收スル所ノ其有様ト云フモノハ實ニヒドイ混雜デアッタノデゴザイマス、所デ政府委員カラモチヨット御辭モアッタ如ク、何モ之ヲ署名サヘシタラバ印ハ要ラナイト云フ御主意デアリマスルガ、所が事ノ實際ニ當ツテ見ルト決シテサウデハナインオデゴザイマス、何分數十年來、數百年來、印デ濟マシテ來テ居ル所ノ眼デアッテ、ソレデ記名鑑ヲ取ツテ置キマシテモ銀行者ノ店ノ者ト云フモノハ、ソレデ宜ウ仕事ヲシ得ヌノデアリマス、記名鑑ト振出シテ來タ手形ト窓合セテ大シテ來テ居ハ所ノ印ガアリマスルト此印ヲ引合セレバ一見シテ分ルノデス、ト云フモノハ新規ノ事柄デアリマスカラ慣レナイ、ソレヨリハ矢張リ元カラ捺シテ來テ居ルカト云フコトナ御話スルト或ハ政府委員拵ノ意想外ニ出テ居ルデアラウト思フノハ一層面倒ヲ著セテ居ル、ト云フモノハ銀行者ハ慣レナイガノデ店デ取引ヲシテ居ルヤサナ有様デ法律上、印ノ有無ハ決シテ何ノ效能モラ記名鑑ノ方ニ重キヲ置クコトハ出來ナイ、慣レナイ爲ニ矢張リ印鑑ヲ徵シテ記名シタ上ニ又印ヲ押サセテ其印ノ方ヲ先キニ見テ是ナラバ大丈夫ト云フ

ナイノデアルガ、實際ノ便益上ソレヲヤツテ居ルト云フヤウナコトデ、法律ヲ
拘ヘタ方デ記名鑑ノ方ガ神速ニ行ケルト云フ考ナノガ實際ニハ其爲ニ却ッテ
其上ニ今一ツ安心ノ爲ニ印ヲ徵シテ居ルノデアル、是ハ即チ當事者ガ手續
ヲ斯ノ如クマデニスルノガ愚ニアリマセウ、愚ニアリマセウガ如何セム數百
年來ノ習慣デ是ニ至ッテ居ルノデ、取モ直サズ一タビ習慣ニナツテ居ルモノ
ハ一片ノ法律ヲ以テ容易ニ直スコトガ出來ヌト云フ證據ニナルノデゴザイマ
ス、サウ云フヤウナ有様ニナツテ居リマス、ソレカラ先刻小澤男爵カラ申サレ
タ如ク實ハ株券ノ發行ダノ、又新株ヲ發行スルトカ、例ヘバ銀行ノ名ヲ舉ゲデ
申セバ勸業銀行ノ如ク時々債券ヲ發行スルナドト云フ際ニ當ッテ、或ル會社ハ
或ハ一萬枚デ濟ミマセウケレドモ、或ル會社ニ至リマシタナラバ或ハ十萬枚
或ハ二十萬枚ト云フ數ガアリマス、之ヲ成ル程富井君ノ言ハレル如ク取締役
以上ノ人ハ成ルベクマメニ動カセルト云フノハ御尤デアリマスケレドモ、如
何ニマメニ動キマシタ所ガ十萬枚以上ノ紙ヘ一々自分ノ名前ヲ書クト云フコ
トハ隨分多數ノ日子ガ掛ルノデアル、取締役ハソレバカリガ仕事デハナイノ
デ其他ニ今ノヤウナ器械的ノ仕事デナク十分ニ考ヘナケレバナラヌ仕事ヲ上
ニ行ケバ行ク程持ッテ居ル、ソコデ署名捺云フコトハ勿論大事ナコトデゴザイ
マスケレドモ是ハ機械的ノ仕事デアリマス、ソレデ若シ今立法者タル政府委
員、或ハ富井サンモ其當時ハ立法者デアルノデスガ、其御考ノ如ク取締役ガマ
ニニ動カネバナラヌト云フ御主意カラ來テ居ルモノデアリマシタナラバ、實
入ノ烈シイ所デアルカラ取締役ガ一々署名ヲシナケレバナラヌト云ヘバ一日
ハ取締役ハ器械的ノ仕事デ其日ヲ暮スト云フコトニナル、例ヘバ三井銀行第
百銀行十五銀行等ヘ出テ御覽ナサイ、資本ノ大キイ金ノ出入ノ多イ手形ノ出
入ノ烈シイ所デアルカラ取締役ガ一々署名ヲシナケレバナラヌト云ヘバ決
シテ取締役ノ仕事ハサウ云フコトデハナイ、ソコデドウシテモ取締ニ代ッテ記
名スル者ヲ餘分ニ拘ヘテ置カナケレバナラヌト云フ必要が出來テ、取リモ直
サズ忙シイ銀行ノ如キハ御覽ナサイ此法律ノ爲ニ已ムヲ得ズ署名ヲサス代理
者ト云フ者ヲ一々拘イテ届ケテ居ルト云フ有様ニナツテ居ルノデ、誠ニ實際
不便デゴザイマスル宜シウゴザイマス、實際如何ニ不便デアッモ其金券ニ代
ル所ノ證券ガ確實ニナリサヘシタナラバ即チ其當業者ノ爲ニ宜イデハナイ
ガ、斯ウ云フノガ詰リ落チノ論ニナルノデス、ソコデ詰ル所便利ガ欲シイ
カ確實ガ欲シイカ之ヲ相量テ何方ガ欲シイカト云フ問題ニ歸スルノデ、或ハ

裁判上ノ方カラ云フト記名鑑ノ方ガ證據ヲ確實ニ取り易イト云フカ知レマセ
ヌガ、其方カラ實際ヲ御話スルト先刻モチヨット申シタ如ク何分印ヲ押ス方
ノ習慣ト云フモノガ數百年來出來テ居リマスカラ今日印ノ真否ヲ鑑定スルノ
ハ記名鑑ヲ鑑定スルヨリモ容易デ、ソレヲスル者ガ餘計居リマス、ソレデ判
ノ真偽ヲ判別スルト云フコトハ誠ニ唯今ハ數百年ノ習慣ノ結果大變易イ、所
ガ此署名ノ真偽ヲ判斷スル者ハ或ル部分ニ限ラレテ居ル、例ヘバ古筆了仲ト
カ云フヤウナ古筆ノ鑑定ヲスル者ノ外ハ之ヲ鑑別スルコトハ容易ニ出來ナイ
ノデアル、ソコデ此證據ノ確實真否ヲ調ベルト云フ點カラモ私ハ印ノ方ガ今
日ノ有様デハ便利デハアルマイカト云フ疑チ持ッテ居ル、或ハ是が數百年モ
經テ現行法律ノ如クニ行レテ行ツタ後ハ西洋ノ如クニナルカモ知レマセヌガ、
今日ノ場合ニ於テハ證據ヲ取ル上カラ言ウテモ印ヲ押ス方が便利ニナツテ居
ル、況ヤ取引ヲスル方ニモ便利デアル、又證據ノ真偽ヲ調ベルノガ便利ト云
フコトハ之ヲ裏カラ言ヘバ證據ノ確實ト云フコトヲ得ルニ便利ト云フコトニ
ナルノデアル、ソレデ或ハ立法者ガ單ニ此西洋諸國ニ行レテ居ル所ノ習慣ヲ
取り、且ツ改正條約實施ニモナルカラ成ルタケソレニ合ーシテ内外其手續ヲ
別ニスルコトノナイヤウニスルト云フ御主意モアツタラウト存ジマスケレド
モ何分習慣ガサウナツテ居リマス上ニ證據ヲ取ル上ニ於テモ便益ガアリマス
カラ、私ノ考デハ初ハ署名ノ方ガ宜カラウト思ヒマシタケレドモ、行ハレテ後
實際ノ有様ヲ見ルト云フト中々サウ云フ有様ニハナツテ居ラヌノミナラズ、初
想像シタ如ク印形ガ廢ツテ居ルカト云ヘバサウデナイ、依然ト舊ノ如ク使用ス
ル途ガ多イノミナラズ又立派ニ證書ニ捺サナケレバナラヌト云フ民法上ノ規
定カラ見テモサウナツテ居ルノデアリマス、何分此法律ノ爲ニ實際取引上ニ不
便ヲ被ラシテ居ルト云フコトハ小笠原子爵小澤男爵ノ言ハレタ如ク實際今日
アラウト思ヒマス、是ガ若シ少數者ノ意見ノ如ク改メラレテ何方モイケルト
云フコトニナリマスレバ誠ニ此實際ノ取引上ニ便益ヲ與フルコトハ實ニ少カ
ラヌコトト思ヒマスルデ、危險ハドウデアラウカト云ヘバ決シテ政府委員、
富井政章君ノ言ハル、如キ御心配ナク確實ニイケルコトト私ハ確信シマスル
ドモ、此事タルヤ私共極ク最初カラ……今日此議場ヘ出タバカリデナク極

〔村田保君演壇ニ登ル〕

○村田保君 私モ此少數者ノ意見ヲ贊成シテ居ルノデ、ソレデゴザイマスカ
ラ段々此皆サンノ御意見が出マシタカラ述ベル必要ハナイト存ジマスケレ
モ、此事タルヤ私共極ク最初カラ……今日此議場ヘ出タバカリデナク極

タ最初カラシテ私ハ日本ニハ印ノ必要ダト云フコトヲ感ジ居マスル方デゴザイマスル、又富井君並ニ政府委員ハ初カラ印ハ不需要ナモノダト云フ御意見チ御持ニナツテアリマスカラ、今日モ矢張リ少數意見ニハ又反対ト見エル、併シナケレバナラヌト言ツタラ是ハ政府デモ一度出シタモノデモアルカラ隨分反対ナシテモ宜イ、所ガ是ハ御覽ノ通り署名スベキ場合ニ於テハ記名捺印チ以テ署名ニ代フルコトヲ得ト云フノデアル、ソレデスカラシテ富井君並ニ政府委員ノヤウニ印ハ大嫌ヒ、署名バカリ宜イト云フ御方ハ署名バカリデ行クノデアリマス、併ナガラ我々ドモノヤウニドウモ古來カラシテ印ノ極ク必要ダト云フ者ハ印ヲ用ヒルコトガ出來ルト云フノダカラ雙方ノ爲ニ私ハ便利ダラウト思フ、先程富井君ガ述ベラレマシタガ、自分ハ印形ハ大嫌ヒダト言ハレタケレドモ御自身ハドウデスカ、實印ヲ御所持ナサラヌカ、必ズ印ヲ持ッテ居ナクチャアナルマイ、又御子サンが出來テ戸籍届ヲ爲サルトキニ如何デアリマスカ、印ナシデ戸籍届が出來マスカ、今日ノ戸籍法ハ印ヲ捺サナケレバドウシテモ戸籍吏デ受付ケマセヌ、ソレ故ニ今日俄ニ之ヲ止メヤウト言ツテモ止メラレルモノデナイ、併ナガラ本員モ日本ガ段々署名バカリデ宜イヤウニナレバ結構デス、併シソレハ自然ノ結果デナケレバナラヌ、段々署名ガ宜イト云フコトニナツテ來テ印ガ廢タルト云フコトニナツタラ宜イ、併シ之ヲ俄ニ古イ習慣ヲ打破ツテ印ヲ用ヒルト云フコトハナラヌト云フコトハ實際行ヘルモノデハナイ、唯今三崎君ガ述ベラレマシタガ實際行レテ居マセヌ、商法ニ於テ爲替手形ニハ署名ヲ要ストカ約束手形ニハ署名ヲ要ストカ小切手ニハ署名ヲ要ストカアリマスケレドモ、實際小切手デモ何デモ署名バカリデハイカヌ、或ハイク所ガアルカ知ラヌガ本員扱ノ知ツテ居ル銀行デハ署名バカリデハ承知シナイ、初ハ自書ノ鑑ガ欲シイト言ツテ徵集シタ、或ハソレニ對照スル所ノ手鑑ヲ欲シイト言ツテ徵集シナガラ矢張リ印ヲ捺サナケレバ小切手デモ何デモ取りハシナイ、實際サウナツテ居ル、何ゼト云フノ二人ガ承知シナリデハ手取シ例ヘバ受取ヲ持ツテ來ル、黙ツテ受取ルカ、印ヲ捺シテ來イト云フニ達ヒナイ、少シノ買物ヲシテモ同ジデアル、印ナシデハ富井君モ恐ラクハ御受取ニハナルマイト思フ、當人が書イタンダカドウカ分ラヌ、自筆ト云フモノハ中々先程小笠原君ノ言ハレル通り楷書モアル、行書モアル、草書モアル、又隸書ト云フモノモアル、隸書ハ幾ラカ廢ツタガ、ソレノミナラズ幼年ノ時ノ

筆蹟ト老年ノ時ノ筆蹟トハ違フ、又手習スレバ直グト違フ、日本ノ書程贋造ノ仕易イモノハナイ、御覽ナサイマシ、昔カラエライ人ノ書デモ贊ノ上手ナモノハ贊ト見分ノ出來ナイ程上手ニ出來ルノデアル、ソレデスカラ自分シナケレバナラヌト言ツタラ是ハ日本ノ書ハ出來ヌ、歐羅巴ハ自分ノ筆デ書クノガ書イテモサウデス、自分ガ書イテモ三枚同ジニ書クコトハ出來ヌ、富井君ニハ出來ルカ知ラヌケレドモ我輩ニハ出來ヌ、同ジ通リニ一分一厘違ハヌ、判ナ捺シタヤウニ書クコトハ日本ノ書ハ出來ヌ、歐羅巴ハ自分ノ筆デ書クノガ昔カラ慣習ニナツテ居ル慣習ニナツテ居ルカラシテソレデ信用シテ居ル、ケレドモ日本デハサウハイカヌ、印ト云フモノナドコマデモ信用シテ居ルカラ印ガナケレバドンナ物ガアッテモ承知シナイ、既ニ先程モ富井君ガ言ハレマシタガ、委任狀ガニツ出タトキニハ……同ジ物ガニツ出タトキニハドウシテモ自筆ノ方ヲ信用スル、所ガ若シ一ツノ方ニ印ガアッテ一ツノ方ニ印ガナカツタラドウダ、印ガアッテモ印ノナイ方ヲ信用スルト云フコトハ私ハ日本人ニハナイト思フ、外國人ニハアルカ知ラヌガ、日本人ハ決シテナイト思フ、印ガナケレバ印ヲ持ツテ來イト云フコトハ富井君自ラモサウ言ハレルニ違ヒナイ、斯ノ如ク日本ト云フモノハ印ヲ貴シニ居ル、ソレヲバ外國人ガスウヤルカラ日本人モ印ナシニヤレト云フノハ無理ナ話ダ、ソレデ外國人ニ無理ニ印ヲ捺サセルト云フコトハ出來ナイ、日本人ト同ジヤウニ印ヲ捺サセルコトハ出來ヌ、ソレ故ニ昨年ノ法律第五十號ヲ以テ其取除ケガ出來タ、段々外國人ガ這入ツテモ來ルシ隨分外國人モ日本人モ同ジ法律ノ下ニ服シテ印ヲ捺サセルト云フコトハ出來ヌカラシテ「法令ノ規定ニ依リ署名捺印スヘキ場合ニ於テハ外國人ハ署名スルヲ以テ足ル、捺印ノミヲ爲スヘキ場合ニ於テハ外國人ハ署名ヲ以テ捺印ニ代フルコトヲ得」トアル、斯ウ云フ風ニ外國人ハ取除ケガアル、デアリマスカラ日本人ハ外國へ行ケバ印バカリデ宜イト云フコトニナツテ居ル、同ジ譯ダ、サウ云フ風ニ外國人ノ關係ヲ恐レルト云フコトニナレバ、ソレガ爲ニ昨年ハ外國人ノ取除法が出來テ居ル位デアル、ソレノミナラズ今日ノ所デ如何デゴザイマス、署名バカリデ宜イト云フ法律ハ何ミデアル、私ノ見テ居ル所デハ商法バカリデアル、ソレハ富井君モ御承知ノ如ク民法ノ法律調査會ノトキニ民法ノ方が先ニ極ツタ、民法ニモ署名ト云フコトハ……捺印ト云フコトハ止メル、署名バカリニシヤウト云フ論ガアッタ、我々ノヤウナ古株、年寄株ト云フモノハ日本ノ印ト云フモノハ大切ダカラト云フノデ署名捺印ト云フコトが必要ト爲リ、民法ノ方ニハ幸ニ我々ノ方が勝利ヲ得タ、若シ又ソレガ署名バカリデ宜イト云ヘバ民法ノ自筆ノ遺言扱ト云フモノハ尙

更印ガナクテモ宜イ、ケレドモ自筆ノ遺言ヲスルトキニハ署名捺印スルコト
ヲ要ストアル、是ナンドハ既ニ遺言抒ハ自書ノ遺言デアリマスカラ親ノ字ト

云モノハ誰デモ知ッテ居ル、ソレハ自書ダカラ印抒ハナクテモ宜イヤウダガ
「捺印スルコトヲ要ス」ト云フコトヲ極メテアル、所ガ商法ハ後ニ出マシテ、後
ノ法典調査會ノ時分ニ我ミノ年寄株ハ負ケタ、アナタ方若イ御方ニ負ケテ遂

ニ其方が多數ヲ占メテ商法バカリハソレ故ニ署名ト云フコトニナッテシマツ
タ、商法ト民法ハ殆ドビコチ曳イテ居ル、民事訴訟法モ其通り署名捺印ノコ
トガアル、其他ノ法律モ何ガ署名バカリノモノガアルカ、私ハ知ラヌ、第一戸
籍法デモ署名捺印ト云フコトガアル、或ハ不動産登記法デモ署名捺印ニナッ
テ居ル、或ハ競賣法デモ署名捺印ト云フコトニナッテ居ル、或ハ非訟事件手
續法、船舶登記、商業登記取扱規則ニシテモ大概署名バカリト云フコトハナ
イ、皆印ト云フモノヲ用ヒテ居ル、ソレ故ニ若シ是ガ商法デ署名バカリト云
フコトが必要ナラバ民法モサウスルガ宜イ、民法ニハ兩方アツテ商法バカリ
ハ捺印スルニ及バヌト云フノハドウモ分ラヌ、ソレデ本員ハ是ハドウゾ……
マダ述べタイコトモ段々アリマスケレドモ、餘り必要ハナイト思ヒマスカラ
述ベマセヌガ、ドウゾ此少數意見ノ通リニナラムコトヲ希望シマス

〔採決採決ト呼フ者アリ〕

○政府委員(梅謙次郎君) 事實ノ相違ダケナ正シテ置キマス、村田君ノ御説
ニ依リマスルト、民法ニ於テハ捺印ヲ必要トシテアリナガラ商法ニ於テハ署
名ノミデ宜シトイ云フコトニシタイト言ハレマスガ、是ハ事實ガ相違致シテ
居リマス、民法中ニ於キマシテハ遺言ノ場合ヲ除クノ外斯ノ如キ形式ヲ備ヘ
ナケレバナラヌト特ニ法律デ命ジテ居ルモノハナイ、故ニ署名ノミデ宜イトイ
カ、捺印スルガ宜イトイカ云フコトハ規定シテ居ラヌノデアル、併ナガラ證據書
類ト致シマシテハ民法ニ依ッテ始メテ極タモノデナク、從來モ署名シタモノ
デモ、印ノ捺シタモノデモ本人ガ作タト云フコトガ確實デアル以上ハ證據ニナル譯デアル、是ハ民法施行前ト施行後テ變ハルコトハナイ、惟リ
遺言ダケハ鄭重ニスルガ宜イカラ鄭重ニスル意ヲ示ス爲ニ捺印マデサセタラ
宜カラウト云フ、是ハ商法ニ於テ署名ノミデ宜イトイ云フ意見ノ者が出テ同意
致シマシタ、其點ダケ事實ガ相違致シテ居リマスカラ申上ダテ置キマス

○男爵西五辻文伸君 討論終局ノ動議ヲ提出シマス
〔賛成ト呼フ者多シ〕

○議長(公爵近衛篤磨君) 討論終局ノ動議ガ出テ賛成ガアリマスルガ、賛成

ハ大凡二十人アツタト見テ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛篤磨君) 然ラバ討論終局ノ動議ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒ

マス

起立者 多數

○議長(公爵近衛篤磨君) 過半數ト認メマス、討論ハ終局ニナリマシタ、探
決ニ附イテ誤ノナイヤウニ念ノ爲ニ申上ゲテ置キマスガ、衆議院カラ同ハリ
マシタ原案ニ委員會ノ決議ハ反對ニナッテ居リマスカラ、第二讀會ニ移ルヤ
否ヤノ決ヲ採リマスルトキニ、第二讀會ニ移スベシトスル方ハ原案ニ賛成デ
アリマス、ソレニ反對スル方ハ無論委員會ノ修正ノ方ト同ジコトニナリマス、
間違ノナイヤウニ御注意ヲ請ヒマス、ソレデハ第二讀會ニ移スベシトスルノ
諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵近衛篤磨君) 多數ト認メマス、第二讀會ニ移ルコトニ決シマス

○男爵中川興長君 直チニ第二讀會ヲ開カレムコトヲ望ミマス

〔賛成ト呼フ者多シ〕

○議長(公爵近衛篤磨君) 賛成ガアリマシタ、御異議ガナケレバ直チニ第二
讀會ニ移リマス

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○武井守正君 此場合ニ少シ意見ヲ述ベテ宜シウゴザイマスカ
○議長(公爵近衛篤磨君) 宜シウゴザイマス

〔武井守正君演壇ニ登ル〕

○武井守正君 止メロ止メロト云フ聲ガ耳ニ這入テ御氣ノ毒デゴザイマス
ガ、私ハ必死デゴザイマス……

〔簡短ト述フル者アリ〕

勿論簡短ニ致シマス、先刻カラ小笠原子爵ハ少數意見トシテ委員會ノ說ニ反
對ノ意見ヲ出サレマシタガ、其後段々少數意見ニ賛成ノ御方ガアリマスル、
殊ニ村田君抒ハ……尙ほ修正說ヲ私ハ出シマス、一體印ガ宜イトカ、署名デ
宜イトカ云フ御議論ハ段々アツテ細カニ村田君抒ハ御論ヲナサルヤウニ思ヒ
マスルケレドモ、其事ハ此法案ニ對シテ言フベキ時期デナイト私ハ信ズル、何
ゼナラバ十三議會ニ於テ本院ハ署名ヲ宜シトシテ法案ヲ通過サセタノデゴザ

イマス、其節ニハ署名ヲ宜シト申サレタノデアツテ、決シテ印ガ善イト今日
言ハレルヤウナ御論ガ其節ニアツタカ存ジマセヌケレドモ併シ協賛ヲ與ヘテ
既ニ法律ト爲ツテ今日實施サレテ居リマスレバ今更印デナケレバナラヌト云

フ御論ハ抑々分ラナイ、實施シテ見タケレドモ不便デ出來ナイトカ或ハ斯ウ
云フ差支ガアルト云フコトハ始メテ問題ニナルノデアラウト思ヒマスカラ、
三崎君ノ言ハレルノガ稍々此問題ニ嵌ツテ居ル、ケレドモ正金銀行ハ如何デア
ルカト申シマスルト、多數ノ取引ハ皆海外デアツテ決シテ印ト云フモノハ捺シ
テ居ラヌ、大抵署名ダケデ取引ナシテ居ルト私ハ信ジマス、又株券デアルト
カ社債デアルトカ云フモノニ署名スルノハ困難ダト仰シヤルガ決シテ困難デ
ナカラウト思ヒマス、何ゼナラバ取引ノ規定……

○公爵二條基弘君 修正ヲ出スト云フコトデゴザイマスカラ、ソレヲ出サレ
タ上ニ承ランデハ分リマセヌ
○武井守正君 ソレデハ修正意見ヲ述べテ置キマセウ
○子爵岡部長職君 理由モ委シク伺ヒタイノデハアルガ修正ハドウ云フ風ニ
修正スルト云フコトナ第一ニ明言ナ願ヒタイ
○武井守正君 修正ヲ出シマスデゴザイマス
○男爵金子有卿君 修正ノ文ヲ出シタ上デ……
○武井守正君 修正ハ衆議院ノ記名捺印ヲ以テ之ニ代フト云フコトヲ削除ス
○子爵曾我祐準君 議場ヲ困ラセルヤウナコトハ議員ノ権利トシテ避ケタイ
モノダト思ヒマス、徒ニ議事ノ進行ヲ妨ゲルヤウナコトハ慎シニ貰ヒタイ
○武井守正君 ソレデハ慎シニ止メマスデゴザイマス
○議長(公爵近衛篇麿君) 御異議ガナクバ原案ニ決シマス
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕
○議長(公爵近衛篇麿君) 然ラバ第二議會ハ是デ終リマシテ
○男爵中川興長君 直チニ第三讀會ヲ開カレムコトヲ……
〔「贊成」ト呼フ者アリ〕
○議長(公爵近衛篇麿君) 直チニ第三讀會ヲ開クト云フコトニ御異議ハアリ
マセヌカ

○議長(公爵近衛篇麿君) 御異議ガナケレバ直チニ第三讀會ヲ開キマス……

御異議ガナケレバ原案ニ決シマス
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛篇麿君) 荒野由次郎君選舉爭訟ノ件、資格審査委員長報告、
會議、朗讀ハ省略致シマス

貴族院議員荒野由次郎ニ係ル當選無効ノ訴狀ニ關シ本委員會ニ於テ資格審
査ヲ終リ別冊ノ通リ判決スヘキモノト議決候條此段及報告候也

明治三十三年二月一日

貴族院議員長公爵近衛篇麿君殿

資格審査委員長富井政章

貴族院ハ被告茨城縣選出多額納稅者議員荒野由次郎ノ當選ハ無効ニ非スト
判決ス

〔「富井政章君演壇ニ登ル〕

○富井政章君 資格審査委員會ノ經過ヲ御報告致シマス、感冒ノ爲ニ聲ガ
濁ツテ居リマスカラ御聞惡イカセヌ、前以テ御断リ申上ダテ置キマ
ス、此當選訴訟ハ昨年十一十二月八日ニ茨城縣多額納稅者議員互選入松村脩
平氏ヨリ同縣多額納稅者當選議員荒野由次郎君ニ對スル當選無効ノ判決ヲ請
求スル訴訟ガ出マシタ、ソレ故ニ十一月一日ニ第一回資格審査委員會ヲ開キ
マシテ其訴狀ノ副本ヲ被告ニ送達スルコト七日間ニ答辯書ヲ提出スベキコ
トヲ議決致シマシタ、然ルニ原告ヨリ同月十二月一日附ニテ追申書ナルモノ
ヲ提出致シマシタ、ソコデ同月六日ニ第二回委員會ヲ開キマシテ更ニ其副本
ヲ被告ニ送達スルコト、又一週間内ニ之ニ對スル答辯書ヲ提出セシムルコ
トヲ議決致シマシタ、委員一同ノ考ニ於キマシテハ此當選訴訟ハ本院前兩度
ノ判決ニ關係ナスル頗ル重要ナル法理ヲ定メバナラヌモノデアリマスル
ガ故ニ、本會ハ最モ鄭重ニ事實ヲ審査致シマシテ少シモ誤ナキ判決ノ下ルコ
トヲ決シタノデアリマス、ソレ故ニ議長ヲ經テ政府ニ數多ノ證據文書ヲ要求
致シマシテ、被告ヨリハ十二月八日附ニテ訴狀並ニ追申書ニ對スル答辯書ガ
出マシタ、而シテ十三日第三回委員會ヲ開キマシタ、此委員會ニ於テ昨年ノ三
月ノ補闕選舉ニ選舉管理者デ居ラレマシタ本院議員清樓伯爵ニ出席ナ求メマ
シテ参考ノ爲選舉當時ノ狀況ヲ聞取リマシタ、其後十二月二十日ニ第四回委
員會ヲ開キマシテ協議ヲ遂ゲマシタ所ガ、結局政府ヨリ證據文書ガ到達シタ
ル上ニテ本論ニ入ルコトニ決シテ散會致シマシタ、本年一月十五日ニ至ッ

テ遂ニ政府ヨリ先キニ要求致シマシタ十一種ノ證據文書ガ到著致シマシタ、
ソコデ一月十八日ニ第五回委員會ヲ開キマシテ其證據書類ニ附イテ討議ヲ爲
シマシタ、所デ委員一同ノ意見ニ於テハ尙ホ篤ト調査ヲ遂ゲタ上デ各可否ノ
意見ヲ述ベヤウト云フコトデ別レマシタ、而シテ本月一日ニ第六回委員會ヲ
開キマシテ十分ニ討議ヲ盡シマシタ末、遂ニ諸君ノ御手許ニ回ツテ居リマス報
告書ノ通り議決サレマシタ、此日ハ委員長ノ外ニ七名出席者ガアリマシテ其
中ニ於テ二人ニ對スル五人ノ多數ヲ以テ被告ノ當選ハ效無ニアラズト決議セ
ラレタ次第デアリマス、是ヨリ訴訟當事者ノ爭フ所ノ要點並ニ判決ノ理由ヲ
申上ゲマス、群細ナル事實ハ報告書ニ載ッテ居リマスニ依ッテ之ヲ省キマシテ
唯要領ナベルニ止メマス、原告ガ初最提出致シマシタ訴狀ニ立申ツルコトニ
ハ昨年ノ三月ノ補闕選舉ニ於テ互選入淺野彌右衛門ナル者ハ選舉會場ニ至ル
コト能ハザリシ爲ニ投票ヲ原告ニ委託シテ原告ハ其委託ヲ受ケテ投票ヲ携ヘ
テ會場ニ到ツタ、所ガ豈ニ圖ンヤ被告モ亦同シ淺野彌右衛門ヨリ投票ヲ委託サ
レタト稱シマシタ、ソレ故ニ原告ハ直チニ異議ヲ申立テタ、此ニツノ投票ノ
中ニ於テ必ズ其一ガ有效デアツテ他ノ一ハ無效デアルベキデアル、從ツテ其有
效無效ヲ審査スルコトガ必要デアル、然ルニ選舉管理者ハ不法ニモ原告ノ申
立テルコトヲ退ケテ其審査ヲ爲スコトヲ拒ンデニツノ投票共ニ之ヲ其場デ無
效デアルト宣告シタ、然ルニ昨年ノ補闕選舉ニ於テハ被告ハ僅ニ一票ノ多數
デ當選者トナツタノデアル、若シ選舉管理者ニ於テ淺野ノ委託投票ヲ審査シ
テ若シ原告ノ委託セラレタル投票ヲ以テ正シイモノト認ムルコトニナツタ
ナレバ原被告ハ同數ノ投票ヲ得タモノデアリマス、而シテ原告ハ年長者デア
ルガ故ニ當選者ト爲ルコトヲ得タノデアル、斯ノ如キ場合デアルガ故ニ其投
票ノ審査ヲ求ムルコトニ附イテハ原告ハ相當ノ利害關係ヲ有スル者デアル、
然ルニ選舉管理者ニ於テハ原告ノ申立ヲ斥ケテ兩投票共ニ之ヲ無效トシタル
ハ最モ不法ナル處置デアル、ソレ故ニ其選舉ハ無效デアルト云フガ此訴狀ニ
述ブル所ノ重ナ理由デアリマス、委員會ニ於キマシテハ十分ニ調査ヲ遂グマ
シタ末、此理由ハ採用スベカラザルモノト判定致シマシタ、其譯ハ選舉管理
者ナルモノガ決シテ原告ノ望ム如ク審査ヲ爲ス職權モ職務モナイモノト信
ズル、選舉管理者ナルモノハ選舉會場ニ顯レタ證據材料ニ依ッテノミ裁斷シ
テ互選則第十八條ニ依ツテ即座ニ選舉ノ結果ヲ告知セネバナラヌコトニナツ
テ居マス、決シテ委託者本人ヲ召喚スルトカ證人ヲ召喚シテ尋問ヲ爲ストカ
ト云フ裁判所デヤルヤウナコトヲ爲ス職權ハナイ、選舉會場ニ現レタ證據物

件ニ依レバ兩投票共ニ之ヲ無效トスルヨリ外ニ途ハナイ、其譯ハ茨城縣ヨリ
本院ニ回送セラレタ選舉明細書ヲ見テモ明デアリマスガ、尙ホ今回政府ニ要
求致シタ投票現物ニ附イテ調べマスルニニツノ委任狀共ニ同一ノ日附デア
ル、又其筆蹟モ印形モ委員一同ノ見ル所デハ全ク同一デアル、殊ニ日附ノ同
ラルコトニ最モ注意スベキコトデアルト考ヘマシタ、加之選舉當時ノ狀況
ヲ聽取リマシテモ投票委託者ニ於ハテ決シテニツノ投票中其一ヲ以テ他ノ一
ヲ取消ス意思ハ現レテ居ナイ、若シ一ツノ選舉狀ノ日附ガ他ノ選舉狀ノ日附
ヨリモ後デアレバ其選舉狀ヲ以テ前ノ選舉狀ヲ取消シタト云フコトモ言ヘル
カモ知レナイ、然ルニ全ク同一ノ日附デアル、證據物件ニ依ッテ考ヘマスト
キニハ斯ノ如クニツノ投票中ニ於テ委託者ガ何レカノ一ツヲ有效トスル意見
ハ少シモ現テ居マセヌ、互選入ト云フモノハ同時ニ二票ヲ投ズルコトハ出來
マセヌ、一人一票ニ限ルコトハ申スマデモナイコトデアリマスルケレドモ斯
ノ如ク何レカノ一ツガ有效デアツテ又何レカノ一ツガ無效デアルト云フコト
ヲ識別シ能ハザル以上ハ兩投票共ニ之ヲ無效トスルヨリ外ハ致方ハナイ、此
等ノ證據材料ニ依ッテ考ヘマストキニハ投票委託者ナルモノハ詰リ原告被告
ノ兩人ヨリ迫ラレテ據ロナクニツノ選舉狀ヲ書イタモノデアツテ決シテ兩人
ノ中一人ヲ是非トモ選ばバウト云フ意思ヲ有シナカッタモノノト認メマス、ソレ
故ニ選舉管理者ニ於テ選舉會場ニ於テ直チニニツノ投票共ニ之ヲ無效トシタ
ルハ互選規則第十九條ニ依ッテ有スル所ノ職權ヲ行ツタ正當ノ處置ト考ヘマ
ス、又原告ガ追申書ノ中ニ申立テ、居マスコトハ大分入組ンダコトデアリマ
シタガ、要スルニ茨城縣人ノ宇野清左衛門ナル者ガ互選規則ニ缺ケルコトハ
ナイダケノ租稅ヲ納メテ居ルニ互選名簿ニ記載セラレナンダ、ソレ故ニ選舉
前ニ同人ヨリ縣知事ニ對シテ異議ヲ申立テ爲シテ居マス、然ルニ知事ハ此異
議ヲ斥ケテ納稅資格ナキ者ト判定シマシタ、其理由ハ宇野清左衛門ハ明治二
十九年ニ宇野壽之ナル者ニ其所有地ノ一部ヲ賣渡シタルニ依ッテ納稅資格ニ
缺クル所ガ生ジタト言フニ在リマス、ケレドモ其讓渡ハ登記ヲ經ザル私書契
約デアルガ故ニ清左衛門ニ納稅資格ナシトスル理由ニハナラナイ、原告ノ主
張スル要領ハ詰リ此點ニ在ルモノト認メマス、原告ノ此申立ハ我ニ委員ニ於
テハ正當ト認メマス、其理由ハ貴族院令第六條ニハ土地ニ附キ多額ノ直接國
稅ヲ納ム者トアリマシテ、即チ納稅ノ要件ノミヲ定メテ少シモ所有權ノコ
トヲ言ウテ居ナイ、然ルニ納稅ノ方面ヨリ考ヘマストキニハ是非トモ登記ガ
ナケレバナラムト考ヘマシタ、其譯ハ地租條例第十二條ニ依レバ「地租ハ臺

帳記名者ヨリ之ヲ徵收ス」トアリマス、又土地臺帳規則第三條ニハ「登記所ニ於テ土地所有權ノ移轉ヲ登記シタルトキハ其旨ヲ臺帳所管廳ニ通知スヘシ」トアリマス、之ヲ以テ見レバ例ヘバ土地讓渡ノ契約ガアツテモ其登記ノナイ間ハ臺帳ニ記名シナイ、從ツテ納稅者トハナラナイノデアリマス、宇野清左衛門が土地讓渡ノ私書契約ハ之ヲ爲シマシタケレドモ臺帳記名者トハナツテ居ナイ、從ツテ引續イテ地租ヲ納メ來テ居ル、ソレ故ニ正シク納稅資格ヲ有スル者ト認メマシタ、然ルニ之ヲ名簿ニ載セズ之ヲ互選ニ加ヘザリシハ穩デナカツト考ヘマス、被告ハ此點ニ附イテ第十二回帝國議會ニ於ケル本院ノ判決ヲ楯トシテ抗辯シテ居リマスルケレドモ、一ツノ判決ガ將來裁判官ヲ拘束スルニハ即チ法律學上所謂既判效ナルモノヲ生ズルニハ種々要件ガアリマシテ其範圍ハ極メテ狹イモノデアリマス、先づ第一ニ訴訟ノ目的ト云フモノハ同一デナケレバ既判效ガナイ、然ルニ第十二議會開會中ニ起リマシタ訴訟ハ何ヲ目的トシテ居タカト云フニ、明治三十年六月十日ニ執行セラレタル選舉ニ基ク當選ヲ無効トスルガ目的デアッタ、本回ノ訴訟ノ目的ハ明治三十二年三月二十八日ニ執行セラレタル補闕選舉ニ基ク當選ヲ無効トスルヲ以テ其目的トスルモノデアリマス、原被告モ全ク逆マニナツテ居リマス、前キノ原告ハ今日ノ被告デアリ、前キノ被告ハ今日ノ原告デアル、其點ハ何レデモ宜シ、兎モ角訴訟ノ目的ト云フモノハ異ナツテ居ル、從ツテ同一事件デナイ、ソレ故ニ前ノ確定判決ハ既判效ノ效力ヲ生ジナイモノデアルト云フコトハ一黠ノ疑ノナイモノト存ジマス、委員會ニ於キマシテハ此點ニ附イテハ原告ノ申立ヲ正當ト認メ且ツ前判決效力ニ制セラレルコトガアリマセヌガ故ニ此原告ノ申立ハ採用スベキモノト存ジマス、宇野清左衛門ト云フ一人ノ有資格者ヲ漏シタ名簿ニ依テ執行シタ選舉デアルガ故ニ其選舉ハ不法デアル無効デアルト云フコトデアリマシタ、即チ更ニ名簿ヲ作り直シテ補闕選舉ヲ行ハナケレバナラムト云フ主意デアリマシタ、委員會ニ於キマシテハ此見解ハ誤ツテ居ルト認メマシタ、其理由ハ長ク述ベラ際限ハアリマセヌガ、要スルニ互選資格ノアルナシ、互選名簿又ハ其名簿ニ依ツテ執行シタル選舉ノ有效無効ト云フコトハ全ク別ノコトデアル、決シテ同一ノ法理ヲ以テ論ズベキモノデナイ、現ニ貴族院令第六條ニ於テモ選舉ノコトハ但書ヲ以テ別ニ勅令ニ讓ツテアリマス、其勅令ハ即チ互選規則デアル、互選規則ヲ見マスニ選舉ノ準備手續ナルモノヲ細ニ規定シテアル、有資格者ガ誤ツテ漏レテ居ルトカ又ハ無資格者ガ誤ツテ記載

セラレテ居ルトカ云フ場合ニハ其訂正ヲ求ムル期間ト方法ヲ定メテアル、若シ其期間ニ訂正ヲ求メザルカ又ハ訂正ヲ求メテモ選舉管理者が互選規則第十二條ニ依ツテ訂正スペキモノデナイト判定シタルトキハ名簿ハ確定名簿ト爲ル、即チ是ニ依ツテ有效ノ選舉ヲ爲スペキモノデアルト云フ主意ニ相違ナイ、否ラザレバ確定ト云フコトガ全ク意味ノナイコトニナル、若シ一人ノ誤載又ハ誤脱アル毎ニ選舉ヲ仕直スベキモノトスレバ實ニ際限ノナイコトデアッテ選舉ト云フモノハ幾年ヲ經過スルモ遂ニ終結スルコトハナカラウト思フ、衆議院議員ノ選舉ノ如キハ殊ニ其不都合ナル結果ヲ呈スルコトデアラウト思ヒマス、諸君中ニハ或ハ衆議院議員ノ選舉ト僅カ十五人デヤル多額納稅者ノ選舉ト同一ニ論ズルハ不當デアルト考ヘラル、方ガアルカハ知レマセヌガ、ソレハ立法問題トシテハ一理アルコトデアリマス、是カラドウ法律ヲ作ルが宜イト云フ問題デアレバ或ハ御尤ナル御意見カハ知レナイガ、然レドモ現行ノ法規ニ於テハ何ノ差別モ設ケテナイ、然ラバ理論上ニ於テハ全ク同一ニ論ズベキモノデアルト信ジマス、斯ノ如ク確定名簿ニ依ツテ爲シタ選舉ハ原則トシテハ無効トナルベキモノデナイト考ヘマス、其例證ハ幾ラデモ舉ゲルコトハ出來マスケレドモ現ニ府縣制ニ於テモ亦今回政府ヨリ提出シタル衆議院議員選舉法改正案ヲ見マシテモ選舉ノ無効ト爲ル場合ハ特ニ明文ヲ以テ掲ゲテアル、即チ選舉ニ關スル法規ニ違背シタル場合ニ於テ其結果ニ異動ヲ生スベキトキハ其場合ニ限リテ選舉ヲ無効トスト云フ規定ガアル、之ヲ以テ考ヘテモ選舉ノ無効ト爲ルト云フコトハ確定名簿ニ依ツテ爲シタ選舉デアル以上ハ原則トシテハナイコトデアツテ必ズ例外ニ屬スルノデアルト信ジマス、然レドモ互選資格ナルモノハ法ニ依ツテ定メテ居ルモノデアリマス、決シテ行政官ノ失策ニ依ツテ有資格者ハ無資格者ト爲リ無資格者ハ有資格者ト爲ルトニ、宇野清左衛門ナル一人ノ有資格者ニ相違ナイ者ガ誤ツテ名簿ニ載セラレシダトスレバ必ズ他ニ一人ノ無資格者ガ名簿ニ誤載セラレ互選ニ與ツタニ違ヒナイ、其一人ハ何人デアルカト云フニ外デハナイ、納稅額ノ順序ニ於テ云フコトハアリ得ナイコトデアル、ソコデ今此訴訟事件ニ附イテ考ヘマスルニ、宇野清左衛門ナル一人ノ有資格者ニ相違ナイ者ガ誤ツテ名簿ニ載セラレシダトスレバ必ズ他ニ一人ノ無資格者ガ名簿ニ誤載セラレ互選ニ與ツタニ違ヒナイ、其一人ハ何人デアルカト云フニ外デハナイ、納稅額ノ順序ニ於テ第十五番目ニ位スル者デアル、宇野清左衛門ナル有資格者ガ漏レタルガ爲ニ其一人ガ這入ツタノデアル、故ニ其一人ハ無資格者デアル、無資格者ガ投票ヲ爲シタノデアル、ソレ故ニ選舉ハ無効ト爲リマセヌケレドモ、其一人ノ投票ハ無効デアル、其一人ノ投票ハ計算ニ入レズシテ選舉ノ結果ヲ定メネバナラヌ、然ルニムツカシイコトハ、此當選訴訟ニ於キマシテハ其一人ハ果シテ何

人ニ投票ヲシタルカヲ知ル必要ガアル、唯其投票ヲ除イテ計算スルト云フ譯ニ行キマセヌ、其譯ハ昨年ノ補闕選舉ニ於テハ被告ハ僅ニ一票ノ差デ當選者ト爲ツタノデアル、ソレ故ニ若シ今除カムトスル所ノ第十五番目ノ納稅者ナル者が若シ被告ヲ投票シタトスレバ、其投票ハ計算外ニ置カネバナラヌ、故ニ若シ被告ニ投票シタモノトスレバ其一票ハ除キマスルガ故ニ原告ト被告ドハ同數ノ投票ヲ得タコトニナル、而シテ原告ハ年長者ト申スコトデアリマスガ故ニ當選ダト爲ツタノデアル、若シ之ニ反シテ其十五番目ノ一人ガ原告ニ投票ヲシタトスレバ既ニ一票足ラナイ故ニ更ニ一票ヲ失フコトニナル故ニ原告ハ二票ノ不足デ落選シタト云フコトニナル、被告ハ二票ノ多數デ當選者ト爲タト云フコトデアル、斯ノ如ク其第十五番目ノ一人ハ何人ニ投票ヲシタト云フコトヲ知ル必要アル所以ハ選舉ノ結果ニ異動ヲ來タスコトニナル、原告ガ當選者ト爲ルカ被告ガ當選者ト爲ルカト云フ分レ目デアリマス、ソレ故ニ委員會ニ於テハ此點ニ最モ注意ナシマシテ、政府ニ要求ナシマシタ數多ノ證據文書中ニ於テ互選人ノ氏名表、其納稅額表、又投票現物等ニ附イテ十分ニ審查ナ遂ゲマシタ、所ガ其第十五番目ニ位スル所ノ無資格者ハ長竿誠一郎ト云フ人デアリマシテ原告ニ投票ヲシテ居ル、サスレバ其投票ハ之ヲ除イテ計算ナ致サネバナリマセヌガ故ニ被告ハ二票ノ多數ヲ得タコトニナリマス、尙ホ進ンデ申セバ、假リニ其長竿誠一郎ナル人ガ居ラズ宇野清左衛門ガ互選ニ加ツテ居ツテ原告ニ投票ヲシタト假定シテモ原告ニ取ツテハ同ジ得票數デアリマス、長竿モ宇野モ原告ニ投票ヲスルトシテモ二人ガ投票スルト云フコトハナイノデス、サスレバ假令長竿ノ代リニ宇野ガ投票シテ原告ノ爲ニ投票シタシテモ被告ハ尙ホ一票ノ多數ヲ以テ當選シタト云フコトニナリマシテ少シモ選舉ノ結果ニ變動ナシズルコトデナイ、從ツテ選舉ヲ無効トス理由ハ少シモナイ、全ク有效ノ選舉デアツテ被告ハ當選者タル者デアルト信ジマス、唯斯ク申ストキハ前第十三回議會ニ於ケル本院ノ判決ニ違反スル如ク思ハレマスケレドモ是モ先刻申上ゲマシタ兩訟訴ノ目的ト云フモノガ全ク違フ、前訟訴ノ目的ハ明治三十年六月ノ選舉ニ當ル所ノ訟訴デ、今回ノ訟訴ハ明治三十二年三月ノ補闕選舉ヲ無効トスル訟訴デアル、既判效ノ生ズル第一ノ要件タル目的ノ同一ト云フコトヲ缺キマスルニ依ツテ前判決ニ束縛セラルコトハナイト認メタノデアリマス或ハ反對論者ハ貴族院令ニ十五人ヨリ云々トアル、然ルニ若シ長竿某ナル一人ヲ除イテ計算スルトキハ十四人デ選舉ナヤツタト云フコトニナル、故ニ共選舉ハ無効デアルト考ヘル方ガアルカモ知

レマセヌケレドモ、貴族院令第十五條ニ十五人トアルハソレハ名簿ニ載ルベキ十五人ノ資格ヲ定メタモノデアル、決シテ十五人ガ現實選舉場ニ臨ンデ投票ヲ爲ス云フコトヲ要スル譯デナシ、其譯ハ選舉ノ前三死亡者ガ出來ルカモ知レヌ、棄權者ガ出來ルカモ知レヌ、今回ノ補闕選舉ニ於テモデス、淺野彌右衛門ノ委託投票ノ有効無効問題ハ別トシテ既ニ原被告共ニ自選投票ヲ爲シタト云フノデ其ニツノ投票ハ無効トシテアル、十五ノ數ト云フモノハ種々ノ理由ニ因ツテ缺ケルコトガアル、或ハ云フ人ガアルカモ知レナシ、ソレ等ハ後ニ生ジタ事實デアル、始ヨリ名簿ニ疵ノアル場合ハ別デアル、初ヨリ疵ノアルモノハ何處マデモ疵物デ其名簿ト選舉ハ無効デナクテハナラヌ、併シ例ヲ變ヘテモ宜シイ、名簿ニ誤ツテ懲役ニ處セラレタ者ガ載ツテ居リ者ガ載ツテ居タ、即チ互選規則第七條ニ無資格者ト定メテアル者ガ載ツテ居リマスレバ此場合ニ選舉全體ガ無効トナルカト云フニ決シテサウ云フコトハナシ、又斯カルコトナ主張スル人モ恐ラクアルマイト思ヒマス、選舉ト云フモノハ唯名簿ニ一人ノ誤載又ハ誤脫ガアツタガ爲ニ勘クモ選舉ノ結果ニ異動ナ生ジナイ場合ニハ決シテ無効ト爲ルベキモノデナイト云フコトハ先刻カラモ段段申上ゲマシタ、法理ニ依ツテ一點ノ疑モナイコトト信ジマス、以上述べマシタ理由ニ因ツテ委員會ニ於テハ被告荒野由次郎氏ノ當選ヲ無効デナイト議決ナシマシタ譯デアリマス、初ニ申上ゲマシタ通リ委員會ニ於テハ初ヨリ十分ニ注意ナシ以テ度々開會致シマシテ政府ニ數多ノ證據文書ヲ徵收シテ力ノ及ブ限り審查ナ遂ゲタ譯デアリマス、又今日ハ此茨城縣ノ當選訴訟ト云フモノハ第三回目デアリマス、此際ニ十分ノ審查ヲ盡シテ嚴格ナル法理ツニ依ツテ少シノ誤ノナイコトノ判決ヲ下スコトガ必要デアラウト云フ一同ノ考デアリマス、ソレ故ニ最モ冷タイ心ナシ以テ調査ナシテアリマス、委員長ノ如キハ原告モ被告モ未ダ一面識モナイノデアル、此ノ如キ次第デアリマシテ委員會ニ於テハ十分ニ公平ニ調査ナシシテアリマス、私ノ意見ハ唯今御報告致シマス、諸君ニ於テモ定メテ御同感デアラウト存ジマス、本院ノ判決ハ確定シタ委員會決議ノ主意ト全ク同一デアリマス、ソレ故ニ繰返シテ述ブルコトハ省キマス、唯先刻モ申上ゲマシタ通り此訴訟ハ前ヨリノ引掛ツテ居リマス、訴訟デアル、此際十分ニ審查シテ誤ノナイ判決ヲ下スコトガ必要デアルト思ヒマス、諸君ニ於テモ定メテ御同感デアラウト存ジマス、本院ノ判決ハ確定シテアリマシテ本院ノ判決ニ對シテ上訴ノ道ハナイ、此上ニ大審院トモ謂判決デアリマシテ本院ノ判決ニ對シテ上訴ノ道ハナイ、此上ニ大審院トモ謂

フベキモノハナインデアリマス、ソレ故ニ十分ニ鄭重ニ議シテ判決ノ下ルコトニナリタイト思ヒマス、終リニ臨ンデ一言述ベタク思ヒマスルコトハ、本員ハ公法上ノ智識ニハ甚ダ淺イノデアリマス、是ト異ナツテ副委員長ノ穂積君ハ公法専門家デアリマス、委員會ニ於テモ熱心ニ此決議ト同一ノ主意ヲ述ベラレタ譯デアリマス、今日ハ議場ニ出席シテ十分ニ其意見ヲ述ベラレルコトト思ウテ居マンタ所ガ不幸ニシテ昨日ヨリ發熱シテ病氣ニ就カレテ居リマス、ソレ故ニ今日公法ノ理論上ヨリ完全ナル説明ヲ聽クコトノ出來マセヌノハ誠ニ遺憾ニ存ジマス

〔男爵北垣國道君及中西光三郎君發言許可ヲ求ム〕

○議長(公爵近衛篤磨君) チヨット御待下さい、中西光三郎君ヨリ此會議ハ反覆審議ヲ要スベキ廉ガアルニ附イテ全院委員會ヲ開キタイト云フ發議ガアリ

マシテ賛成ガ段々アリマス、之ニ附イテ先ヅ豫メ決ヲ採リマス

○男爵小澤武雄君 私共ハ甚ダ不必要ト思ヒマスカラ……

○議長(公爵近衛篤磨君) 討論ハ用ヒズデス、討論ハ用ヒマセヌ

○男爵小澤武雄君 私共ハ甚ダ不必要ト思ヒマスカラ……

○男爵伊達宗敦君 チヨット伺ヒマス、今採決サレルヤウデアリマスガ何ノ採決デアリマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 今モウ一度申サウト思ウテ居リマス、此資格審査ニ關スル會議ハ反覆審議ヲ要スル廉ガアルカラ全院委員會ヲ開キタイト云フ

要求デアリマス

〔「ノーノー」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛篤磨君) 之ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 少數

○議長(公爵近衛篤磨君) 少數ト認メマス

○男爵北垣國道君 委員會ヲ開キタウゴザイマスカラ御許ヲ願ヒタウゴザイマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 宜シウゴザイマス

〔「濟ンデカラ」ト呼フ者アリ〕

○男爵北垣國道君 ソレデハ濟ミマシテカラ……

○議長(公爵近衛篤磨君) 何デスカ

○中西光三郎君 質問致シタウゴザイマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 宜シウゴザイマス

○中西光三郎君 委員長ニ御尋ナシタウゴザイマス、報告書ノ九頁ノ四行目五行目アタリニ「納稅ノ要件ヲ掲クルニ止マリ所有權ノ事ヲ言ハス」ト云フコトガゴザイマス、是ハ一應貴族院令第六條ノ文明ニハ納稅ノ要件ヲ認メナイモノデアルト云フ御見解デゴザイイスルカ、是ハ單ニ言ハズ言ツテハ權利ガ不確カデゴザイマスカラ一應其邊ヲ確メテ置キタイト思ヒマス

○富井政章君 此席カラ答ヘテ宜シウゴザイマスカ

○富井政章君 多額納稅者議員選舉ト云フモノハ立法ノ精神ヲ言ヘバ素ヨリ納稅ト云フコトダケデ満足ハ出來ナイ、所有權ト云フコトヲ望ム譯デアリマス、即チ十五人ノ財產家ト云フモノヲ眼中ニ置イタ譯デアリマス、又通常ノ場合ニ於テハ納稅資格ト所有權トハ必ズ相伴フモノ、然レドモ稀ニ此訴訟事

件ノ場合ニ於ケル如ク所有權ト伴ハヌ法律(聽取シ難シ)如キ場合ニハ一般ノ精神カラ云ヘバ嚴格ナル法文ニ據テ解釋ナ下スヨリ外仕方ガナイ、然ルニ此場合ニハドウ解釋スベキカト云ヘバ、貴族院令第六條ハ稅納資格ト云フコトダケ定メテアル、納稅資格ト云フモノハ何ニ據テ極メルカト云ヘバ土地

臺帳規則地租條例等ヲ見マスルト云フト臺帳記名、臺帳記名ニハ登記ヲスルト云フコトガ必要デアリマスル、故ニ臺帳記名デアルモノハ縱令地租條例ハ所有權ヲ移シテ居ルニセヨ相當ノ納稅者デアルト云フコトニナルダラウト思ヒマス

○中西光三郎君 尚ホ質問致シタウゴザイマス、唯今ノ御答辯デゴザイマスレバ、貴族院令第六條ハ單ニ納稅ノ要件ヲ掲グルモノデナクシテ所有權ハ土地ヲ所有スルカラ以テ土地ニ對スル租稅ヲ納メ又商業ヲ營ム者ハ商業稅ヲ納メルト云フ事實ニ最モ重キヲ置ケキト云フ御精神デアリマスカ

○富井政章君 左様デゴザイマス、普通ノ有様ト云フモノハサウ云フモノデアル、併シ異例ヲ生ジタ場合ニハ此嚴正ナル法律ノ正條ニ據テ判斷ナ下サネバナラヌト思ヒマス

○中西光三郎君 尚ホ御尋ネ申上マスルノハ報告書ノ八頁ノ所デアリマス、八頁ニ「右兩票共ニ之ヲ無効トシタルハ貴族院多額納稅者議員互選規則第十九條ニ準據セル至當ノ處置ナリトス」ト云フコトガゴザイマス、然ニル此茨城縣知事タル當時ノ選舉管理者ハ投票ノ有效無効ヲ決シタノハ投票ヲ投

票函ニ投入サセズシテ一人ノ互選人ヲ有效投票トシマシタノハ投票函ニ投入

スル際ニソレヲ抑留シタト云フ事實ノ上、事實御調ノコトナ一應承リタウ存ジマス

○富井政章君 ソレハ今御説ノ如ク事實デアラウト思ハレマスケレドモ、ソレハ委員會ニ於テ少シモ其調査ナスベキ必要ガナイト認メタノデアリマス、投票函ニ入レタ後デアラウガ、入レナイ前デアラウガサウ云フコトハ此場合ニ法理ナ定メルニ附イテ少シモ必要ハナイト云フコトヲ認メタノデアリマス

〔中西光三郎君發言ノ許可ナ求ム〕

○議長(公爵近衛篤磨君) 質問デスカ

○中西光三郎君 質問デス、此報告書ノ十頁ノ所デゴザリマス、「納稅上恰モ所有權ノ移轉ナキニ同シク貴族院令第六條ニ定メタル互選資格ニ闕クル所ナキモノトス」トゴザイマシテ「互選人ノ列ニ加ヘサリシハ失當ト謂ハサルヘカラス」トスウアリマス、此御精神カラ云ッテ見レバ、宇野清左衛門ナ有資格者トシテ茨城縣知事が採用シナカツタノハ此法律ノ解釋ナ誤ッタモノデアル、宇野清左衛門ハ資格ガアルト云フ御解釋ニナツタノデアリマスカ、ソレナ伺ヒマス

○富井政章君 左様デゴザイマス、貴族院カラ見レバ選舉管理者ハ法ノ解釋チ誤ッタモノトスベキデアラウト思ヒマスガ、行政官トシテハ行政上内務省ノ意見ニ依ッテナツタコトデアラウト思フ、其本屬長官ノ指揮ニ從フノハ行政規律ノ上ニ於テ一應尤ナコトデアラウト思ヒマスケレドモ、是ハ兎モ角其事

チ審判スル必要ガナイコトデアッテ兎モ角誤ハ誰ニアルニセヨ法ノ解釋ナ得タモノデハナカラウト云ウダケノ考デアリマス
○中西光三郎君 尚ホ御尋申シマス、唯今ノ此茨城縣ノ知事が内務省ノ差圖チ受ケヤウト受ケマスマイトソレハ本員ノ決シテ問フベキ所デハナイ、其委員會ノ決議ハ確ニ宇野清左衛門が過般ノ補闕選舉ノ互選人ニナルベキ者デアト御斷定ナサレ、之ヲ加ヘナカツタノハ不當デアルト云フヤウニ見エル、果シテ然ラバ宇野清左衛門が假令選舉權ナ行ッタト假定シタ所ガ云々ト云フコトガ此後ニ於キマシテアリマス、先刻ノ御説明ニモアリマス、ソレハ單ニ宇野清左衛門ト云フ者ガ選舉權ノミナ有スル如キ有様ニ報告ニ於テモナツテ居リマス、且ツ御説明ニ於テモ其通リデアリマス、宇野清左衛門が名簿ニ加ハルベキモノトスレバ宇野清左衛門ナル人ハ即チ貴族院議員ニ選バレル權利モアレバ又選ズ權利モアルノデアリマス、此邊ハ毫モ顧ミナイモノノ如クナツテ居ルノハ甚ダ本員ノ解シ兼ネル所デアリマス

○富井政章君 決シテ顧ミナイ譯デハナイ、此報告書ノ末項ニ依テ見マスレバ即チ立派ニ議員ノ資格ガアルノニ之ヲ漏シタノハ其一人ノ無資格者ガ加ツ

テ居ツタニ違ヒナイ、此一人ノ無資格者ノ投票ヲ無效トスル、斯ウ云フコトニナル、唯選舉全體ハ無效ニナラナイト云フダケノコトデアリマス

○中西光三郎君 唯今ノ御答辯ハ一向本員ノ御尋シマス所ノ要領ヲ盡シマセヌト思ヒマス、本員ノ御尋シマシタノハ宇野清左衛門ノ投票ハ加ハルベキモノトスレバ宇野清左衛門ト云フ者ハ選バレル權ガアリマス、單ニ宇野清左衛門ガ松村脩平君ナ選舉シタト云フコトデ斯様ニナルト云フヤウナコトデアリマスマイカト思ヒマス、或ハ宇野清左衛門ガ……

○議長(公爵近衛篤磨君) ソレハ質問デスカ

○中西光三郎君 質問デス、多數ノ投票ヲ得テ議員ニナツテ居ルカモ知レナイ、其邊ノ所ノ御取調ハ如何デアルカト云フコトヲ御尋シタノデアリマス

○富井政章君 是ハ此場合ニ限ラズイツモサウデス、有資格者ガ一人漏レテ居ツテ無資格者ガ一人居ツタ時分ニ正當ナ者が當選者ト爲ルカモ知レヌ、ソレダケ權利ナ侵カサレタト云フ結果ニナル、併ナガラ是ガ爲ニ選舉ガ無效ニナリ、確定名簿、互選會全般ガ無效ニナルカト云ヘバソレハ別問題デアルト云フコトハ唯今述ベマシタ

○議長(公爵近衛篤磨君) 是ヨリ通告ノ順序ニ依ッテ、松本鼎君

〔松本鼎君演壇ニ登ル〕

○松本鼎君 本員ハ此資格委員ノ一人デアリマスカラ自分ノ訥辯ヲ顧ミズ已ムコトヲ得ズ此壇ニ登リマシタ、本員ハ此委員會ノ決議ニハ反對スル者デアリマス、其故ハ報告書ニ書イテゴザイマスルシ、且ツ委員長カラモ報告ニナリマシタ此松村脩平氏ノ申立ノ中ニ茨城縣知事が互選人タル資格ナ有スル彼ノ宇野清左衛門ナ互選名簿ニ列セズシテ之ニ反シテ無資格ナル長竿某ト云フ

者ナ互選名簿ニ載セテ選舉ナ行ウタルハ違法ノ處分デアル、斯ウ云フコトガ載セテアリマス、デ委員會ハ委員長カラモ報道ニナリマシタ通り委員ノ参考ト爲ルベキ選舉當時ノ書類ナ政府ニ請求ナ致シテ精細ニ取調べマシタ、思フニ茨城縣知事が清左衛門ナ互選名簿ニ加ヘヌノハ此當時宇野清左衛門ナル人が同村ノ宇野壽之ト云フ者ニ其土地ノ一部ナ讓渡スト云フ私ニ契約ナ致シタ、ソレデ其契約ナ爲シタル土地ノ地租金ナ除キマスト云フト此資格ナ失フヤウニナル、其邊ナ以テ此互選人名簿ニ宇野清左衛門ナ加ヘナカツタモノデアラウト思ハレマス、然ルニ諸君モ御承知ノ通り此貴族院多額納稅者互選規

則ノ取扱方第四條デゴザイマス「賣買讓與ニ依リ土地所有權移轉ノ場合ニ於テ其所有年限及質入地ノ地租ノ計算方ハ總テ衆議院議員選舉法施行規則第三條第二項及同則第四條第五條第九條ニ異ナラス」トスウゴザイマス、ソレデ衆議院議員選舉法施行ノ第三條第二項ニハ「賣買讓與ニ依リ土地ノ所有權移轉ノ場合ニ於テ其所有ノ年限ヲ算スルハ登記ノ日ニ依ルヘシ」トスウゴザイマス、又貴族院多額納稅者互選規則ニハ「互選名簿調製前滿一年以上多額ノ直接國稅ヲ納メ云々ト云フコトガアル、此條ニ依リ見マスルト云フト即チ此事ニハ茨城縣ノ知事ノ處置ガ違反シテ居ルト認メラレルノミナラズ、又此互選名簿確定前ニ宇野清左衛門ヨリ其異議ノ申立ヲシテ改正ノコトヲ申出テ居リマス、此事ニ就キマシテハ報告書モアリマスレバ、尙ホ委員長カラ報告ニナリマシタ通り、松村脩平氏ノ申立ノ至當ナ事デアルト云フコトニナッテ居ル、然ルニ此事ハ至當ナ事ト認メナガラ此選舉ヲ無効トスルコトガ出來ナイ、此選舉ヲ無効トスルコトノ出來ナイノハ一般ノ選舉ノ一體原則トデモ言ウテ宜イヤウナコトデアル、斯ウ云フコトデアリマス、併シ本員ノ見ル所デハ成ル程縣會府會議員或ハ衆議院議員等ノ規則デハ此事ガ現レテゴザイマスケレドモ貴族院令且ツ多額納稅者互選規則ニハ其事ハ書イテアリマセヌ、ダニ依ヅテ其一般ノ選舉法ヲ以テ此多額納稅者互選規則ニ當テルト云フコトハ牽強ケタコトデアラウト思フ、何故ナレバ貴族院令第六條ニハ此多額納稅者十五人ト定メテ居ルケレドモガ、其十五人ヲ以テ是非選舉スルト云フ譯デハナイ、選舉ハ時ニ依ヅテハ棄權者モアラウ病人モアル、ソレハ十人デモ十二人デモ宜シイケレドモ、元ト定ムル所ハ、十五人ト云フコトガ極ラヌ以上ハ之ハ確定シタモノトハ見ラレヌ、三箇月前ニ宇野清左衛門ヨリ此改正ノ事ヲ申立テ居ル、其時分ニ改正シナケレバナラヌノニ、ソレヲ容レズシテ、不當ナ名簿ヲ作ツタト言ハナケレバナラヌ、尙又委員長ハ選舉ヲ取消サヌコトガ原則デアル、ノミナラズ事實ニ於テ毫毛差支ハナイ、何故ナレバ其宇野清左衛門ノ申立ノ通リニ投票ヲシテモ投票ノ數ヲ計算スルト委員長ノ報告ニナツタ通リ松村脩平氏ハ多數ヲ得ルコトガ出來ナイ、是ハ私ヨリ委シク申サナクテモ委員長カラ計算ノ御話ガゴザイマシタガ遂ニ一票ノ多數デ選舉ニナツタノデゴザイマスケレドモ、宇野清左衛門ヲ、松村脩平氏ノ言ハレル通リニ長竿某ヲ除ク時ハ二票ノ差ガアルカラ尙ホ減ズルヤウニナル、實地ニ於テ一向差支ナイト云フコトデアリマス、併シ本員ガ之ヲ無効トスルト云フノハ、松村氏ナ當選トスルコトノ出來ナイコトハ分ツテ居ル、唯不法ナル互選

帳簿ヲ製造シテ、選舉ヲ行ウタニ依ヅテ之ヲ無効トスルト云フ精神デアリマス、本員ハ至ツテ訥辯デモゴザイマスルシ、其外ニ委シテ嘆々シヤベルコトハゴザイマセヌ、シヤベル要用ハゴザイマセヌガ唯一言申シ置キマスノハ、此選舉管理者ノ茨城縣ノ知事が自ラ定見ナクシテ曩ニ貴族院ノ議決ニ依ツテ之ヲ處分シタモノト本員想像致スノデアリマス、ソレデ併セテ本員ハ曩ノ貴族院ノ決議ノ過ヲ改ムル好機會ガ到來ナシタノト喜ンデ居ル、ドウカ御贊成下スツテ將來ノ模範ト爲ルコトヲ希フノデアリマス

〔中西光三郎君演壇ニ登ル〕

○中西光三郎君 私ハ委員長ノ報告ニ反對ノ意見ヲ有スル者デゴザイマス、暫ク訥辯ナガラ其意見ノ理由ヲ申述ベマスカラ御清聽ヲ煩ハシマス、先づ第一此多額納稅者互選規則第十九條ニハ「投票效力ノ有無ニ付疑義アルトキハ投票管理者之ヲ決定ス」ト云フ事がゴザイマスルガ、投票ノ受理ト云フコトガゴザイマセヌ、然ルニ市制町村制杯ニ於キマシテハ投票ノ受理竝ニ關係レドモ貴族院令且ツ多額納稅者互選規則ニハ其事ハ書イテアリマセヌ、ダニ依ヅテ其一般ノ選舉法ヲ以テ此多額納稅者互選規則ニ當テルト云フコトハ投票ノ閉鎖ヲ致シマセヌ前キニ其投票ヲ雙方トモ抑留スルト云フコトハ投票管理者之ヲ決定ス」ト云フ事ガゴザイマスルガ、投票ノ受理ト云フコトガ殊更ニ書イテナイ所ナシ以テ見マスレバ此十九條ハ全々投票ヲ受理シマスル事項ハ云々ト云フコトガゴザイマス、デ此十九條ニハ投票ノ受理ト云フコトガ殊更ニ書イテナイ所ナシ以テ見マスレバ此十九條ハ全々投票ヲ受理シマシテ其以上效力ノ有無ニ附イテハ投票管理者ガ決定スル權能アルモノデアツテ、投票ノ閉鎖ヲ致シマセヌ前キニ其投票ヲ雙方トモ抑留スルト云フコトハ縣知事タル投票管理者ノ權能ニナイコトデアラウト存ジマスルガ故ニ、此廉ハ委員長ノ報告ノ如ク茨城縣知事ノ處置ハ甚ダ至當ノコトデアルト云フコトガ反對ニナリマシテ、私ノ方カラ見マスレバ不至當ナコトト存ジマスノデゴザイマスル、モウ一ツ反對ノ廉ハ宇野清左衛門ガ委員長ノ報告ノ如ク互選名簿ニ加ハルベキ資格ガアルベキ者ナ茨城縣知事ガソレヲ加ヘナカッタ、加ヘシテソレナレバ此選舉會ハ是非トモ無効ニ致シマシテ選舉ヲ仕直サヌバ道理ナカッタノガ惡ルイト斷定シマスル、其點ニ於テハ御同感デゴザイマスル、果シテソレナレバ此選舉會ハ是非トモ無効ニ致シマシテ選舉ヲ仕直サヌバ道理ナカッタノガ惡ルイト斷定シマスル、其點ニ於テハ御同感デゴザイマス、其互選人一名ヲ加フベキモノヲ除イテ加ハルベカラザル者ガ一人加ハリマシタ、即チ長竿誠一郎ト云フ者ガ加ハリマシタ、其選舉ヲ以テ單ニ當選ノ結果ニ異動ガナカッタノガ惡ルイト斷定シマスル、其點ニ於テハ御同感デゴザイマス、若シイカラ有效ナル選舉デアルト云フコトハ申サレヌデアラウト存ジマス、若シス様ナ理由ヲ以テ裁決ナシテ委員長ノ報告ノ如ク當選ノ結果ニ異動ガナカッタノガ惡ルイト断定シマスル、其點ニ於テハ御同感デゴザイマス、

假令此說ナ吐ク者ガ中西ノ如キ百姓議員ノ中カラ出マストモ此所ハ諸君ニ於テ何トカ此事ハ前ノ議會ニ於テ判決ヲ與ヘマシタル判決例ニモ背反ナ致シマスコトデアリマスカラ、勿論ソレハ日進法律ノ研究ナ致シマス時節デアリマスカラ前ノ判決例ガ惡ルイト見レバ改メルノモ宜シウゴザイマセウケレドモ、之ヲ改メル場合拵ニハ十分鄭重ニ鄭重ナ加ヘテ審議ナ致スベキモノデアラウト存ジマスルデゴザイマス、現在大審院ノ如キ終局ノ判決ヲ下ス所ニ於キマシテサウ云フ前ノ判決例ニ齟齬スル判決ヲ與ヘナケレバナラヌ場合トナレバ、司法ノ判事モ民事ノ判事モ總掛リテ取調ナ致サレルト云フコトヲ承ッテ居リマス、又行政裁判所拵ニ於キマシテ普通ハ七名位ノ評定官デ裁判セラレルサウデゴザイマスケレドモ、判決例ヲ變ヘネバナラヌト云フ場合ニハ總テ兼任ノ評定官モ總掛リテ係ト爲ツテ調査ナセラレルト云フコトモ承知ナ致シマス、デ假令是ハ事實ガ違フト云フコトニ致シマシタ所ガ本チ申セバ矢張リ松村修平ガ貴族院議員ニ當選ニナリマシタトキニ宇野清左衛門ガ無資格デアルト本院ガ決議シタ爲ニ松村修平ガ資格ヲ失ウタノデアリマス、今度又委員長ノ報告ノ如ク宇野清左衛門ガ有資格者デアルトスレバ本ヘ遡ツテ考ヘマスレバ實ニ最初ノ裁決ト云フモノハ松村氏ニ對シテ氣ノ毒千萬ナコトデアリマス、ソレハ不幸ノコトデ致方ガナイト致シマシタ所ガ、左様ナ人ニ大層ナ利害ヲ與ヘマスコトデアリマスルガ故ニ十分ニ審議ヲ盡サレタイコトト存ジマスノデゴザイマス、要スルニ此委員長ノ報告ノ如クナリマスト云フト、宇野清左衛門ト云フ者ハ當然互選名簿ニ加ハルベキモノガ加ツテナイ、加ツテナイガ當選ノ結果ニ累動ガナイカラ差支ガナカラウト云フノデゴザイマス、若シ宇野清左衛門ガ選舉權バカリアル者デアツテ被選權ノナイ者デアレバ或ハ左様ナ計算法デモ差支ナイカ知リマセヌガ、是ハ互選資格ノ有ル者デゴザイマスカラサウ云フ勘定ハ出來マスマイト思ヒマス、殊ニ又衆議院議員選舉縣會議員ノ選舉權ト云フヤウナモノデゴザイマスト選舉權ト被選權トハ各々資格ガ違ヒマス、選舉權ガアツテ被選舉權ガナイ者ガ間ミアルノデゴザイマス、此多額納稅者ニ於キマシテハ互選權デアリマスルガ故ニ此互選權ノアル者チ一名互選名簿ニ加ヘルベキモノヲ落シマシテ加ヘンダ選舉會ナ以テ當選者ニ異動ガナイカラ差支ナイト云フコトハ決シテ申サレマスマイト存ジマスノデゴザイマス、ドウシテモ此選選ハ一旦無効ト致シマシテ選舉ナ仕直スコトニ致シマセネバ道理ニ適ハヌコト存ジマス、デ若シ左様ニ致シマスレバ總テ委員長ノ御報告ニナリマシタ所ノ判決ノ理由ト云フモノヲ書直サナケレバ

ナラヌコトニナリマスデゴザイマス、是ハ本員等ノ說ガ成立チマスレバ其判決ノ理由ノ所ハ追ツテ修正ヲ加ヘマスル積リデゴザイマス、甚ダ訥辯デ主意ヲ能ク言盡スコトが出來マセヌデゴザイマスケレドモ、一片ノ赤心ヲ御洞察下サレマシテ何トカ貴族院ノ貴族院タル面目ヲ瀆サナイヤウニ御判断アラムコトヲ希望致シマスデゴザイマス

○斯波與七郎君 議長私ハ……

○議長（公爵近衛篤磨君） 斯波君ハ何デスカ

○斯波與七郎君 私ハ委員會ニ於キマシテ反對ノ意見ヲ主張致シマシタノデゴザイマスガ、最早追ムト反對演説ガ隨分澤山アツタ後デゴザイマスカラ此上申上グルノハ徒ラニ時間ヲ費スノミデアリマスデ、極ク簡短ニ私ガ反對セザルヲ得ナイト云フコトヲ感ジタダケノ事ヲ申述ベタイト存ジマスノデゴザイマスガ此處デ申述ベテ宜シウゴザイマスカ

○議長（公爵近衛篤磨君） 宜シウゴザイマス

○斯波與七郎君 此判決ノ歸著シマスル所ハ選舉ノ結果ニ異動ナシナ、選舉ノ結果ニ異動ナ生ジナイ限りハ一名位ハ脱ケタ所ガ構ハナイ、斯ウ云フコトニナツテ居ルヤウデアリマス、一名脱ケタカラ一名位ハ宜イ、二名ハドウデアルカ二名デモ差支ナイ、選舉ノ結果ニ異動ナ生ジナイ、矢張リドチラカ當選ナスル、當選ノ結果ニ異動ナ生ジナイトシマスレバ假ニ競争ハナクシテ候補者ガ一人デアリマシタナラバ十五人ノ中六名カ七名マデ嘘ノ互選人が書イテアル、八名ホンノ者ガアツテ、ソレニ同一人ノ一人ガ候補者デアツテ七名ノ者ガソレニ贊成ヲシテ居ッタ者デアルナラバ、ソレデモ選舉ノ結果ニ異動ナ生ジナイカラ、ソレデ互選會ハ有效デアルト云フ見解ナシナケレバナラヌ、ソコデ先刻中西君ノ御說デアリマシタガ、是ハ衆議院議員拵トハ違ヒマシテ選舉スル權利トソレカラ選バレル所ノ光榮アル權利ト兩方ヲ持ツテ居ルノデアル、此十五人ナル者ハ……ソレデ一人ヤ二人缺ケテ荒野由次郎君トソレカラ松村脩平君ト二人ガ茨城縣ニ在ル如ク他ノ縣ニ於テ一ノ候補者ト云フモノガ極ツテ居ルナラバ免ニ角デアリマスガ其一名ナリ二名ナリ乃至三名ナリ異動ナ生ジタ場合ニ當ツテ學識經驗アリ大イニ望アル人ヲ得テ這入ツテ來ルモノデアリマスルナラバ假令八名ノ者ガ八名マデ一ノ候補者ニ贊同ナシテ居リマシテモ新規ニ這入ツテ來タ人ガ全體ノ十五人ノ互選人ノ眼鏡ト致シマシテ

ソレカラ選バレル所ノ光榮アル權利ト此兩方アル故ニ……ソレデ一票ヤ二票足リナカッタ所ガ選舉ノ結果ニ異動ヲ生ジナイカラ一向差支ナイト云フコトハ甚ダ同意ナシ惡クイト云フ所ノ第一ノ理由デアリマス、ソレカラシテ第二ノ互選名簿確定期ト云フモノハ選舉管理者ガ互選會ノ告示ヲ發シマシテカラ十五日限ニ於キマシテ此互選人ト爲ルベキ者ハ名簿ニ附キマシテ異議ノ申立チスルコトガ出來ルノデアリマス、ソレハ正當ナル理由ガアリマス以上ハ選舉管理者ハソレヲ採用シテ名簿ヲ仕直スノデアリマス、ソコテ此問題ニナッテ居リマス所ノ茨城縣ノ問題ニ附キマシテハ二月六日ガ告示ノ日デアリマシテ、ソレカラシテ二月ノ十八日ニ宇野清左衛門ナル者ハ私ハ互選資格ノアル者デアル斯様斯様ニ地租金ヲ上納シテ居ルト云フ確實ナル所ノ材料ヲ以テサウシテ其名簿ニ訂チ請求シテ居ル、異議ノ申立ナシテ居ル、然ルニ其異議ノ申立ハ選舉管理者ノ所謂權能ヲ以テソレハ正當デアルト雖モ苟モ正當ナリト云フコトハ外ノ者ハ言ヘナイ、選舉管理者即チ知事デナクチヤア可否ヲ決スルコトガ出來ナイノデアル、ソレデ知事ハソレハイケナイト云フノデ名簿ヲ確定スル以前ニ於テ納稅ノ事實ガアルニモ拘ラズ、其名簿ヘ加ヘナカッタ、斯ウ云フコトニナツテ居ル、ソレカラ内部ニ這入りマシテ何ゼ知事が其名簿ヲ訂正スルコトナ此處ニ引張ツテ來テ其拒絶シタト云フコトヲ申譯ナシマシタト云フコトナ此處ニ引張ツテ來テ其拒絶シタカト言ヘバ是カラ先ニ論ジマスルト餘程ソノ問合セモアリマシタラウシ、或ハ又貴族院ノ前ノ判決モアリマセウシ其本院ノ決シナラバ是ニ於テ始メテ議論ガ撞著シテ來ル、デ前ノ委員長ノ報告即チ委員會デ私ト松本君デアリマシタカ其二名ヲ除イタ外即チ大多數ノ御方ハドウシテモ其先ノガ惡ルカッタノデアル、前ニ地租條例ニ依テ納稅シタ者ハ納稅者ト看做サナイ、ソレカラシテ土地臺帳登記ニ依ルト云フコトニシテハ土地臺帳ヲ極メタモノデナイモノハ契約其モノヲ以テ有權者ト認メルト云フコトハ絕對的ニ宜クナイソレト同時ニ先刻申シマシタ所ノ内部ノ貴族院ノ先例ハ斯ウデアルト云フヤウナ事情ヲ引用シテ來ルコトハ宜クナイコトニナル、唯形ノ上ニ於キマシテ名簿ヲ確定シナイ、即チ異議ノ申立テ得ラル、期間ニ於キマシテ正シク納稅ナシテ居ル所ノ事實ヲ以テ名簿調製ノ異議ヲ申立テ居ル、此所ニ此通リニ分ツテ居ルノデ……

○議長(公爵近衛鷹麿君) 斯波君ニチヨット御注意シマスガ、マダ手間ガ取レルナラ演壇デ願ヒマス
○斯波與七郎君 今少々デ……ソレデアリマスカラ一ツガ選舉會ノ將來……

貴族院互選會ガ將來ドレ程ノ變態ナ來タスカト云フコトノ恐レガ一ツ、ソレカラ又知事ナリ或ハ管理者ニ隨分能ク御注意ナ願ハヌトキハ相當ナ理由ガアリマシテモ訂正ヲセラレナイト云フヤウナ事ガ出來ヤウト思ヒマス、其訂正ガ出來ナカッタト云フコトガ即チ貴族院ニ訴ヘル所ノ規定ガ設ケテアリマシテ争訟判決令ノ第一條ニ「資格及選舉ニ關スル」ト云フコトガアリマスカラ、選舉ニ關スルト云フコトハ……ソレカラシテモウチヨットノコトデゴザイマスガ、是ハ餘リ大キナコトデハアリマセヌケレドモ委託ノ投票ヲ持ツテ來タ投票委託ト云フコトノ爲ニ直チニ之ヲ無效ナリト云フコトニセラレタト云フコハ全然同意ナスルコトハ出來マセヌノデアル、如何トナレバ同一ノ選舉人ガ一人ヲ選ブノデアルカラ幾度選ンデモ投票ニハ同一人が書イテナケレバナラヌ、後トテ出來タカドウカ知リマセヌガ、此事實ノ表面カラ見マスト公ケニ是ハ(聽取シ難シ)是ハ少シク遺憾トスル所デアリマスルケレドモ、兎ニ角以上ノ事實ヲ以テ全然適法ノモノトハ言ハレナイカラ深クハ論ジマセヌガ選舉ノ結果ニ異同ナ生ゼヌ(聽取シ難シ)選舉ノ結果ニ異同ナ生ゼヌ限リハ構ハヌト云フノハ選舉權ダケヲ認メテ被選權ヲ認メナイコトニナラウカト思ヒマス、衆議院ノ如キハ選舉權ハ納稅額デ限りガアリマスガ、被選權ハ三十歳ニナレバ宜イノデアルカラ選舉權ハ別問題デアルケレドモ、此多額納稅者互選ノ如キハ共ニ同一ノ權ヲ持ツテ居ルノデゴザイマスカラ、此邊ニ就キマシテハ絶對的ニ……(聽取シ難シ)是ダケチヨット一言

(「討論終結」ト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛鷹麿君) 最早討論ハ盡キタリト認メマス

(「水野遵君發言ノ許可ヲ求ム」)

○議長(公爵近衛鷹麿君) 水野君ハ何デスカ

○水野遵君 先決問題ヲ提出シマス

○議長(公爵近衛鷹麿君) ドウ云フ先決問題デスカ

○水野遵君 今日ハ此議事ヲ延會スルト云フコトデゴザイマス

(「ノーノー」又ハ「採決採決」ト呼フ者アリ)

○斯波與七郎君 水野君ニ贊成

○男爵伊宗達敦君 反對

○議長(公爵近衛鷹麿君) 暫ク御靜ニ……御聽ニナリマシタ通リニ水野君ノ先決問題ハ即チ今日ハ此會ヲ延會スルト云フノデ、此延會ノ動議ニ附イテ採

決ナシマス、之ニ同意ノ諸君ハ起立ヲ請ヒマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 少數ト認メマス、ソレデハ本問題ニ附イテ探決シ
起立者 少數
マス

〔菊池武夫君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(公爵近衛篤磨君) 菊池君何デスカ

○菊池武夫君 探決ノコトニ就イテチヨット注意ヲ願ヒタイ、此表決ニ附イテ
ハ被告タル議員ハ意思ヲ表スルコトガ出來ヌト云フ規則デアリマス、是ハ多
分當人ハ心得テ居ラレルカモ知レヌガ、若シソレガ爲ニ議決ノ效力ガナク
ナツテハ遺憾デアリマスカラ御注意ヲ願ヒタイノデス

○議長(公爵近衛篤磨君) 被告當人デスカ

○菊池武夫君 ハイ

○議長(公爵近衛篤磨君) 被告ハ居リマセヌ

○菊池武夫君 居リマセヌケレバ宜シウゴザイマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 資格審査ノ委員會ノ判決ニ同意ノ諸君ハ起立ヲ請

ヒマス
起立 多數

○議長(公爵近衛篤磨君) 多數ト認メマス、委員會判決ノ通りニ決シマス、本
日ノ議事ハ是ニテ終リマシタガ、チヨット御協議ヲシマスルガ、此議會モ最早

大分日數ガ少タナリマシテゴザイマスシ、中ニハ其結果ニ依ツテ追加豫算ヲ出ス必要ノアル
モノモゴザイマスカラ、ソレ等ハ見計ツテ規則通りノ日限ヲ経ズシテ日程ニ載
セルト云フヤウナコトニ取計ヒタイト思ヒマスガ、御異議ハゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者多シ〕

○議長(公爵近衛篤磨君) 先刻來御委託ニナリマシタ委員ノ氏名ヲ御報告致
シマス

〔河田書記官朗讀〕

蠶種検査法改正法律案特別委員

伯爵大原 重朝君 子爵前田 利鬯君 柴原 和君
男爵杉溪 言長君 村田 保君 南郷 茂光君
森山 茂君 田村 耕平君 廣瀬 和育君

保險業法案特別委員

公爵徳川 家達君 子爵小笠原 壽長君 伯爵松浦 聰君

子爵入江 爲守君 男爵尾崎 三良君

渡邊洪基君 中村元雄君

富井政章君 子爵伏原宣足君

男爵南光利君 三木與吉郎君 佐藤喜八郎君

高橋喜惣治君

質屋取締法中改正法律案特別委員 伯爵徳川 達孝君 子爵相良 賴紹君

子爵松平 康民君

男爵寺島 秋介君 男爵西五辻 文仲君

角田林兵衛君

裁判所設立及管轄区域變更ニ關スル法律案特別委員

子爵唐橋 在正君 子爵大久保忠順君 男爵渡邊 清君

男爵中川 興長君 男爵島津 珍彦君

石井省一郎君

關義臣君 三田昇馬君 早川周造君

辯護士法中改正法律案特別委員

三好退藏君

公爵二條 基弘君 子爵本莊 壽亘君

菊池武夫君

男爵小早川 四郎君 渡 正元君

鳥越貞敏君

兒玉淳一郎君 最上廣胖君

午後四時四十七分散會

○議長(公爵近衛篤磨君) 次ノ日程ハ追テ御報道致シマス、本日ハ散會